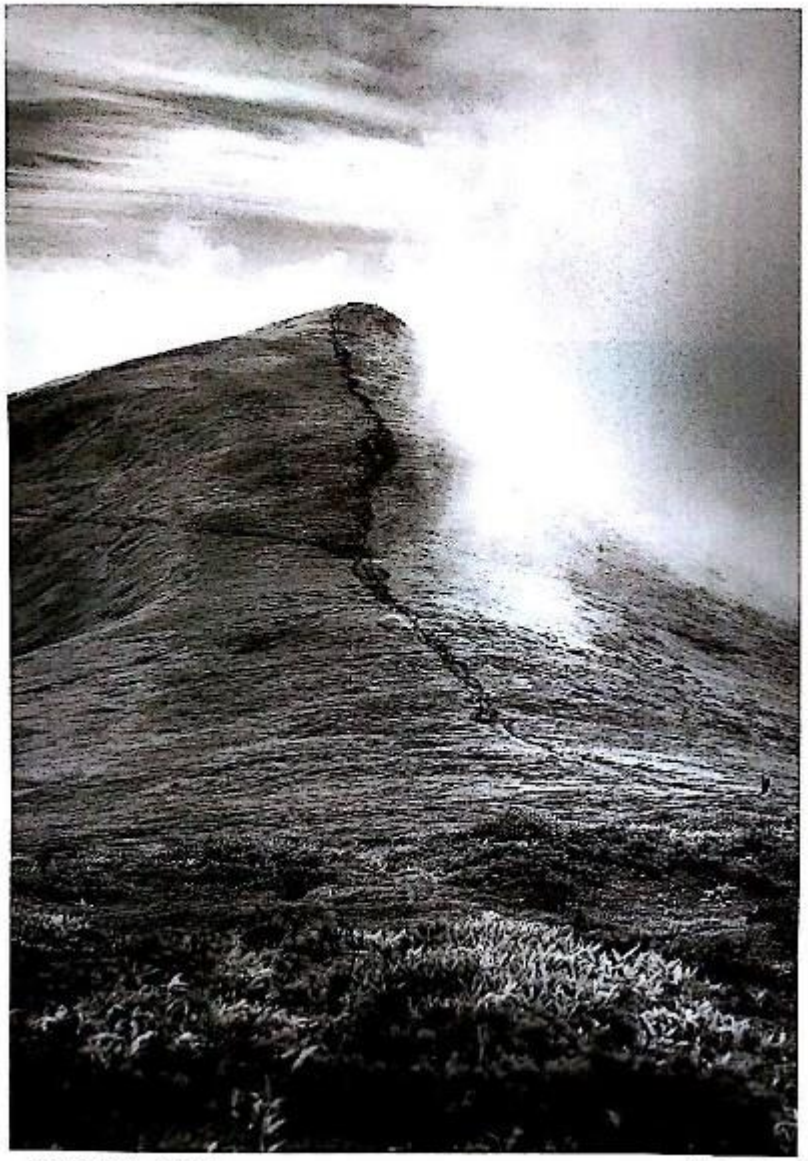


霧昇る平標山（谷川岳）　　松浦　隆康

新ハイキング選書

第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版／上製本／B6判 350頁／定価1890円　一等三角点の知識をこの一冊に収録

第6巻 **花の山を行く** 松本雪枝 著
3版発売中／上製本／B6判 358頁／定価1835円　山の花を訪ねての紀行文集

第7巻 **山旅素描** 足立真一郎 著
3刷発売中／上製本／A5変型判／定価1835円　山岳画家足立真一郎の味ある画文集

第8巻 **旅がらすの山** 冨田弘平 著
3刷発売中／上製本／B6判 368頁／定価1835円　高雅豊かな紀行文30編を収めた

第9巻 **一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/冨田弘平/松本清 共著
3刷発売中／B6判 336頁／定価1632円　一等三角点峰100座の紀行・案内文集

第13巻 **甲斐の山山** 小林経雄 著
改訂2版発売中／B6判 360頁／定価1680円　山梨県の山と峠を解説した古典的な書

第14巻 **百歳までの山登り** 冨田弘平 著
2刷発売中／上製本／B6判 360頁／定価1835円　高雅豊富な著者の紀行と随想集

第15巻 **日本300名山ガイド〈東日本編〉** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/横澤和嘉 共著
9版発売中／A5判 320頁／定価1680円　新ハイキングの指定5氏実地踏査のガイド

第16巻 **日本300名山ガイド〈西日本編〉** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/横澤和嘉 共著
11版発売中／A5判 320頁／定価1680円　地図・写真・コースタイム入りガイドブック

第17巻 **城跡ハイキング** 中山榧四郎 著
2刷B6判 354頁／定価1680円　歴史を訪ねる城跡ハイキング。紀行と案内の書

第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/冨田弘平/松本清 共著
2刷A5判 340頁／定価1800円　一等三角点の山100座の登山コースを紹介

第19巻 **山との出会い** 冨田弘平 編
B6判 320頁／定価1680円　山の随想集。55名が共筆の読物

第20巻 **一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判 310頁／定価1680円　第9,18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介

第21巻 **中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著
A5判 286頁／定価1680円　あまり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内

発行所 新ハイキング社　〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13　電話／Fax 03-3915-8110　振替 00130 9146915

●価格はすべて消費税込みです　●振替でのご注文は送料当社負担

Photo essay

秋の音

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

観月会（新薬師寺）

夏の火照りが冷めやらぬ肌の上を
秋の風がすべって行く
ほのかに照らされる堂塔は
どこか哀感がただよう
篝火のたてるくれないの煙が
闇の中にたなびき
燃えさかるただ中に落ち
一瞬に焼き尽くされてしまう
愛と憎しみ
怖れと憧り
歓びと悲しみのドラマ
混沌としたものが一つに固まる時
の凝固熱というものが
時を隔てて伝わってくる
少年の時への遥かな想い

浮御堂（奈良）

朱雀門（奈良）

季節の実景

初秋

撮影　武市通治

朝露

シオン

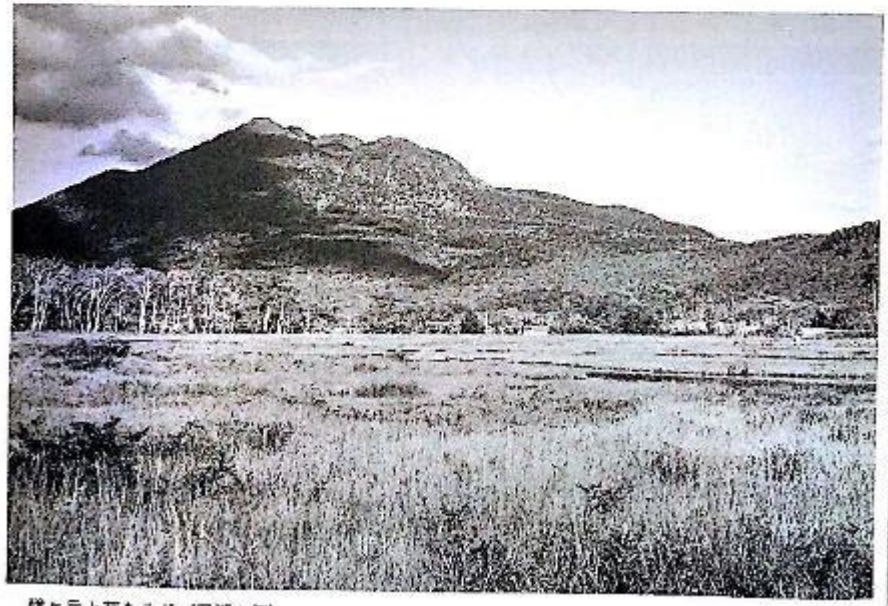
秋空

ヒガンバナ

コスモス

北岳より富士山（南アルプス）　　榊原　計国

雲海のかなたに秩父連山（八ヶ岳・根石岳より）　　中川　光郎



蓼ヶ岳と草もみじ（尾瀬ヶ原）　　森澤　元博

ススキの波（曽爾高原）　　中川　光郎

●目次

新ハイキング 8冊 関西の山
99年9・10月 初秋 第48号

表紙：松田敏男「塩見岳より夜明けの悪沢岳・荒川岳を望む」（南アルプス）

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳画に、山岳賞の受賞多数。（京都平安画廊、南アルプス絵画館、東京ギャラリー百号、他）
京都山と絵に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

●グラビア
秋の音……撮影 田井 収
手節の実験（初秋）「ヒガンバナ」他……武市 通治 4
（口絵）杉浦隆康 中川光郎 神原計国 森澤元博 奥田英一郎

随想（山のエッセイ）
「鈴鹿山」山名考……奥田 昭彦 10
山と虫……チョン・リムスン 12
四方山話（初秋の瑞鳳山行……芝野 泰明 14

紀行
空木岳へ（中央アルプス）……日野 節雄 16
飯賀岳（但馬）……多摩 雅雄 20
木曽駒ケ岳（中央アルプス）……松田 敏男 22
連載 日本霊山紀行（番外編）『上野国志』……浅野 孝一 26
浦生野と雲野山（京江）……木村 太郎 28
雲老山系（紀州）……鷲見 守康 32
木屋山（会津）……金谷 昭 36
連載 比叡を歩く（鈴鹿川左岸から滝山・トド岩）……秦 泰夫 40

●〈山のレポート〉高い山低い山……生駒 登峰 44
●海上の森1 一山口から観音山」……山口 清有 46
●1等三角点峰（500m以上）548座完登の記録（第15回）
北海道南部の山旅……坂井 久光 48
●北の山上「鷲峰山登山」……中村 敏文 51
●文学歴史探訪ハイク(49)「伊吹山に日本武尊を訪ねて」……松永 恵一 54

コースガイド
1 聖権現山（丹波）……西尾 寿一 58
2 霊母峰（紀南）……神原 計国 60
3 転法輪岳と大黒天神岳（大峰南部）……山形 誠之 62
4 かぶと山（史跡山）（湖北）……柴田 昭彦 64

沿線ハイキングガイド……68
サービステーション……72
せせらぎ……72
新ハイ関西山行計画と報告……77
バス時刻表（紀南）……94
編集後記・広告案内……98

巻頭言

「山頂の草も花も生き身だから、たちまち数らの登山靴にふみにじられて、その姿を消してしまうにちがいない。すると、深田は数の百名山を犠牲にすることによって、他のもろもろの山を救うことになるのかもしれない。百名山にもれたもろもろの山も、安心できない。山の雑誌や案内書が、追い討ちをかけているから。このようなご時勢を考えると、迂闊に口をすべらせて私の好きな山を発表できるであろうか。口を割らないというのが、私と山の約束である」これは、深田久弥『日本百名山』（昭和39年刊・朝日新聞社）に、深田氏のあとがきに続いて「名山考」と題された今西錦司氏の文章です。

だれでも、登った山のなかで人にもらせない内緒の好きな山があるでしょう。しかし、みんながこのような考え方で、山の雑誌やガイドブックが全然なかったとしたらどうでしょうか。昨今の中高年のハイキングブームでたくさんの案内書が登場し、私たちは大いに恩恵を受けています。小誌は関西の山を中心に案内しています。どうか口をすべらせて大好きな山を紹介してください。

新ハイキング関西（代表）村田 智彦

ちょっと寄り道 —信濃路に道祖神を訪ねる—

奥田 英一郎

小川村にて

修那羅峠にて

野倉（別所温泉）にて

「鶏冠山」山名考

柴田　昭彦

『日本山岳ルーツ大辞典』によると、滋賀県大津市と栗東町の境界に位置する鶏冠山の山名のルーツは、「山の頂が鶏のトサカのような形をしているところから」だという。しかし、トサカに似ているのならば、呼び方は「とさかやま」ではないのか、という素朴な疑問が生じる（鶏のトサカをケイカンと呼ぶからよいではないかという人もあるだろうが）。

最近は山名のルーツや読み方に対する関心が高まってきていて、先般、山名総覧も出版された。

角川日本地名大辞典『滋賀県』・『コンサイス日本山名辞典』（三省堂）・『山名・用語事典』（山と渓谷社）・『日本山名総覧』（白山書房）・『20万分1地勢図基準自然地名集』（国土地理院、平成3年）、および栗東町役場と大津市役所（地名調査への記載による）では、滋賀県の鶏冠山は「けいかんざん」という読み方に統一されていることがわかる。

清水俊明『近江の石仏』（創元社、昭和五十一年）には「雞冠山」とある（雞は鶏の異体字）。

アルペンガイド別冊『大阪周辺の山200』（山と渓谷社、1985年）を始めとして、最近の多くのガイドが「鶏冠山」と記載しているのは、公的機関の呼称を忠実に採用したものといえよう。

ところが芝村文治『京滋百山三角点を行く　上』（かもがわ出版、1992年）においては、鶏冠山は砥坂山から転じたものであり、「とさか山」と呼ぶのが正しいだろうと指摘している。

内田嘉弘『京都滋賀南部の山』（ナカニシヤ出版、1992年）では、「鶏冠山」と記載した上で、「とさかやま」と呼ぶのが妥当かもしれない、と記している。

今西錦司『千五百山のしおり』（1986年、全集別巻所収）を見ると「鶏冠山」と記載してあり、昭和四十四年（西年）の十二支登山で登っていることがわかる（『自然と山と』全集第九巻所収）。

『関西周辺ハイキングガイド』（実業之日本社、1979年）の仲西政一郎執筆のコースガイドでも、注意深く「とさかやま」という読みが採用されている。

「鶏冠山」の記載が地図に現れたのは、筆者の知る限りでは明治十九年軍製製版二十万分一図「名古屋」からであろうと思われる（以降の地形図も同様であるが、読み方は示されていない）。

北川舜治氏が『近江名跡案内記』（明治二十四年）を執筆された頃には、江戸期の呼称である「砥坂山」が一般的であったよ

随想（山のエッセイ）

うである。

『栗東の歴史』（第五巻、資料編Ⅱ）（栗東町役場、平成7年）には、鶏冠山が江戸時代には砥坂山と書かれていたことなどを示す文献が見られる。幾つかを紹介してみよう。

金勝寺所蔵の「金勝寺寺領境示絵図」は、天暦八年（954）の宣旨を絵図化したものとされ、その作成時期は中近世移行期（戦国～江戸初期）とする説がある。この地図には「砥坂山」と「砥取嶽」の記載がある。

砥坂山野をめぐり、新田開発を望む荒張村と、入会権を持つ鈎八ヶ村との間での争論についての文書を書写してまとめた「砥坂山覚書　鈎八ヶ村」と題した「井上正次家文書」がある。そのうちの、承応三年（1654）と延宝五年（1677）の文書には「砥坂野山」とあり、宝永二年（1705）のものには「砥坂山」という記載が見える。

宝暦二年（1752）の「先役より納取之覚」と題した小野村の庄屋役交替に伴う村政引継ぎ文書を列挙した「奥村吉胤家文書」には、「一金勝寺山年貢請取手形并鈎八ヶ村とさか山年貢之訳け書」があり、「とさか」という読み方が確認できる。

天保十四年（1843）の「往還頭鎮寺ニ付　村方明細帳　川辺村」と題した、栗太郡川辺村の村勢を記した「川辺元義家文書」には「一砥取山　みのこ山とも申」とあり、山麓の地名により、美濃郷山とも呼んだことがわかる。

以上のように、江戸期の表記は「砥坂山」であり、「とさかやま」と呼んでいたことが明確である。

現在のような「鶏冠山」の表記の確立は、二十万分の一図や地形図によるのであるが、その山名のルーツに関しては、『近江栗太郡志』（巻三）（大正十五年）の山岳志に的確に示されている。すなわち、「雞冠山は（中略）峯形雞冠に似たるを以て名く、土人之を控山といふ、又一に砥坂山の称あり此地砥石を出すが故なり」とある。

江戸・明治・大正期に「とさかやま」と呼ばれていた山が、昭和期のいつごろからか「けいかんざん」と呼ばれることが多くなったものと考えてよさそうである。

『日本山名総覧』によると、全国にある「鶏冠山」は次の五つである。

1 鶏冠山（巣川山）（山梨）
2 鶏冠山（山梨）
3 鶏冠山（長野・静岡）
4 鶏冠山（滋賀）
5 鶏冠山（和歌山）

1・4が「けいかんざん」、5が「とさかやま」、2・3は「けいかんざん（とさかやま）」

と公的機関では呼んでいるという。

辞書で調べると、「鞍冠」は通常「とさか」と読む。ワープロで「けいかん」と入力しても変換されず、「とさか」で正しく変換される。ただし、「けいかん」という読みも辞書にはあり、誤りというわけではない。音の響きからは、「けいかんざん」のほうが良い印象を受けるという特徴もあるかもしれない（しろうま）と「ほくば」の例もある）。

地名や山名の呼び方は、歴史的な呼称と、現在、一般的に用いられている呼称が食い違うケースがしばしば見られるようだ。

大森八四郎『最新　地形図の本』（同際地学協会）などで指摘されているように、地形図の記載の根拠となる「地名調書」の担当職員が地名に関する専門知識の持ち主とは限らないわけで、漢字表記をもとにして、歴史的呼称を考慮しないで通称名を採用することもあり得る。土地の古老が「とさかやま」と呼んでいても、若者は「けいかんざん」と読むことが多くなったのではないかと、筆者は考える。

公的機関での呼称はひとつの標準として有効であろうが、滋賀県の「鞍冠山」の読み方は、歴史的なルーツに基づいて、「けいかんざん」よりも今西錦司・仲西政一郎両氏が採用した「とさかやま」のほうが、理にかなっているのではないだろうか。

山と虫

チョン・サムスン

以前、年間の山行回数が二、三十回程だった頃、私は虫に好かれにくい体質だったようだ。

梅雨の入道ヶ岳（錦旗）で初めて山ヒルを見た。触手を上にのばしたヒルは狭い登山道をきっしり埋めつくしていて、トレーニングに参加した仲間は次々に吸われ血を流し、ヒルを取り除きながら歩いた。しかし、私は一度も吸われなかった。

私は韓国人で、日頃ニンニクをよく食べている。西洋では蚊除けにニンニクを使うほどだから、きっとそれが虫除けになったのだと思い込んでいた。ところが、山行が二倍三倍と増えていくに従い、虫に好かれる体質に変わっていった。

坂本谷（錦旗）にまだ雪が残

随想（山のエッセイ）

る頃なのに、歩き始めるともう虫が寄ってきた。虫除けスプレーを持参しなかったことを悔い、ハンカチで虫を払いながら歩いていたが、休憩のとき雪に遊和感を覚えた。鏡を覗くと上唇の真ん中に小さな水泡が見えた。単なる熱の噴き出しと考え、気にもとめなかった。

途中、単独で来たという男性と道連れになり、いろいろ話しながら歩いた。白頭岳近くになる頃、男性の言動が妙によそよそしくなり、峠での休憩後は先に出発してしまった。それでもあまり気にかけず、一人の山旅を楽しんだ。家に帰ると、名古屋の妹が遊びに来ていた。「お姉ちゃんどうしたの、その顔」と言うので、洗面所で鏡を見て驚いた。口の両端から鼻にかけての三角ゾーンが腫れ上がり、マンガのカッパの顔そのものである。これでは男も心変わりするだろう……。

ある夏の終わり、ラクをして山上ハイクを楽しもうと中央アルプスのしらび平に入った。ロープウェイの待ち時間が4時間以上というので、ラクは諦め、中御所登山口より千畳敷カールをめざして登ることにした。

ロープウェイが出来たため登山道は荒れ、橋は崩壊、倒木は道をふさぎ、登りも下りも一人も出会わない。高山植物は豊富でシモツケソウ・ウサギギク・キスゲなどに癒められた。

あとひと息でカールに出る所まで来たので、ホッとして汗止めのバンダナを少し直した。その時、視野に小さな虫が見え額が少し痒かった。気になる程でもなかったので、そのままカールに出て、胸つき八丁を登った。山小屋に入り、同室の人たちとの話もはずんで眠りについた。

次の朝、何だか目が開きにくく眼を見た。左目が腫れてつぶれかかっている醜女が現いていた。前日バンダナを締めた後に虫除けスプレーをかけたので、バンダナの下は虫除けゾーンから外れていたのだ。後悔先に立たず。気をとり直してバンダナで片目をおおうようにして捲きつけた。

木曽駒ヶ岳に立ち、「記念写真を撮むと「顔が良く見えない」と言われたが、「いい、いい」と返事して、濃ヶ池を廻り帰路に着いた。

夏に女二人で東北六座の山を廻った時は、同行してくれた相手が私より先に虫に噛まれてくれたので、私は無傷で終わった。「これからは貴女といっしょに山に行きたいわ」と私は言った。彼女はテニス・ジョギング・登山と、毎日活発に動く人であった。

私は一年中皮膚科と縁があり、医者に「先生虫に噛まれた時どうすれば早く治さますか？」と訊ねると、「虫に噛まれないこ

とだ」と言った。一ヶ月も通院しないと看護婦さんが「久しぶりですね」と言う。

今年も春から油日・那須ヶ原山の縦走で頭木をまたいだりくぐったりし、山ダニに十数ヶ所噛まれてしまい、また通院が始まった。

このような目に遭っても、私がせっせと山に通うものだから、「山は果てしない魅力があるんだね」と山をやらない友は不思議そうに言う。

四方山話(8)
初秋の瑞牆山行

芝野　泰明

残暑に身を持て余しているなか、「ミズガキ」という響きを聞くだけで生命が蘇るようです。私は、深田百名山の一つというよりも、JR小海線の車窓から見たその岩峰が、その鋭さを通してゆくのに強い印象を持っていました。

昨年10月、出発日には二つの台風が接近しつつありましたが、観測測を見る頃から好天が期待できそうな青空になりました。貸切バスは中央道の須玉インターから急勾配のS字カーブを勢いよく走ります。増富からは深い森林帯を通り、宿泊予定地の瑞牆山荘（標高1500m）に着きました。

簡素な木造二階建で、周辺は高い樹木に囲まれ、季節を先取りしたような涼味を漂わせていて、早くも静かな休息の季を待ちうけているかのように思われます。浴槽には熱い湯が溢れ、下足棚が汚れていないことから、掃除が行き届いていることがうかがえます。鉱付きの個室もあり、消灯も21時と現在のニーズにかなっているようです。

夜は一室13名のざこ寝なので寒くはありませんでしたが、標高が高く、早朝の戸外はさすがに初秋でも寒さを感じました。

アタックザックで身軽に6時半出発。山荘のすぐ前が登山道の入口です。

鼻孔から頭の隅々まで行き渡る清気を胸一杯にして進みます。明瞭がうっすらとかかった森は、紅葉には少し早いようですが、シラカバの木肌の白さが浮き立っています。ピーク1722mの少し下のあたりで、ミズナラの巨樹が枝を大きく広げて私たちを迎えてくれます。左手の樹間に城砦のように堂々しい瑞牆山の岩稜が見え隠れしています。この山の奇観は釜瀬川の浸食と風化によるものだそうです。

約50分程で富士見平に着くと、樹林が開けて眩しいほどの青い空に富士山がシルエットとなって雲海の上に望まれ、いっせいに感嘆の声が上がります。ここの避難小屋は木造ながら頑丈で

随想（山のエッセイ）

トイレは新築。明るい日を浴びて頑もしげに建っています。

まっすぐ東へは飯森山を経て金峰山に到る道で約5時間。瑞牆山へは左の道、飯森山の西北面を巻くように進み、いったん天鳥川にくだります。長雨の後にもかかわらず沢の水は澄んでいました。

健脚組と牛歩組に分かれ、いよいよ迂続急登への挑戦です。桃太郎岩を左に見て鉄製階段を登ります。登山道はとくに登路とはいえないのですが、その勾配は等高線の混み具合が急なことを証明しています。赤の矢印に導かれ倒木を避けて高度を稼ぎます。花は無く、ナナカマドの赤い実が撒いたように下にこぼれ、岩隙に真紅のテングダケを見つけました。私はリーダーに励まされ、ようやく先頭集団から20分遅れで頂上の岩に立つことができました。

すばらしいパノラマです。南方左手に金峰山の大きな山塊。中央には御坂山地の上にのぞいた逆光の富士山。右方には甲斐駒ヶ岳から始まる南アルプスが北岳を盟主として白根三山から荒川三山までのびています。西方を見ると遠く御嶽山が、そして主峰赤岳にかしずく八ヶ岳連峰。その右奥に後立山連峰。北へ廻って薬師・黒斑と広がる高峰高原。さらにその上に顔を出しているのが、妙高・黒姫等の上信国境の山々の揃い踏みです。

広くない頂上で、次々と到着する登山者に席を譲るのが惜しまれます。予定通り10時下山開始。険しい岩場の往路を慎重に戻りました。このような好天でも周囲の山々は昼頃にはすっかり雲間に埋まり、早朝の幸運を喜び合いました。

ミズナラの巨樹の下でパーティ全員の記念写真を撮り、登山は無事終了しました。

今回もパーティ諸氏の激励によって、頂上を踏めたことに無上の幸福を感じています。因難は努力と気力で克服できます。しかし、それができなかった時、そこが自分の限界だと知ることでしょう。

帰途、村営「増富の湯」で汗を流し、冷たいビールで満足の極みに達し、健康に感謝しました。

（平成10年9月20～21日歩く）

中央アルプス

中小川沢道から三百名山二座を越えて

空木岳へ

日野節雄

足の使を考えると、一人で行けそうでなかなか行けない空木岳。人柄のAさんが二つ返事で同行してくれることになった。その上美人のFさんつきとなった。

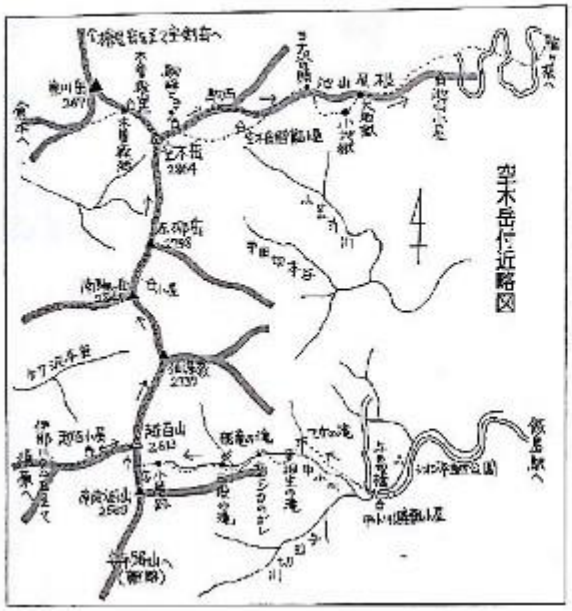
一段に木曽駒ヶ岳から宝剣岳の岩場を越えて、木曽殺山荘に泊まり、空木岳からは、池山尾根をくだる人が多い。私は、中央線の大曲駅からタクシーで伊奈川ダムへ行き、登山道がよくなったと聞く越百新道を登って、空木岳から池山尾根へと、中央アルプス横断を計画したが、「中小川という沢の遡行がおもしろいよ。距離も短かいし」とAさんが言うので、私が歩けるならと同意した。結論からいうと、なかなか手強くスリルがありおもしろい。しかし、あと5年もすると廃道になるのではないかと思えるほど、鎖・梯子・ロープ・トラバース桟道は傷んでいた。大雨の後や雨の日は増水で歩行困難になり、下山時には急で滑りやすいので、使わないほうがよいと思う。

新宿駅から夜行のJRで辰野駅へ。乗り換えの待ち時間が70分あるが、ベンチには一人ひとりの座席に手すりがついていて、横になれない。待っていたのは私たちだけだった。朝6時、飯田駅に着くと、予約したタクシーが待っていてすぐ出発する。中小川避難小屋の少し先で降ろされた。一人客を乗せた先行の車は登山口まで行ったというが、無線で「車の腹を擦るから」と連絡があったからだ。たしかに道はえぐれていた。後で分かったが一人客というのは越百小屋の叶女史で、12時に小屋に着いたというから超健脚の美人小屋番だ。与田切橋を渡り25分で左に入る登山道に出た。左手奥に道標があった。まずは腹ごしらえをする。

クマザサの広く切り開かれた左岸を行くと左手に大きな岩壁が見える。それが

宝剣ヶ岳より空木岳

乙女の滝の対岸で、右奥の細い滝の下を鎖を使ってくだり気味に横断する。スタンス（足場）があるからラクだ。相生の滝は左手をよじ登る。そこから赤・白のペンキやケルンに導かれて右岸左岸と行くが、石が滑る。「カモシカのガレ」と岩壁に書かれている所は落石しやすい。



登りきってふり返ると「カモシカ落し」とある。次は右手の梯子を登り、山腹に付けられた長い桟道の横水を、一つ一つ慎重に登って行く。腐って今にも落ちそうである。落ちそうといえば、ササの刈り開きはありがたいが、そのササが岸の上に敷かれていて、危うく踏み抜いて落ちるところだった。

難所が一段落すると対岸に鉄塔の道が爽快に見え、三段の滝は左（右岸）を捲く。

2200ｍ地点の沢のほとりで昼にした。Aさん持参のアルファ米は、初めてだがけっこういける。沢の水もうまい。ここから沢を右に左に渡って登り、沢から離れて水音が小さくなった頃、越百小屋跡に出る。深田久弥はこの小屋が出来た時、この沢を登って泊まったと書いている。昭文社地図の水場印は、ここまで戻る途中の沢水のことだ。急登10分で稜線に出た。南越百山へハイマツ帯を行き、戻って三百名山の越百山3等三角点に触れる。曇っていて遠望は利かない。

西側はるか下方に赤い屋根の小屋が見える。その越百小屋は7年前から岐阜の伊藤さんが管理していると聞いたが、気持ちの良い人だった。豆からひいてコーヒーを出してくれるのだから凝り性だ。砂糖もミルクも付いていない。水は今年からポンプアップしている。サービス向上のため来年からは予約制にし、テント・シュラフの貸し出しもしたいと話してくれる。

日没後、燃え上がるような稜線が恐から見える。むかし見た東京大空襲の夜空のようにすごい。望遠鏡で見ると日没のいたずらで、この神秘的現象は一瞬にして終わってしまった。

夜中3時、外に出ると月が煌々として星が見えない。けれどオリオン座は輝やいていた。

越百山への登りで見ると、左に御嶽が大きく雲海に浮かび、乗鞍岳・笠ヶ岳・

越百小屋

絶高所もそれと分る。恵那山は小さくて可愛い。山頂に着くと南アルプス全山が一直線に見え、ご来光が終わったばかりだった。鋸岳から聖岳まで同定できる。富士山も顔を出している。南アルプスから見る中央アルプスは、迫力に欠けていたが、今見ている南アルプス連峰は一生忘れることのない景観となるだろう。逆光でその美しさがカメラに収められないのが残念だが、これだから山はやめられない。

ハイマツ帯のなかを幾つか登降して仙涯嶺へとたどる。伊藤さんから「ぜひ登ったほうがいい。右側から登り、往復すること」と言われてきたのに、左下に鎖があり、チョイチョイとくだってしまった。「鎖の手前を右へ登るように」と私の行程表にも書いてあったのに失敗した。大分歩いてから、時間がかかり過ぎているので気がついたが、戻って登り返すほどの若さはない。

南駒ヶ岳へは稜線漫歩。先程までの景観もすっかり雲に隠れてしまった。ここで大休憩。二百名山だから。縁に5円玉をあげて、「ご縁がありましたらまた来させてください」とお参りしていると、単独行の二人が来た。次いで三人連れが何も持たずに来る。話がはずんで「駒峰ヒュッテに泊まりませんか」と盛んに言う。「オーナー?」と訊くと「それに近く、今夜の管理人だ」と連れの人が言う。予定は木曽殿山荘で、母娘が先日テレビに映り、気分の良い女性との噂も聞いていたので、ぜひ泊まりたいと思っていた。その上Aさんは、伊藤さんに勧められた木曽最北方の檜尾根をおりようとしている。結局最後はラクなほうの誘惑に負けて「泊まります」となってしまった。二食付き5000円も効いた。

赤梛岳への途中、右下の崖の上に建つ避難小屋が見える。きょうもAさん持参の昼食。ホタテとキノコのスパゲッティと、ミョウガ・玉ネギ・塩漬イカのサラダといった贅沢さだ。

赤梛岳から見上げる空木岳は、ぐーんと伸びた大変な登りのように見えたが、登り始めればたいしたことはなかった。雲が流れてゆく山頂まではゆっくり登っても1時間だった。

久恋の空木岳の山頂は岩と砂で広く2等三角点（2864m）のある百名山だ。位がいもなくVサインの写真を撮り、展望を待ったが無理だった。大学ワンダーフォーゲルのグループが木曽駒から来たが、ビール一缶で五人共ダウンして寝てしまった。心身を鍛えているわれわれは、座ることもしないで山を味わっていた。

眼下5分の所にある駒峰ヒュッテは、今年7月新築の、木の香漂う二階建ての広々とした小屋だ。先程の三人は駒ヶ根市の市役所の元仲間で、厚い友情に信州人らしさが感じられ、とても良い人たちだ。オーナー格の福沢さんが「今夜は宴会だ」とうれしいことを言ってくれる。一人は台所に立って、昨日採ってきたというキノコで料理を作っている。その香りに誘われて私が飲み始めると、六人が集まって楽しい夕餉となった。私はこういうのが大好きだ。だから山はやめられない。外に出ると夜空は天の川。下界は灯火ではなく、光の川となって見える。

駒峰ヒュッテは駒ヶ根山岳会が管理している。7月20日頃から8月一杯は管理人がいる。その前後は土・日・祝日の前日に入るという。いない時は3千円を箱に入れる。水は天水。いない時は水はない。便所はビニール袋へ。袋は120円で、下界におろしてくれる。登山者がどこまで守ってくれるかが問題である。

下山の池山尾根コースはここから二つのコースに分かれている。空木避難小屋コースというよりも、お花畑を過るといったほうがよいコースは小屋の上20mから左に入る。一方の駒石コースは小屋の裏に廻る。昨夕ここでキツネを見た。今回は駒石コースで下山。歩きやすい広々とした道で、自然と歌が出る。ヨナ沢の頭まではよいが、ここからは小地獄・大地獄と続き、場了・頭・桟道の連続だ。よく手入れされていて危険を感じる所はない。カラマツ林のゆるい道となり、池山分岐に水場がある。

ここから林道歩きとなるが、右下に池山小屋を見てから、林道を横切る登山道があるので、これを探して歩くと大きな屋根と池が見えてくる。スキー場の脇を通って、駒ヶ根市街とロープウェイのしらび平とを結ぶ道路の大駐車場に出たら、左へ5分で早太郎温泉「こまくさの湯」がある。ここからバスでJR駒ヶ根駅、または高速バスターミナルへ出る。

（平成10年9月8～10日歩く）

＜参考タイム＞

〈一日目〉新宿駅23・50（電車）辰野駅3・39～4・53（電車）飯島駅5・53～6・05（タクシー）シオジ平自然園6・30―登山口7・00～40―カモシカのガレ10・00―飛竜の滝見台11・00―2200m地点11・55～13・00―越百小屋着14・00―稜線14・10～40―両越百山14・50～15・00―越百山15・20～30―越百小屋16・00（泊）

〈二日目〉越百小屋5・50―越百山6・40～7・00―南駒ヶ岳9・45～10・35―赤梛岳11・10～12・25―空木岳13・25～14・00―駒峰ヒュッテ14・05（泊）

〈三日目〉駒峰ヒュッテ6・00―池山分岐6・50～9・00―大駐車場10・30―こまくさの湯10・35～11・50（バス）駒ヶ根高速バスターミナル12・10～13・00（バス）新宿駅16・50

＜費用＞

東京山手線内＝飯島駅　4620円
新宿駅＝辰野駅（急行券）　1260円
飯島駅＝シオジ平（タクシー一台）　3620円
こまくさの湯＝駒ヶ根（タクシー一台）　2260円
駒ヶ根＝新宿（特急バス）　3650円
越百小屋　1泊2食付き　7000円
駒峰ヒュッテ　1泊2食付き　5000円
こまくさの湯　（入浴料）　500円

＜地形図＞

昭文社＝「木曽駒・空木岳」
2万5千＝空木岳・赤穂・安平路山・伊那大島

＜連絡先＞

飯島セブン自動車（タクシー）　0265（86）3145
高速バス駒ヶ根センター　0265（83）0007
越百小屋（伊藤宅）　0572（57）8248
駒峰ヒュッテ（池山宅）　0265（85）2211
こまくさの湯　0265（81）8100

明快・好望

蘇武岳

多摩雪雄

但馬

山陰本線江原駅北西の但馬国分僧寺跡を訪ね塔跡を見る。金堂・中門・回廊と溝の一部が発掘され、土器、木簡、鐸その他を出土したが、現在は住宅地となっている。日高町役場所在地に「国分寺」と記入してあるのは町名で、寺は無い。

日高町役場から482号線を西行すること4・5㌔、村岡図幅に入った野巣落のはずれの林野を開墾して、植村直己記念公園及び記念館を建設中で、本年中には完成の予定である。その外郭にGPS（電子基準点）950646点名・兵庫日高を確認する。

植村さんは小・中学校を日高町で学び、長じて登山家・探検家として名を成したが、惜しくも先年物故した。彼の生家は円山川を鶴岡橋で渡った上鶴集落にある。

一つ南の八鹿駅から小佐川沿いの県道を西へ18・6㌔、村岡図の妙見の大杉に着く。国の天然記念物であったが、この夫婦杉は惜しくも平成三年9月の台風19号によって根本から倒壊し、同時に40本もの大杉が倒れた。

切妻の神社建築様式の保存館に根株が展示してあり、ヒビ割れた径2尺の上部材が保存館の脇に根株と支えて置いてあるが、目避り11尺の本体には及びもつかない。

それらを見下ろす位置に国の重要文化財に指定された丹塗りの三重塔があり、均整のとれた美麗さには目を見張るばかりであった。

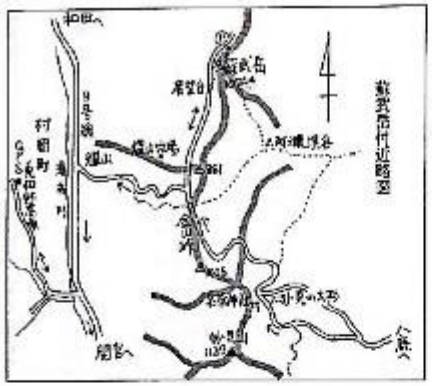
石段を登って行くと石垣から迫り出すように造られ、中央が通路になっている御拝殿は元禄元年（1688）建立で、宝暦四年（1754）建立の本殿と共に県の文化財で、精巧な彫刻が見物である。

蘇武岳山頂

ここは妙見山の中腹、標高800㍍地点。名草神社（別名妙見社）といい、名草彦命、天御中主命他七神を祭祀する。

一段下には平屋建ての大きな神宮住居兼社務所があり、四駆が前庭に駐車してあった。

妙見から7・2㌔走り、金山峠北の村岡への下山車道を確認してからなおも3㌔で、休憩舎と展望台とトイレのある広場に着く。ここは蘇武岳頂上への南登り口で、稜上道の被った草を分けて0・7㌔で三角点に達するが、きょうのリーダー兼ドライバーの秋村は先年踏査しているので、そのまま西腹を巻いて1㌔北行し、頂上の北側に出た。新設の指導標があって、そこに車を止める。ほんのわずか登った稜道を西行してから、西に急登すると蘇武岳1等三角点の頂上に達した。



一本とてない草地の広場からは、360度の大展望が得られる。三角点標石の北側に太い天然木の束側を削って「蘇武岳山頂　標高一〇二四・四㍍」とあり、南側には日高・村岡両町設置の周辺山地の展望盤が、識別かないような配慮からか地面を平らに設置されていて、20万図片手にあれこれ指呼できる。

きょうは一点の雲影もない大快晴。コーヒーブレイクと洒落こんで長い間去り難い頂上であった。

村岡郷山に車道をくだって9号線を南走。途中兎和野高原でGPS950341点名・村岡を探査（往復9㌔）の後、関宮から東行して出石・但馬竹田・福知山図に入って氷上町常楽の十字路（信号あり）まで60㌔。以後西行して葛野川から沿住谷川左岸道を北行し、清住集落どんづまりの溜池際の町営「やすら樹」に投宿（ここまで要所に指示標あり）。

ここはぜったいおすすめの優宿である。新築で、夜具、浴室、料理、係員の応待、清掃等すべてよい。翌日は、氷上町の名所観光を兼ねて粟鹿山をやる予定である。

（平成11年5月中旬歩く）

《参考タイム》

但馬国分寺跡13・00（車）植村直己記念公園GPS13・15～25（徒）名草神社14・15～55（車）展望台15・20～30（車）北登り口15・35～40—蘇武岳15・50～16・20—北登り口16・30（車）兎和野高原GPS17・20～30（車）氷上町やすら樹19・00（泊）

《地形図》

5万—出石・村岡・但馬竹田・福知山

《参考》

私の知る限り、蘇武岳の記録は一一等三角点研究会」会報の昭和63年版にある竹田善英さんが阿蘇渓谷からピストンした一編だけで、登山人口が多いとは思われないのに、無謀な欠落の1等標石であった。

《旅館》

氷上町営「やすら樹」

☎0795（82）0678

静かなアルプスを求めて

木曽駒ヶ岳

松田敏男

中央アルプス

山岳観光地である駒ヶ岳のロープウェイがリニューアル工事のため一年間休業という情報を得て、私は98年の夏は木曽駒ヶ岳に出かけた。登山者の少なそうな北方稜線をたどり、稜線より少しはずれた茶臼山への往復では全く人に出会わず、またコマクサの咲く西駒山荘のテント場は私ひとりテントを張って一夜を明かした。

そんな思い出深い山行をしたちょうど二ヶ月後の10月、今度は私の所属する山の会で似たコースの計画が立てられた。わずか二ヶ月後ではあるが、山は秋、色真っただ中、全く違う表情で私を待っているはずだ。ふたつ返事で参加することにした。

入山は二ヶ月前に下山コースに選んだ黒川渓谷。夏はひとりだったので黒川沿いの林道をえんえんと駒ヶ根橋まで歩いたのだが、今回は車に乗せてもらっての山行なので、宮田高原のキャンプ場へくだる。メンバーは夏とはうって代わり、リーダーの時高さんをはじめ三宅さん、保田さん、高橋さん、明石さんと私の六人。たいそう賑やかだ。

宮田高原でテントを張り、翌朝7時前に出発。清々しい秋晴れである。黒川沿いの道は広河原あたりまでは広々とした道で植林もあり平凡な風景が続くが、伊勢滝山会からは自然林のなかの登山道となって、秋の彩りが心を浮き立たせてくれる。

黒川沿いの道より（馬ノ背の）無名峰を望む

うどん坂の分岐からそのまま黒川の谷をつめて稜線へ出る道のりが、私にとっては初めてだったので、ここが今回の山行のハイライトだ。谷の奥のほうに見慣れない形の山が見えてきた。美しい形だ。いろいろ山の写真を見ているから、行っていない所でも「ああそうだな、こんな風景なのだな」と思ってしまうことがよくあるのだが、今は違う。あの山は何だろう。木曽駒なのか。まわりの樹林の山とは全く違う高山の表情が背景に映えて見事だ。ハイマツの緑のスロープ、その間のガレた谷の白さとの調和。名前の確認よりも感動だ。感動が先だとは思いながらも、分からないことでは落ちつけない私は、地図を広げる。どうも馬の背の一角のようだが、あんな山の形をしていていいのだろうかと思うほどに謎めいているのである。謎めいている山はことのほか美しい。上流に登るにつれ、その山の左側に一段と高い山が見え始めた。たぶんそれがほんとうの木曽駒ヶ岳だろう。

馬の背へ登る道と宝剣山荘へ登る木流沿いの道との分岐に着いた。私たちは右の勾配のあるほうへ進む。夫婦ノ滝を通過。がぜん高山的雰囲気になった。岩と岩と小さな流れにダケカンバの林が雄然一体となった極上の山上庭園だった。写真ではどのように切り取ってもこの細やかにして親しみの雰囲気は表わせない、別天地だった。「いい所へ来たものだ、いい所へ来たものだ」という感慨が湧きあがった。

濃ヶ池と宝剣岳

最後はジグザグに登って馬の背の一角に出た。すぐに濃ヶ池へのトラバース道に入る。久しぶりの濃ヶ池は、西日を池の水面のさざ波に光らせて印象的だった。

来た道を戻って馬の背を登る。謎だった山を今登っているはずだが、あまりくだることもなくいつのまにか本峰への最後の登りとなる。やはり謎めいた山だった。見る角度によってこんなに印象が違うのかと感心する。

本峰頂上は現代化した地面や岩角が登山靴との摩擦でくたびれていた。四囲の山の色も二ヶ月前とそんなに変わらず、また目にたこができる程見慣れた観光写真的風景だから、まあ感動も感札的といった感じでキャンプ場へ向かった。

夏は二張くらいだったキャンプ場も、きょうはその倍以上の賑わいだった。一人600円という法外な大金を払って二張テントを張った。

次の朝まだ明け切らないうちから時高さんはテントを出て行ったようだ。私は眠くて、明けゆく高山のテント内のひとときを気分よくむさぼっていたが、あちこちから出発の準備の音が聞こえ始めると落ちついて寝ている気分になれず、テントを開けた。深い青い空が広がっていた。

朝食の準備を始める頃に、南アルプスのほうから太陽が出そうな輝きが急激に始まった。時高さんが左手遠くでカメラを三脚に据え付けて身構えている。あそこだと思って駆けて行くとちょうど日の出にぴったりで、日の出シーンをカメラにナイスキャッチできた。

まわりの岩肌に陽が当ってくるのを眺めながら、浮き立つ気分で朝食を済ませ中岳へと向かう。見慣れた景色だが、空気が澄んでいるから気分は最高だ。宝剣岳の右裏に空木岳と南駒ヶ岳が淡い風格で頂なっている。ふり返れば雄大な御岳。宝剣山荘の前に荷物を置いて、宝剣岳に向かう。快晴のなか、ひんやりとした岩の感触が心地よい。狭い頂上ではすでにたくさんの人が憩っていた。私たちも記念撮影をし、四囲の山岳風景を撮ったりして楽しんだ。

下山コースは二ヶ月前と同じで、伊那前岳経由の道である。この道は南アルプスを前方に見ながらのコースで、二ヶ月前に初めて歩いて大好きになった道だ。例年とはうってかわって人気のない千畳敷カールへの分岐を過ぎ、伊那前岳への尾根道になる。二ヶ月前は宝剣岳が雲のなかで残念だったが、きょうは快晴。くっきりと鮮明に宝剣岳の岩峰が望まれた。木曽駒ヶ岳の本峰やきのう歩いた馬の背に濃ヶ池などもはっきりと望めて、麗しい秋の彩りが鮮やかだ。

最高点の和合山は南側をトラバースしたが、次の小ピークの三角点へは踏み跡をたどって上がってみた。南アルプスが正面に一直線に並んで見事な眺めだった。小さな三脚を岩の上に立てて、絞り込んでレリーズシャッターを押した。きのう以上の秋晴れで、今回の秋の木曽駒ヶ岳山行は大満足である。この尾根の最後の展望地の突端へ、登山道からはずれて岩角を拾いながら行ってみた。ここが早めの昼食場所となった。南アルプスや、あまり親しく眺めることのない角度の濁沢大滝に檜尾岳、そしてその奥の空木岳などを眺めながら、楽しくまた賑やかに昼食をつくりコーヒーでしめくくった。

登山道へ戻る頃には、私たちの休憩を見て他のパーティもやってきた。ハイマツ群を急降下してダケカンバ林に入る。赤味を帯びた枝の間から青いシルエットの南アルプスが美しく望まれた。右に横手道への分岐前の小さな広場の小屋場を通過し、雛長い一丁ヶ池の右を進む。そのあとくだりにくだった台地がうどんや峠。ここは空木岳の最後の展望地。少し休憩して左側へ黒川渓谷へと急降下した。黄色く色づいた葉が日差しを透かして美しく光っていた。丸木橋を渡ると登りの道に合流した。

宮田高原に上がって行くと、カラマツ林の間から、甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳・北岳などが淡く高く望まれた。

（平成10年10月10日～11日歩く）

伊那前岳への道より木曽駒ヶ岳

◇コースタイム◇

宮田高原（8時間）木曽駒ヶ岳キャンプ場（5時間）宮田高原、濃ヶ池往復、宝剣岳往復を含む

◇地図◇昭文社『「木曽駒・空木岳」

―〔この花・この草〕―

オミナエシ（Patrinia scabiosaefolia Fisch）

オミナエシ科

秋の七草（萩・桔梗・葛・撫子・女郎花・藤袴・桔梗）のひとつ、オミナエシは双子葉植物合弁花類の多年草。北海道から沖縄まで、日本各地に分布。開花期に根をつけたまま収穫し、水洗いした後、陽乾する。

中国名を黄花敗醤といい、乾燥中に醤油の腐敗臭がすることに由来している。オレアール酸・ヘデラゲニンなどのトリテルペノイド・サポニン・ステロール類などを含む。薬効は消炎・浄血・鎮静・鎮痛等。腫瘍慢性のはれもの・浮腫・帯下・産後の腹痛・子宮出血等に応用される。若芽や葉は茹でた後、水にさらせば食用可。

一方、白花・茎太で毛の多いオトコエシ（女郎花）がある。黄色いオミナエシを華花、白花のオトコエシを米花と呼び、女郎花合せ」をご存じでしょうか。和歌を添えたオミナエシの花を持ち寄って比べ、優劣を競ったとか。初秋の野山を歩く時、平安人のそんな心に思いを馳せてみては？

山と高原地図シリーズ

定価750円（税込）

※利尻・礼文・知床・阿寒（刊行予定）
2 ニセコ・羊蹄山
3 大雪山・十勝岳
4 十和田湖・八甲田・岩木山
5 八幡平・岩手山・秋田駒
6 蔵王・月山・朝日
7 飯豯・吾妻・安達太良
8 尾瀬
9 那須・日光・男体・白根
10 筑波山
11 奥秩父・雲取・甲武信
12 奥多摩・御岳
13 日光・高原・男体・白根
14 奥武蔵
15 越後三山
16 谷川・巻・武尊・赤城
17 北関東・草津
18 妙高・戸隠
19 越後・浅間
20 霧ヶ峰・蓼科・八ヶ岳
21 西上州・妙義
22 奥武蔵・秩父
23 高多摩
24 大菩薩連嶺
25 奥秩父・甲武信・雁坂・国師
26 奥秩父・金峰山・甲武信
27 高尾・御岳
28 丹沢
29 箱根
30 伊豆
31 富士・富士五湖
32 八ヶ岳・蓼科
33 美ヶ原・霧ヶ峰
34 北アルプス地図
35 白馬岳・北アルプス
36 黒部峡・黒部渓谷・北アルプス
37 槍・立山・北アルプス
38 上高地・乗鞍・穂高・北アルプス
39 乗鞍高原・北アルプス
40 御嶽山
41 中央・南アルプス地図
42 木曽谷・空木岳・中央アルプス
43 甲斐駒・北岳・南アルプス
44 塩見・荒川・聖岳・南アルプス
45 白山
46 雲仙・阿蘇・九重
47 富士・箱根・伊豆
48 比良山系
49 京都北山
50 京都北山
51 京都西山
52 北陸の山々
53 六甲・摩耶・有馬
54 琵琶湖・二上山
55 金剛山・葛城山
56 紀伊半島
57 大台山系
58 大台ヶ原・大杉谷・高見山
59 奈良・飛鳥・吉野
60 氷ノ山・扇ノ山・鉢伏
61 大山・蒜山・鳥取
62 四国剣山
63 石鎚山
64 瀬戸内の山々
65 九重・阿蘇
66 祖母・椎
67 屋久島・種子島
※真鶴・湯河原（刊行予定）

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいますようお願いいたします。
※昭文社の「山と高原地図」へのご質問・ご意見などございましたら、編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また新情報等お教えいただければ幸いです。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代)〒102-8238
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23 電話06(6308)6721(代)〒532-0011
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・新潟・金沢・静岡・名古屋・京都・広島・福岡

連載

日本霊山紀行　番外編（補遺）

『上野国志』

毛呂権蔵著

浅野孝一

国家というものは国内が安定してくると、必ず歴史書とか地誌を作るものである。徳川幕府も江戸中期以後、武蔵・相模の地誌編纂事業にのり出してくる。幕府地理局は幕臣間宮士信等に命じてまず地誌編集の準備文献をあつめさせ、「編修地誌備用典籍解題」を作成した。

毛呂権蔵（1723～1792）は上野国新田郡世良田（群馬県新田郡尾島町）の人で、名は義縛、念往と号した。家は農業であったが、そのかたわら多くの文献を読み、書籍を蔵して地誌を作成した。著書に著作目録が付されている。それ等の目録の中から、現在の私たちはさらに必要となる書籍を中央や地方の図書館に問い合せて借用できる大変便利な世の中になった。

例えば『上野国志』の「附録二念往翁謄寫書籍目録」の解説には『左に掲ぐる所の書籍は、念往翁が生存中に、自ら書寫せられたるものにして、其多くは国志編纂の参考に供せしものなれば其題目を茲に附記することゝせり、尚ほ他人の手を借りて謄寫せしもの百餘種あれども、そは略す。』と記している。

参考とした書籍数は実に百七十七にのぼっていて、この国の研究には欠かせぬ資料となっている。「甘楽多野緑野三十三處大悲堂之偈」「六國史上野之事蹟抄出」「上州聞書」「上野国郡村故事」「上野郡村石高記」等々の文献のあることが示されている。

この著書は富田永世の『上野名跡志』に先だつこと約五十年前に著作されたが、世に出たのは明治になってからなので富田に対する影響はなかったものと考えられるが、記述の中にその経緯の跡が現れてきている。本著作の原本は国立公文書館（旧内閣文庫）にて見ることができる。

富田永世にしろ、毛呂の場合にしろ、共に個人の仕事であった。著作に労した努力や金銭的なものは、はかり知れないものがあったと考える。

例によって『上野国志』の中の山岳に関する部分を抄出してみる。まず「赤城山　数峯群聚、總稱赤城、（峯巒之名一々記之）黒檜山赤城最高峰也、神祠あり、（此山を千眼と云ふ、千手千眼なり、別當は荻原の普賢寺、天台宗なり。）荒山在地蔵嶽南、……鋼割山（在荒山西南、）地蔵嶽（在大沼南、山上有小祠、安置銅像地蔵、長二尺餘、以銅釜鑄匠）鈴掛……」等々。また山中の「赤城神社　山上の社なり、大沼の東涯にあり、社を大堂と云、……」とも記している。「碓氷郡」の項には「小諸袋山　下野界にあり、利根郡さく山の南あり……」とある。サク山とは里海山のことである。また山川の部に「此郡大山多し、駒ガ嶽（駒子山の頂、越後界にあり、越後にても同名）。沼峰（駒ガ嶽の頂にあり、上野、越後、陸奥の界なり、山上に沼あり、尾瀬沼と云、沼の中央國界なり、沼水西北に流る、大瀬川と云、川の西は越後、東は陸奥なり、……）大江山（沼峰の東にあり、奥州界にあり。下界にて赤安山と云、）」等々尾瀬のことが述べられているが、山の位置は不確定である。

「吾妻郡」の項には「稲含山　三國の西南にあり、信濃界なり、高山なり、人登ることを得ず、信州にても同名。今白根山、池のとうの南にあり、信濃界なり、信州にても同名。本白根山、今白根山の東南にあり、白根明神鎮座。烏居峠、吾妻山の南にあり、田代村より、信州大日向へ越る道なり。」「多野郡」の項に「御荷鉾山　高き山なり三峯あり、最高峯を不動嶽と云、上に石像の不動あり、（土人相傳、往古此山頂に鬼ありて人を害す、弘法大師の為に調伏せられて、鬼石を取て抛て去る、其石の落る地を鬼石と云、その石今猶村の中にあり、こゝにおいて、大師不動を彫刻して、山上に立と云、次二峯を後これを荒船の神社と云、今も其所を荒船と云、）與島は宗像の三神の内、一神の坐す所なり、大島を去る事三十里ばかり、戌亥の方なり、此島岩石にして甚だ奇なり、日本紀第一に垂迹の事詳なり」と荒船の名称の由来を記しているが、垂迹の件は若干無理があるようで、『上野名跡志』にも同じことが記されている。その他、稲含山、妙義山等の事は略す。

『上野国志』が完成したのは毛呂権蔵の自叙によると、安永三年（1774）8月19日であった。しかし出版されたのは明治四十三年（1910）8月23日であって、著者毛呂義縛五代孫の毛呂翼によるものであった。発行所は群馬県新田郡世良田村の環水堂であった。総頁三五八頁。定価八十銭であった。

毛呂氏が書いた「凡例」の一つを紹介してこの一篇を終わりたいと思う。

「一　是書の著者は、實に百餘十年の前、文献不足、交通甚めて、不便の時にありて、獨力編纂、以て長鯨ふせ、をどけと云、此山よく雲雨を起す、甚だ靈あり、この山は、日野の山中なり、去ども日野は緑野郡に屬す、」と記している。「甘楽郡」は現在甘楽郡と書く、荒船山について「荒船宮　西牧、信州の界上にあり、上州西牧の最高山なり、伏ち屋宇の如く、山上平なり、故に世風山といふ、其平かなる事砥の如し、故に砥山とも云ふ、これ抜鋒大明神最初鎮座の地なりと云、……又桑前國宗像郡興島に、船の形なる大岩あり、高大明神と云、書を成せしなり、故に或は詳細の遺蹟なきを保せず、讀者願はくは諒せられんことを。」

次回は武蔵に関する地誌の解説を試みるつもりである。

山の本紹介

浅野孝一著

『上高地ものがたり』

・新潮社　とんぼの本

・本体　1500円

「日本アルプス」の玄関である上高地は雄大な山々に囲まれた美しい自然の代表である。ウェストンによって見いだされ、芥川龍之介を初め、多く文化人を魅了してきた。この一冊で上高地の全てがわかる。最近登山ガイドも光実。

『万葉集』歌枕紀行

蒲生野と雪野山

木村太郎

近江

川守から雪野山へ

井上靖の小説『額田女王』を読むと、生来の美しさに加え、機知に富み歌才に恵まれ、魅力的なヒロインとしての額田王の横顔を知ることができる。

中大兄皇子（天智天皇）の時代となり、大和飛鳥より近江・淡海のそばに宮都は移された。近江遷都の翌年（天智称制七年）、近江大津宮の治世の形が整い天智は即位した。その佳き年の初夏に、東近江の蒲生野にて宮廷あげての遊猟が催されている。

御幸の後の宮中の宴では天智を前にしての歌会で、額田王と大海人皇子（天武天皇）の間で、一対の贈答歌が交換されている。

額田王の作る歌

あかねさす紫野行き標野行き
野守は見ずや君が袖振る

（巻一～20）

皇太子の答ふる御歌

紫草のにほへる妹を憎くあらば
人妻ゆゑに我恋ひめやも

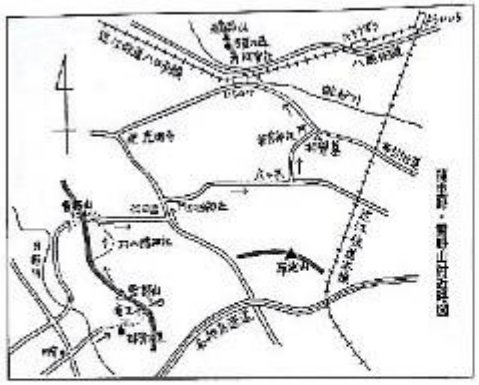
（巻一～21）

御領地の標に囲われた野辺で、紫草を摘む額田王をみつけて、皇太子は袖を振り合図する。その時には天智の妃となっていた額田王であるが、大海人とは元々は十市皇女をもうけた夫婦であった。それゆえに大海人の大胆な挨拶を、標野の番人に見られていたのではと、他人の視線が気になる。その額田王へ、恋歌のように匂う貴方を憎んでいませんよ、人妻と知りながら私は今も恋しく思っているのです、と大海人は歌を返した。

額田王にまつわるドラマチックな物語が伝えられたために、蒲生野の字名とともに王の歌は、『万葉集』の中で広く愛唱される特別のものとなった。

雪野山を眺める妹背の像

きょうは蒲生野をめぐる目的で、竜王町川守より雪野山を見て田園の道を行く。目野川の堤へ出る手前の田畑に白鷺が群れていた。純白の羽を休めている鳥ばかりで、五位鷺はいないようだった。野寺橋を渡り、観光ぶどう園を過ぎたあたりに「妹背の里」という園地が見えた。園地には蒲田王と大海人をイメージした「妹背の像」の彫像が、雪野山を眺めている様子に立っている。



その雪野山の登山口には、行基創建の天台宗竜王寺が建つ。雪野寺という白鳳時代に栄えた古代寺院の遺跡が寺域の周辺に残る。万葉集に詠まれた蒲生野の場所の特定については諸説がある。中でも船岡山麓辺と雪野山周辺が最有力と推定されている。

蒲生野のしめのの原の女郎花
野寺に見するいもが袖なり

（大江匡房）

白洲正子さんの説によれば、禁中納言匡房の『夫木抄』に収録された歌を根拠にして、蒲生野の標野の原は野寺（雪野寺の俗称）付近に間違いないと断言されている。とすれば雪野山麓の野辺に花籠をかかえていた額田王の姿が想像されよう。

群れに居と告げるぞまこと降り晴るる
雪の野寺の入相の鐘

（和泉式部）

竜王寺に伝わる国指定重要文化財の梵鐘は、一条天皇から竜寿鐘殿の勅額を賜った。梵鐘にまつわる小野時兼と三輪源との悲しい恋の伝承は、雪野寺縁起の絵巻物に残され、妹背の里の資料館に展示されている。

その竜王寺の裏手には、川守の村社天神社がある。天神社の鳥居と神饌田との間の道を選んで雪野山へ入る。下の道にはまだ八重桜が咲き残っている。藪椿の花はあらかた枝から落ち、山中に散り敷いている。雪野山の主体をなす常緑樹はアカマツである。登るに連れて常緑樹に混ざり、若葉をつけた木々が季節の歓びを光らせていた。

天神山古墳を経て東屋から東登山路へ廻る。八日市平石へ通じる分岐を過ぎ、ナナカマドの尾根そして馬の背を越えると、雪野山百墳のある雪野山（309メートル）の頂上である。この古墳からは、甲冑呼の銅鏡といわれる三角縁神獣鏡や、管玉などの装飾品等が出土した。1等三角点補点標の立つこの地に、いにしえ人は眠り、悠久の時は流れているのだ。

山頂からの展望は西の方向が開け、真正面に鏡山が見えている。鏡山もまた歴史の香りただよう山である。あの『小倉百人一首』の撰者藤原定家をはじめ、古人に数限りなく詠まれている。少し右手に視線を送らせば、長命寺の方角に『万葉集』に水茎の岡と詠まれた、丸みを帯びた大小二つの峰続きの山が見える。

秋風の日に異に吹けば水茎の
岡の水の葉も色付きにけり
（巻十一―2193）

岡の近くに淡海と呼ばれた琵琶湖が広がっている。曇り空で山の稜線は薄ぼんやりしているが、対岸に比良山系の重厚な黒い山塊が屏風のように横たわっていた。

山裾につづく西近江の町には、柿本人麻呂をして「大宮所見れば悲しも」と嘆かせた、近江郡の宮跡が眠っている。里山ならではの贅沢な眺めをつまみに、ビールで一人だけの乾杯をした。

雪野山から市辺へ

下山は八日市羽田へくだる道をとる。山道にはコバノミツバツツジが可憐に咲いていた。このツツジの花はアエンボという愛称で、竜王町の町の花に指定されている。途中の展望所からは、北東の視界が開けて織山や箕作山が見えた。公園の階段道にも似た、山には不釣合な道をおりると八幡神社に出る。神社の参道横には八幡社古墳群があり、宇宙基地のような半円球の墳丘が並んでいた。

雪野山を背にして、農道を抜けて羽田西のバス停を過ぎ、華岳山の羽田神社を東へと進む。左手には箕作山、右手には布施山、前方には鈴鹿の山並が見え、眺めを慰めに田園地帯の舗装路を歩く。田植えが近いのか田圃には水が張られていた。美しい青田は穂が育った麦畑である。レンゲ畑、菜の花畑、白い小さな花をつけた蚕豆、赤紫の花をつけた空豆を植えた畑など、近江平野の母なる大地は、晩春から初夏への移ろいを色とりどりに告げていた。

六つ木の辻を北へ折れ市辺の村社若宮神社へ向かう。若宮の森のはずれには、市辺押磐皇子御墓がある。万葉集閉巻に御製歌をみる雄武皇子（顕宗天皇）の企てによって、誤殺された押磐皇子の衛護である。後日譚として顕宗天皇の御代に、父君押磐の亡骸の捨てられた場所へ、淡海の置目なる老媼が案内したとされる。顕宗は亡父押磐を探し出した置目の手柄をほめて、近飛鳥の宮殿の近くに住居を与えたという逸話が伝わる。

置目もや淡海の置目明日ありは
み山隠りて見えずかもあらむ
（顕宗―紀―112）

齢を重ねて故郷の淡海へ帰るという置

低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことならおまかせ下さい。
新ハイの会員証で更に割引します。

とスキーのヨシミ
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(6772)7231

目を見遣られた時に、詠まれたという古代歌謡の調べに、天皇のやさしいお人柄をうかがい知ることができよう。

若宮神社と市辺奥篠堂の前から、斜行する道路を近江鉄道の市辺駅へ向かう。その駅近くに鎮座する阿賀神社は、中仙道から伊勢へ通じる八風街道沿いにあった。そして神社脇には万葉歌碑の道が付けられ、額田王の歌碑がある万葉の森船岡山へ導くのである。

額田王の歌碑

万葉の森には万葉植物をたのしむ散策路がある。額田王や女官たちが摘んだという、あかねやむらさきも育てられている。森の園地のレリーフには、荷生野遊猟の情景が極彩色で描かれ、古代衣装をまとった大宮人が今日の船岡山に呼吸しているようである。

君待つと我が恋ひ居れば我が屋戸の
簾動かし秋の風吹く
（巻四―488）

この歌には『額田王、近江天皇を思ひて作る歌』と題詞がつけられている。額田王が姉君鏡女王へ届けた相聞歌が打ち明けているように、近江宮の一隅で王は天智を思い、訪れを待っていた。しかし天智崩御という突然の出来事、さらに翌年に起った壬申の乱で近江朝はその幕を閉じた。そして天智を偲んだ挽歌で、実質的には額田王の作歌は終わるのである。

やすみししわご大君の恐きや
御陵仕ふる山科の鏡の山に（以下略）
（巻二―155）

王の天智への挽歌は、初期万葉にみられる小長歌である。この挽歌形式がよい手本となり、後の持統朝の柿本人麻呂の挽歌に受け継がれていくのである。

短くも美しき物語を綴んだ近江宮都の日々は、天智天皇と額田王とが共に夢をみて生きた時代でもあった。その夢の風景のなかに、額田王のイマージュは永遠に滅びることなく生きつづける。

私の内なる額田王との出会いを果たし、荷生野を逍遥した一日は充ち足りた気分で終わった。

（平成11年4月26日歩く）

△コースタイム▽
JR近江八幡駅（バス24分）川守バス停（15分）妹背の里（10分）竜王山（50分）雪野山（30分）八幡社古墳群（20分）羽田神社（40分）若宮神社（20分）万葉の森船岡山（5分）近江鉄道市辺駅
△地形図▽2万5千＝八日市・日野西部
△問い合わせ先▽
竜王町役場　0748（58）1001
八日市市役所　0748（24）1234
JRバス水口営業所　0748（62）1156
近江鉄道近江八幡駅　0748（37）7360

自然観察山行

養老山系

美濃

鷲見守康

濃尾平野から望むと、養老山系は鈴鹿山系の前衛にあたり、高低差の少ない800㍍前後のスカイラインが岐阜県から南に続いて、端は三重県の多度山へ至り伊勢湾に落ちていく。

北部に山系名でもある標高859㍍の養老山があり、1等三角点も設置されている。しかし、近くに最高峰の笙ヶ岳(909㍍)や見晴らしのよい小倉山(811㍍)が並んでいるためか、養老山そのものの魅力は乏しいようだ。

山麓には、孝行心から湧水が酒に変化したという孝子伝説で有名な「養老の滝」があり、一帯は広く公園化されるなど、古くからの観光地である。

公園側から入山するのがポピュラーで、ハイキングは滝上の駐車場から始まる。三方山から笹原峠を経て小倉山を訪れ、笹原峠に戻って旧牧場に進み、長い林道を歩いて公園にくだるという周遊コースは人気があり、年間を通じてハイカーが絶えない。小倉山からはさらに養老山へ、旧牧場からはもみじ峠を経て笙ヶ岳へと足をのばすこともできる。

山麓が観光地で、周遊コースも遊歩道として整備されているためか、山岳としての「格」は低く扱われているきらいがあるが、自然観察ハイキングのフィールドとしての長所は多い。

公共交通機関を利用してのアクセスが容易で、積雪期のスノーハイキングを含め、季節を問わず楽しめる。登山道は全体に幅広くて、荒天でなければ雨中のハイキングでも苦にならず、場所によっては立ち止まってゆっくり植物など観察することも可能であり、他のパーティの邪魔になることも少ない。

三方山から望む小倉山

私はこれまでに二十回ほど歩いているが、11月から3月の期間に偏っていた。

冬期のスノーハイキングが楽しいということもあるのだが、春から秋の花の季節には他の山域に目かけてしまうなど、養老山系の植物相をいささか軽視していた面があることも否定できない。この山系の植物相のおもしろさに気づいたのは、ここ数年のことである。

三方山へは滝上の駐車場からしばらく林道を歩く。秋にはシソ科ミカエリソウの咲く谷川を渡って登山道に取りつくと、照葉樹林のなか、九十九折の急登となる。冬から早春にかけ、独特な斑模様の葉をもつウマノスズクサ科スズカカンアオイが落ち葉にうもれ地味な花をつける。全体的にやや暗い雰囲気の道が続く。

しかし、この道沿いにもハッとするほど華やかな一時期がある。9月に、めずらしいユリ科ヒメイワギボウシが咲き乱れるのだ。実は、春から初夏に道沿いにのびるギボウシ属の葉を眺めながら、私はずっとオオバギボウシだと信じ込んでいた。だから、昨秋、初めて9月に歩き、このヒメイワギボウシを確認した時には、久しぶりにはしゃいでしまった。淡紫色のすらりとした気品高い花である。

ヒメイワギボウシの咲く斜面を通り過ぎ、さらに登って標高500㍍ほどに達した地点の林間で、直径30㌢余りのブナを見る。数年の間、何回かこの道を歩いていたが、長らくこのブナの樹には気づかなかった。中部地方では、ブナは標高700～800㍍にならないと出現しないはずなので、歩きながら視界に入った木肌にブナの表情を感じ、さらに接近してブナと確認できたときは、驚きの溜息を漏らしたものであった。ひょっとすると、東海地方では最も標高の低い場所で生きているブナなのかも知れない。

点のきれる登りが30分あまり続いて、ベンチのある平坦地に出る。このあたりはシカ道があるようで、積雪期には必ずといってよいほど登山道を横切った足跡を見ることができる。今年1月の新ハイ例会山行の折には、初めて姿をとらえることができた。

ここからしばらく平坦な道となり、アカマツが疎ら。最近、西側の林が伐採され、明るく開放的な雰囲気となり印象も受ける。道の両脇には養老山系を特徴づけるミヤコザサが現れる。

山を歩いていて出会うササは、日本海側ではチシマザサ(ネマガリタケ)、太平洋側ではスズタケが代表的であり、ミヤコザサは内陸型のササと言えるのだろう。チシマザサやスズタケの葉裏は無毛だが、ミヤコザサには軟毛が密生し、節がぶっくりとふくらんでいるのが特徴だ。

よくガイドブックにクマザサと紹介されているのは、このミヤコザサのことが

小倉山から笹ヶ岳を望む

多いようだ。この場合の「クマザサ」という呼び名は、冬に葉の緑が白く信れ、隈取りのように見えるからしく、おそらく種名ではなく「隈取りのあるササ」という意味なのだろう。「クマザサ」という種名をもつササについては、京都の鞍馬山や大原に自生すると解説する図鑑もある。

平坦な道から、再び階段状の急登が二回ほど続いて明るい雑木林に出ると、やがて道は分岐し、左手にとるとすぐ三方山だ。天候に恵まれれば、標高720が

の三方山からの眺望はすばらしい。恵那山・御嶽・乗鞍岳・中央アルプスなどの全国区の山岳を一望し、眼下には広々とした濃尾平野に、揖斐・長良・木曽の三川がゆるやかに流れている。

分岐に戻り、笹原峠への道を進む。まるでリョウブ林と形容したいほどリョウブが林立し見事である。リョウブは垂直分布の幅が広い樹木で、里山から亜高山帯まで成育し、高雪の厳しい地域では矮生化して生きている。

5月には、この道でポツンと咲くキンラン・ギンランを見た。ラン科植物は盗掘の被害著しく、このあたりの山ではほとんど見かけなくなっていて、姿を見ればいとおしいような気持ちになる。

笹原峠で旧牧場への尾根道を分け、小倉山へ向かう。坂を登ると急に周囲が開け、ミヤコザサの草原に立派なアセビの木が黒々と点在する独特な景観となる。眼前には、ササ原を切り開いて小倉山頂上への急な道が続く。初夏にはユリ科ササユリ、秋にはリンドウ科センブリやキキョウ科ツリガネニンジンが道の両脇に咲き並ぶ所だ。

小倉山頂上部は東屋が設けられ、頂上

周遊コースには所どころベンチも設置されている。西に養老山、北には笙ヶ岳が見え、その間には大きな山容の霊仙山・御池岳、さらに鈴鹿北部の山々が並ぶ。東方向の見晴らしも、三方山に負けず劣らずすばらしい。

小倉山から養老山へは20分程だ。高原状のササの気持ちのよい道をたどるのだが、養老山頂の見晴らしはよくない。

小倉山から笹原峠に戻り、旧牧場へ尾根通しに行く。アップダウンを繰り返す道だが、終始濃尾平野を眼下にして進む。春にはアカヤシオが咲き、ピークからふり返ると、まだ葉緑の少ない斜面にピンクのアカヤシオ、白のタムシバの花が灯火のようだ。

アカヤシオはツツジの中の名花とも言われ、丸みのあるふっくらとした花をつける。九州・四国地方などに咲くアケボノツツジとそっくりだが、花柄の毛の有無で区別する。アケボノツツジは腺毛で、アカヤシオは原毛が散在する。

タムシバはモクレン科の樹木で、コブシの近縁種である。登山のガイドブックによくコブシと紹介されているのはたい

ていタムシバのことである。葉が展開していれば区別は容易だが、花だけの時期には、花のすぐ下に小さな葉が一枚あるかどうかで判別する。葉がないのはタムシバであるが、そもそもコブシは山の斜面に分布することはないようで、山を少いていて見るのはほとんどタムシバと考えてよいと思う。

山で哺乳動物に出会うのはごく稀であり、人里から近い養老山系では、一層難しいことである。私は笹原峠からの尾根道を半分ほど歩いた地点で、めずらしくハタネズミに遭遇したことがある。耳が小さく頭の大きな頭胴長11㎝ほどのネズミで、チョロチョロと変らしい動きをしていた。ネズミと聞けば、私たちはドブネズミやクマネズミなど家ネズミを想像して薄気味悪く思いがちだが、野ネズミは可愛いいもので、子どものように親密したものだった。

旧牧場に至ると尾根歩きは終わり、長いだらだらとした林道を歩く。コースとしてはおもしろ味がないものの、花は山中よりもむしろ多く、キク科のヤブタバコ・ヒヨドリバナ・ノコンギク・ヤマシロギク・メナモミ、オミナエシ科のオトコエシ、シソ科のメハジキ・アキノタムラソウ・トウバナ・アキチョウジ、ツリフネソウ科のツリフネソウ、アカバナ科のアカバナ、メギ科のイカリソウなど野辺の花が咲く。下部の公園内にも野草の種類はけっこうあり、トウダイグサ科のヤマアイ、ケシ科のヤマエンゴサク、キンポウゲ科のニリンソウなど、花を愛でながらの散策に向いている。

旧牧場からはもみじ峠を経て笙ヶ岳に至ることもできる。途中、さわやかな自然味を抜けてユリ科のカタクリの群落に出会い、頂上部では初夏にササユリが多い。山頂からは背後に隠れていた伊吹山を望むことができる。

△参考タイム▽
近鉄大垣駅8・53（電車）近鉄養老駅9・33（タクシーでピストン）リフトのりば（リフト）滝上駐車場10・10—三方山11・15～25—小倉山11・50—養老山12・10（昼食）13・00—小倉山13・20～30—笹原峠13・40—栗ノ平15・10—滝上駐車場16・00（平成10年2月8日新ハイ例会山行時のタイム）

△地形図▽2万5千＝養老

KOBEの登山専門店
『スナッグザック』
夏山向き……汗対策のザックです。

●ウォーキングスナッグタイプ
ベンチレーションサポートパットにより背中は常に快適。バックパネル部がワンタッチで取りはずし可能。新案マグネットを装備。アルミフレーム内蔵。
日帰りから一泊山行きに最適、かつ使い良さで定評のアタックタイプです。
●カラー：グレードスレッド・グレードメブルー・グレードメウィン
●容量：28ℓ　●重量：1,400g
●素材：エステルリップストップ使用
●価格：¥13,000

寒営、グリセード、岩のぼり、お花畑から岩稜へ、みんなで登ろう、初秋の山。応援します。
あなたの山登り。

神戸ザック
〒650-0037 神戸市長田区大橋町2丁目3-1
TEL(078)521-6851
FAX 521-3528

台高北部の秘峰

木梶山

金谷　昭

台高

高見山から明神岳に至る台高山脈北部主稜よりのびている支尾根には、剣岳や桧塚等の秀峰があり、よく登られている。一方、国見山の少し北にある馬駐ヶ場辻から東にのびている支尾根には国土地理院の地形図に山名記載のない1230・5㍍峰の木梶山がある。地理的条件からして、山頂付近は桧塚と同じようにきっとすばらしい原生林や草原でおおわれているのではと気になっていた。

晩秋の一日、この尾根の東の突起である998㍍峰（岳山）からの縦走を試みたが、期待にたがわず、この被も台高らしさが今だに残るすばらしい原生林や草原であった。

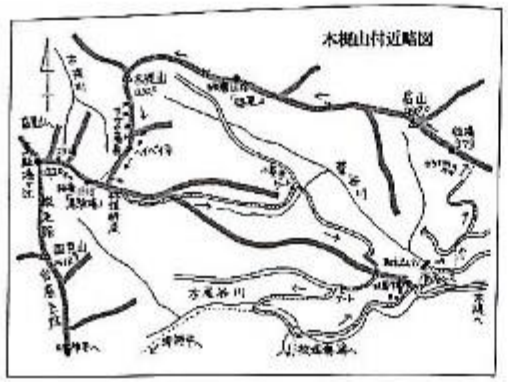
道標はなく、稜線の踏み跡もはっきりしない所もあるが、稜線を登りに利用して忠実にたどれば迷うことはないだろう。途中の独標1180㍍峰（梅尾）からは展望も利く。木梶山から馬駐ヶ場辻に到る稜線上は、銅の桧塚の頂上付近に匹敵するほどの山上庭園で、高原が展開し展望にも恵まれた。登山者らなく静かな山行が楽しめた。

ただ、交通の便が悪く、マイカーに頼らざるを得ない。大又バス停から国見山を経由して馬駐ヶ場辻より木梶山へのピストン登山も考えられるが、一日にしてはややきつい。やはり、山麓の青田からの山行のほうが趣が深いようだ。

ヘイベイ平手前のササ原より木梶山

国道166号線を高見トンネルを三重県側に抜け、大淀より栃谷川沿いに進る。加枝坂トンネルを抜けると青田で、右折して大淀谷川を渡る。菅谷川との出合右岸の取水堰堤前の広いアスファルト舗装の広場に駐車する。木材の集散用地であろうか駐車には最適である。

取水口への道路には門付のフェンスがあるが閉じられた形跡がなく、これを通り抜け、堰堤前より高原におり、流れ止めブロックを飛石伝いに菅谷川の対岸に渡ると、左岸の管理用道路に出た。この道路を下流に向かって100㍍程行くと山側に登っている作業用階段があり、それを登る。取りついた杉の植林地には踏み跡はないが、下生えが少なく歩行は大いにはかどる。10分も登ると林道に出合ったが右に登る林道をすこしたどると、すぐ分岐に出た。登っている左（西）側の林道をとる。標高700㍍付近で右（東）側に折れ、やがて標高800㍍付近で林道終点となった。稜線に向かって、再び杉の植林帯に取りついたが、ここも踏み跡はない。下生えも少なく見通しも利き登りやすく、稜線まで高度差約100㍍だった。左手にカラマツの疎林が出てくると稜線だった。



菅谷側は原生林、栃谷側は杉の植林で、その間が防火帯であろうか、幅広く切り開いてあり、歩きやすい。この稜線を忠実にたどった。岳山に近づくにつれ栃谷側の植林は檜林に変わり、やがて岳山頂上に到達した。地形図には三角点が稜線のコブの最高部の南東の少し低い所に記載されているが、実際は最高部に設置されている。3等三角点標石と「伊勢愛山会」の山名プレート以外に人工物はなく、展望の利かない静かな山頂であった。

岳山より木梶山へは栃谷側の檜植林と菅谷側の雑木林とのおだやかな稜線である。踏み跡がはっきりしない所もあったが、稜線をはずさない限り迷うことはなかった。途中から黄色い境界杭と赤テー

新刊

近畿の山（続）日帰り沢登り

中庄谷 直・吉岡 常 著　四六判・二〇〇〇円

大峰、台高、奥吉野、南紀、鈴鹿、比良、安曇川、由良川、因但国境等47コース。前編初級編に続いて中級の沢を、詳細溯行図、コースタイム、写真と共に紹介。

新刊

わっさか わっさか 沢歩き〈鈴鹿 奥美濃編〉

［記録］同人わっさかわっさか沢歩き　四六判・二〇〇〇円

鈴鹿、奥美濃、白山、加賀、越前、若狭、待望の白山山系を含む44の名渓を紹介！！削夜発日帰りの沢を、前編近畿編に続いて詳細溯行図、写真と共に楽しく案内。

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211　〒606-8316

木梶山山頂

プが出てくるが、天候急変の際は稜線近くの菅谷側の中腹にある林道へのエスケープを常に意識してたどればよい。

稜線上のコブを三ヶ所、登り下りを繰り返し、独標1116㍍峰（尾）に到達すると、がぜん木梶側が開かれ、高見山から大洞山を始めとする奥香落方面の大展望が広がった。休憩にもってこいの独標である。

これより稜線の切り開きがなくなったが、実はここからが本縦走のハイライトとなった。やや不鮮明な踏み跡をたどり、稜線が左に廻り始めると両側が原生林となり、やがて待望の木梶山に到達した。

山頂は樹木に囲まれ、遠望の利かない小広場となっていた。3等三角点標石以外に「松阪ハイキング」のプレートと、なぜか世界真光文明教団の木杭が打たれていた。訪れる人もほとんどない静寂な山頂で憩い、何とも言えない至福のひとときであった。

木梶山から馬駐ヶ場に向かって稜線を南にとるといったんくだって、登り返したピークは木梶山より少し高いのでないだろうか。そのピークを越すと、すばらしいササ原が出現した。巨木を所どころに配した山上庭園で、桧塚奥峰山頂付近で見る風景に似ているが、こちらは登山者が少なく静かなのが何よりよい。遠く音羽三山から高見山、奥香落の山々、そして三峰山に至る大展望が楽しめた。

このササ原を抜けると、標高点1316㍍（馬駐ヶ場）までのおだやかな疎林の高原（ヘイベイ平）となった。踏み跡はないが下生えがなく枯れ葉の上をどこでも歩ける。馬駐ヶ場は山名プレートが無ければ通り過ぎてしまうような所だった。ここから台高主脈の馬駐ヶ場辻まで緩やかな広い稜線となり、ここも原生林とササ原の人工庭園風の景色が出現した。所どころにヌタ場も見られた。ガスがかかるとルートファインディングに苦労する所であろう。

馬駐ヶ場辻に達すると登山者の往来があり、今までの静寂がなくなった。

馬駐ヶ場より木梶山への稜線を左に見送り、東の稜線を10分も歩くと、林道が登って来ていた。鉄則であるが、台高登山の下山には未知の谷筋は絶対にとるべきでない。谷筋は滝場の連続を秘めている。身動きできなくなることを考えて、おとなしくこの林道を下山した。長い林道歩きも眺望が利き、遠くに迷荒、すぐ対面に鄙なす桧塚を目の前にしながらの気楽な下山となった。

なお、この林道はあまり手入れされておらず、また二ヶ所はゲートで閉鎖されていて車の乗り入れは不可である。

紅葉最盛期の11月の休日に他の登山者に出会わない静かな山行であった。

（平成10年11月8日歩く）

△コースタイム▽

菅谷川取水堰堤前（30分）林道終点（45分）岳山（35分）独標1116㍍峰（1時間）木梶山（40分）馬駐ヶ場（30分）台高主脈・馬駐ヶ場辻（25分）馬駐ヶ場（10分）林道終点（1時間10分）菅谷川取水堰堤前（道標なし）

△地形図▽2万5千＝大豆生・七日市

アミューズトラベルの山歩き

全てのコースで、経験豊富な自社社員のツアーリーダーがご案内いたします。
初心者の方や中高年、女性一人様でも安心してお申し込み下さい。

トムラウシと十勝岳	9/11(土)～20(火)	催行決定	¥137,000
大雪山縦走と十勝岳	9/11(土)～20(火)	募集中	¥137,000
白峰三山縦走	9/12(日)～15(水・祝)	催行決定	¥73,000
平ヶ岳と越後駒ヶ岳	9/17(金)～19(日)	催行間近	¥77,000
後立山連峰　五竜岳	9/24(金)～26(日)	催行決定	¥39,800
白神岳・岩木山・八甲田山	10/1(金)～4(月)	催行決定	¥119,000
尾瀬　至仏山と燧ヶ岳	10/8(金)～11(月・祝)	催行決定	¥98,000
日光白根山・男体山・皇海山	10/8(金)～11(月・祝)	催行決定	¥93,000
甲武信岳・金峰山・瑞牆山	10/15(金)～18(月)	募集中	¥73,000
黒部峡谷「下ノ廊下」	10/17(日)～19(火)	催行決定	¥68,000
宮之浦岳と縄文杉	10/30(土)～11/2(日)	募集中	¥147,000
エベレスト・ゴーキョピークトレッキング　16日間 神々の峰に囲まれたゴーキョピーク(5360m)	10/23(土)～11/7(日)		¥439,000
初心者のためのヒマラヤハイキングとエベレスト遊覧飛行　9日間 ヒマラヤの大展望とエベレスト遊覧飛行	11/6(土)～14(日)		¥388,000
ロッジ泊　エベレスト展望トレッキング　9日間 ヒマラヤトレッキングで1，2を競う人気コース	11/6(土)～14(日)		¥348,000
ミルフォードトラックとマウントクックハイキング 12日間 ニュージーランドを心ゆくまで満喫できるコースです	12/5(土)～15(日)		¥478,000
ニュージーランド　マウントクックハイキング　6日間 マウントクック村でゆったりと2泊します	12/9(木)～14(火)		¥208,000

日帰りから海外までのパンフレット(104ページ)があります。ご請求下さい。(送料無料)

アミューズトラベル株式会社　☎06-6265-3303

運輸大臣登録旅行業第1356号　(社)日本旅行業協会正会員
〒541-0053　大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館8F　FAX 06-6265-3306
E-mail amtosa@po.teleway.ne.jp　http://www.amuse-travel.co.jp

連載 比良を歩く ⑫

鵜川左股から滝山・トビ岩

秦 康夫

前回までで、Y字型の比良山系縦走と1000㍍峰14座を済ませたので、今回からは、その他の主な登山道をバリエーション・ルートも交えながら歩いてみることにした。

湖西の近江舞子・北小松あたりから北の方を見ると、琵琶湖に向かって東にのびる尾根の最先端に、黒緑の松に囲まれた白い岩が目に留まる。琵琶湖を見下ろすかのように突き出している大きな岩だ。登山地図によるとトビ岩と記されている。あの岩からの眺めはさぞ絶景だろう、とはだれしも思うところで、一度行ってみたことがあるが、あいにくの曇天で、ガスの幕を透かしておぼろげに琵琶湖を眺めただけだった。

幸いきょうは文句なしの晴天。トビ岩だけではもったいないので、何年のように通っている鵜川左股の谷筋をつめて滝山に登り、帰路トビ岩に出るルートをとることにした。この谷道は登山者の多い比良山系では秘境といってもよいくらい、人の少ないところである。四季を通じて過去十数回歩いているが、その間一度も他の登山者を見かけたことがない。

JR北小松駅を出て国道161号線と湖西線の間の土道を北に向かえば、?、8分で国道と合流して歩道となる。左上にトビ岩を眺めながら釣り堀の横を過ぎると、小さな神社に出合う。山行の安全を祈って参拝。めずらしくもポンプの井戸があり、試してみるとちゃんと冷たい水が出てきた。湖西線のトンネル横の庫下のような道を歩き、トンネル出口の同志社大学小松学舎への道を左に分けると、国道の右に琵琶湖クラブへの矢印が見える。鵜川へは、その手前の斜め左に向かう農道に入る。

トビ岩から琵琶湖を見下ろす

だれかがアケビを見つけた。弾けて食べごろの実は高いところにあって採れないし、手の届くところにあるのはまだ熟していない。ムカゴもできている。湖西線のガードをくぐって、二連の送電線の下を通過すると簡易舗装の農道が終わり、やっと地道になった。地図で見ると、この農道と鵜川、広域林道・鵜川河井線の三本が、最も接近するあたりである。ここまで駅から約30分かかった。

右に、鵜川にくだる道があるので、休憩の時間を利用しておりてみる。数年前までこの谷に深かっていた素朴な木の橋は跡形もない。川幅は10㍍くらいに広げられ、両岸もコンクリートで固められている。川床はきれいな石畳になって、その上をちょろちょろと水が流れ、上流には大きな堰堤も見える。10年ほど前には、ここから沢におりてワラジを履け、沢登りの出発点とした場所だが、様変わりとはこのことか。

山道に戻り、クモの巣を払いながら川の右岸を進む。道はいったん沢筋から高く離れたのち徐々に沢に近づき、右に小さな滝が現れた。岩の上を流れるナメ滝が滝壺に落ち込んでからまたナメ滝になり、この繰り返しが幾つも続いている。ここからは沢筋の道になって、水際をへつったり、流れのなかを石伝いに歩いたり、緊張はするが楽しい沢道だ。

大きな滝はないが、それぞれに様相の異なる小滝・中滝が次々に現れ、変化に富んであきることがない。尾根歩きと違い、視界が限られて先の見通しがつきにくい反面、目の前に展開する予期せぬ景観を楽しめるのは沢道歩きの醍醐味である。

10㍍ほどの滝を過ぎて間もなく右の橋を渡り、左岸に移る。雑草が茂るなか、道はしっかり続いている。また渡り返した所に橙色の大きなキノコがあったが、ベニテングダケという毒キノコだそうだ。

左岸へ、また右岸へと徒渉を重ね、谷が大きく二つに分かれるあたりから、道は不明瞭になってくる。本流は右の谷で、無理してそのまま右に進めないこともないが、ここはいったん左の谷に20㍍ばかり入ると、折り返すように右上に登る道があり、本流の右岸高くに出た所でこの谷で一番大きな滝に出合った。

落差20㍍くらいか。滝壺に流れ落ちた水流は、右に直角に折れて庭下状の岩の間に突っ込み、勢いのよいナメ滝となって飛沫をあげている。正式名称を知らないので、われわれはとりあえず「直角の滝」という無神経な呼び方をしているが、そのうちにもう少し風情のある名を考えたい。ここで滝を眺めながらゆっくり休憩。滝壺に向かって手の届かないところに、熟したアケビがたくさん垂れさがっ

直角の滝

ている。昨年は、近くにツルがのびていたので慎重に探れたが、今回はダメ。

飛び石伝いに滝の上流を左岸に出て、細くなってきた流れを右、左と何度も渡り返す。頼りない木の橋を渡り、中州のようになった所に古い木製の橋柱が立っているが、字は判読できない。

このあたりから流れがゆるやかになり、谷筋の幅も広くなる。同時に道もなくなるが、杉の疎林のなかの軟らかい腐葉土を踏んで、とにかく流れに沿って上流に進めばよい。このコースは支谷が幾つも入っているので、判断に迷うこともあるが、その場合は、西方向に向かう大きいほうの流れを行けばおおむね正解である。

ヌタ場の水たまりには、珍しくもアカハラ（クイモリ）が二、三匹、ゆるゆると動いている。残雪の頃このあたりで、五、六頭の鹿を見かけたことがあった。左の山からおりてきて谷筋を横切り、落ち葉の上を音も立てず、軽やかに跳ねて飛んでいった姿は忘れられない。

水量がだんだん少なくなってきてやがて水音が消え、谷の源頭部を取り巻いてカール状になった草付きの傾斜地が現れる。摺鉢の底のような所から両方向をぐるりと見廻して、一番高いところが滝山の山頂だ。まともな道はないので、各自それぞれ好き勝手なルートを勢いよく登り始める。一直線に直登する人、ケモノ道の跡をジグザグに登る人、つかまる木のある所を選んで登る人。すぐ息が切れて、何度か立ち止まる必要はあるが、とにかく高みをめざして足を運べばよい。それぞれの登り方はてんでばらばらだったが、さしたる時間差もなく、総勢13名が滝山（703m）の頂上に到着した。

狭い山頂を避けて、少し東にくだった疎林のなかの小広場で昼食。片隅で元気に育っているギンランは、五ヶ月前に来た時、グループのNさんが周りに盛土をして大事に囲っておいたものだ。

下山は牛山を通ってトビ岩へ、と考えていたが、数年前一度歩いただけで複雑な尾根をスムーズに行ける自信がないのと、やぶ潜りがいやなので、トビ岩に出る一番分かりやすいルートをとることにした。5月山行でも歩いた（本誌43号）、オトシの上方を通って北小松の別荘地帯にくだる道である。

ササを分けて、滝山から南東にのびる、稜線上の細い山道に入る。始めは歩きやすい小道だが、15分程歩き、オトシに通じる支尾根を右（西）に見送るあたりから、道幅が広くなるかわりにだんだん荒れ道となってきた。その上、所どころ道が途切れたり、オトシに向かう水路と重なったりして、若干ルート・ファインディングに注意を要するところである。

尾根が東に向きを変えるとともに道は明瞭になり、滝山を山で40分程で、右の谷側が開けている所に着いた。木の札には、表に「北小松区有林」、裏に「馬の間」と書かれている。

ここから5、6分で、今おりてきた滝山への矢印のある小さな標識が現れた。そのままくだれば「北小松ヒル」の別荘地帯だが、左に、山側に向かう道が分かれている。ここがトビ岩への分岐点だ。

山側の道に入る。2、3分でやや開けた場所に出た。山道はそのまま左方向にのびているように見えるが、この道はすぐ行き止まりになる。右（北東）のやや不明瞭なほうが、トビ岩への道である。

琵琶湖側の山腹を捲くように、踏み跡程度の細い道が続く。始めはほとんど起伏がないが、大きな木が倒れ込んで道をふさぐあたりから、幾つかの支尾根を横切る緩い登り下りが多くなってきた。一つ、二つ、三つ、牛山から来る小さい支尾根を横切り、四つ目のやや大きい尾根、めざすトビ岩はこの尾根の先端にあるはずだ。滝山から牛山を通って東に向かう主稜線の一つ両の尾根である。トビ岩は下から眺めると位置は明瞭だが、上から探すとなると、なかなか大変だ。樹木にさえぎられてまったく視界に入ってこない。以前来たとき付けておいた目印の布テープが、木の枝に揺れている。

琵琶湖に向かってまっすぐ東にのびる尾根の踏み跡をたどること数分でトビ岩に出た。松の根を伝って、簡単に這いあがることができる。オーバーハング気味に突き出しているので、岩の上に立つと琵琶湖が真下にあるような感じだ。湖面との高度差は約400m。鳥の目で見下ろす気分も、また格別のものである。

岩の上は意外に広い。12～13人が並んで、隙の細長い岩から記念写真を撮ってもらった。隙にあるこの岩には魚の骨が散らかっており、トンビの食事場所になっているようだ。なるほど、上を見るとトンビが一羽、岩の上のように優雅に舞っている。トビ岩と名付けられた由来はこれかも知れない。伊吹山・鈴鹿山系、湖南アルプス、比叡山から横高山・水井山、すぐ右には蓬莱山と堂満岳の東稜、ゆっくり眺望を楽しんで元の道に引き返した。

滝山登山道に戻る行程の半分ほどを過ぎた所に、左（西）にくだる溝のような細い谷がある。道はないがなんとか行けそうなので、これをおりることにした。一直線に琵琶湖に向かっている。傾斜が急なうえ石のゴロゴロした悪路で、水が流れるのには都合がよいだろうが、人間様が歩くに適した道とは言えない。悪戦苦闘のすえ、40分程かかってやっと別荘地帯（名前は分からない）の上を通る小道に出た。すぐ下に水源地の貯水槽が見えている。

ここから緩慢に国道161号線に出ればよかったが、近道をしようと思ったのがまずく、草ぼうぼうの荒れ地を横切ったり回んぼのあぜ道を伝ったり、JR北小松駅へはかえって遠り道になってしまった。やはりトビ岩からの下りは、元の道を引き返して滝山登山道に戻り、北小松ヒルへ出るほうが楽だったかも知れない。

最後で少しもたもたしたが、途中、一人の登山者にも出会わず、静かな比良の雰囲気に浸った一日だった。

（京都北山グループ例会・平成10年10月11日歩く）

◇参考コースタイム◇

JR北小松駅（30分）鵜川出合・山道の入り口（25分）石の壁（25分）直角の滝（25分）中州（50分）滝山（50分）北小松・トビ岩分岐（25分）トビ岩への降下地点（5分）トビ岩（5分）トビ岩への降下地点（15分）谷道への降下地点（40分）別荘地帯の上部（30分）JR北小松駅

◇地形図◇2万5千＝北小松

昭文社＝「比良山系」

〈山のレポート〉

高い山低い山

生駒聳峰

山は高いものという観念が漠然とあるが、その高さもまちまちである。

日本代表の富士山にしても、「日本一の富士の山」ということはその姿形とともに高さも現している。そこでいろいろな山を表す場合に標高順にリストが作られたりする。先般も国土地理院が日本の山岳標高一覧を作成したが、山の高さを論ずることにはだれも異論がない。

それならなぜ高い順にばかりとり上げられて、低い順は放置されるのだろう。低い山は山ではないのか。先ず山の定義を考えて見よう。広辞苑をひもといてみると、山は「平地よりも高く隆起した地塊」とあり、何処からというような基準がない。それなら一応でも山である。また「山高きが故に貴からず」ともあるので、低い山も調べてみる価値があるはずである。

先の日本山岳標高一覧のように、高い順のリストは国でも作成しているので簡単に調べることができる。ところが低い山の順のリスト等は見かけたこともない。

最近、日本一低い山として、大阪の天保山が話題になったこともある。それならと低い山に関心を持って調べてみた。すると「日本の低山標高一覧」というものの記載が見つかった。さっそく作成者に頼んで取り寄せてみると、各県別に118山が記載されていた。

先の国土地理院の標高一覧作成の場合、山を選ぶ基準として地形図の2万5千分の1図に記載された山の中から選び、山頂の三角点、独立標高点、または水準測量により、あるいは等高線から読みとったりと大変厳しいらしい。標高一覧にもいろいろ説明されている。山岳標高順・低山標高順についてリストを調べてみると表1のようになった。

小数点以下の無いのは、等高線で読みとったので判定ができない分である。1位の天保山、2位の日和山は昔人工的に造られた山で、自然の山としては3位の徳高の弁天山が一番低いらしい。

次に都道府県別最高峰もよく登山されるが、これについて調べてみると表2のようになった。最低の山を訪れてみるのもおもしろいではないか。

最後に私の関わっている1等三角点でみると表3のようになっている。

登山の対象として登るのは何時からか私には判らないが、三角点の山登りを続けていると、高山は登山道も明瞭で、山頂に立てば必ず三角点が見つかる。しかし、標高の低い山では標石探しで、幾度やぶをかき廻したことか。

低い山にも目を向けてみてください。

（参考資料　国土地理院　関　義治氏）

○日本山岳標高順（表1）

順位	高い順			低い順		
1	富士山	3,776m	山梨・静岡	天保山	4.5m	大阪
2	北岳	3,192m	山梨	日和山	6.1m	宮城
3	奥穂高岳	3,190m	長野・岐阜	弁天山	6.1m	徳島
4	間ノ岳	3,189m	山梨・静岡	小岳	12.0m	福岡
5	槍ヶ岳	3,180m	長野	円山	13.4m	北海道
6	東岳(駒ヶ岳)	3,141m	静岡	天狗ヶ丘	14.3m	北海道
7	赤石岳	3,120m	長野・静岡	物見山	14.4m	秋田
8	塩尻岳	3,115m	長野・岐阜	鳥屋山	15.3m	和歌山
9	北穂高岳	3,105m	長野・岐阜	鳥崎山	16.7m	新潟
10	大喰岳	3,101m	長野・岐阜	中道山	16.0m	北海道
11	前穂高岳	3,090m	長野	鳴山	17.1m	広島
12	中岳	3,084m	長野・岐阜	関家山	17.4m	富山
13	荒川岳	3,083m	静岡	現場山	17.5m	北海道
14	御嶽山	3,067m	長野	弁慶山	18.1m	宮城
15	聖岳	3,051m	山梨・静岡	紅葉山	18.5m	北海道
16	奥穂見岳	3,047m	長野・静岡	白鳥	18.7m	熊本
17	甲武ヶ岳	3,033m	山梨・長野	乳森	19.0m	青森
18	南岳	3,033m	長野・岐阜	天神山	19.4m	茨城
19	乗鞍岳	3,026m	岐阜・長野	不老山	20.0m	宮城
20	立山	3,015m	富山	鳳山	20.0m	宮城
21				三岳森	20.0m	秋田

○1等三角点標高順（表3）

順位	高い順			低い順		
1	赤石岳	3,120.1m	静岡	大井川	2.0m	佐賀
2	前穂高岳	3,090.2m	長野	角田	3.2m	北海道
3	御嶽山	3,061.4m	長野・岐阜	野付崎	3.2m	北海道
4	槍ヶ岳	3,080.3m	長野・岐阜	片倉	3.4m	千葉
5	立山	2,993.0m	富山	高橋	3.9m	東京
6	甲斐駒	2,966.3m	長野・山梨	大平屋村	5.0m	三重
7	木曽駒	2,956.3m	長野	那光寺	5.0m	石川
8	白馬岳	2,932.2m	富山・長野	黒井	5.5m	新潟
9	聖岳	2,889.2m	長野・山梨	寿都湾	6.2m	北海道
10	白山	2,702.2m	石川・岐阜	大阪公園	6.3m	大阪
11	常念岳	2,661.8m	長野	東中筋	7.0m	北海道
12	国師岳	2,591.8m	長野・山梨	札幌北郵	7.6m	北海道
13	藤木山	2,530.3m	長野	戸川西岸	7.6m	北海道
14	男体山	2,484.6m	栃木	戸川東岸	8.0m	北海道
15	三宝山	2,483.3m	長野・埼玉	根室	8.4m	埼玉
16	林道山	2,446.4m	長野	軍艦島	12.4m	石川
17	妙高山	2,446.9m	新潟	高野村	13.2m	埼玉
18	大和倉山	2,329.2m	静岡	生駒	14.6m	北海道
19	岩菅山	2,295.0m	長野	札幌南郵	14.6m	北海道
20	雨飾	2,293.3m	北海道	背振	15.9m	北海道

○都道府県別最高峰と最低山（表2）

府県	最高峰			最低山	
北海道	大雪山（旭岳）	2,290m	旭岳	円岳	13.4m
青森	岩木山	1,625m	弘前	乳森	19.0m
岩手	岩手山	2,038m	盛岡	白木山	85.0m
宮城	蔵王山（屏風）	1,825m	白石	日和山	6.1m
秋田	鳥海山（山形）	1,757m	物見山	14.4m	
山形	鳥海山（新山）	2,236m	酒田	鳥屋山	41.8m
福島	燧ヶ岳	2,356m	本宮	小岳	63.5m
茨城	八溝山	1,022m	天神山	19.4m	
栃木	白根山	2,578m	芝塚山・鶴山	80.0m	
群馬	白根山	2,578m	榛名山	92.3m	
埼玉	三宝山	2,483m	鳳凰山	77.4m	
千葉	愛宕山	408m	太田山	40.0m	
東京	雲取山	2,017m	愛宕山	25.7m	
神奈川	丹沢山	1,673m	岩殿山	82.2m	
新潟	小蓮華山	2,763m	城峰山	16.7m	
富山	立山（大汝）	3,015m	関家山	17.4m	
石川	白山（御前）	2,702m	日和山	29.0m	
福井	三ノ峰	2,065m	鼓山	27.8m	
山梨	富士山	3,776m	米倉山	380.8m	
長野	奥穂高岳	3,190m	妻女山	410.0m	
岐阜	奥穂高岳	3,190m	石山	46.0m	
静岡	富士山	3,776m	竹取山	35.4m	
愛知	茶臼山	1,415m	扶桑山	55.4m	
三重	大台ヶ原山	1,695m	西山	30.8m	
滋賀	伊吹山	1,377m	大日山	136.9m	
京都	百子山	912m	妙見山	25.0m	
大阪	金剛山	1,056m	天保山	4.5m	
兵庫	氷ノ山	1,510m	雪山	30.0m	
奈良	八剣山	1,915m	三室山	60.2m	
和歌山	護摩壇山	1,372m	林野山	15.3m	
鳥取	大山	1,729m	桜塚	55.4m	
島根	恐羅漢山	1,346m	鶴山	37.8m	
岡山	後山	1,344m	角力取山	23.1m	
広島	恐羅漢山	1,347m	鳴山	17.1m	
山口	寂地山	1,337m	妙見山	41.0m	
徳島	剣山	1,955m	弁天山	6.1m	
香川	竜王山	1,050m	天狗山	28.9m	
愛媛	石鎚山	1,982m	鷲ヶ峰山	49.1m	
高知	三嶺	1,893m	城山	36.2m	
福岡	釈迦岳	1,230m	小岳	12.0m	
佐賀	多良岳	1,076m	桜ヶ岡	41.0m	
長崎	雲仙岳（普賢）	1,359m	瓶ヶ岳	25.0m	
熊本	国見岳	1,739m	白鳥	18.3m	
大分	九重山（中岳）	1,791m	鶴山	57.0m	
宮崎	祖母山	1,758m	唐空城山	45.5m	
鹿児島	宮ノ浦岳	1,935m	宮崎山	58.4m	
沖縄	於茂登岳	525m	城岳	33.5m	

海上の森 1

山口から観音山へ

山口　淳有

はじめに

二〇〇五年の愛知万博の会場とされる海上では、いま「オオタカの出現」でもめている。

この海上をマスコミや世間が「海上の森」と話題にしたので、人々はいちはやく「雄大な景観美のある森」の意味に誤解をした。しかし、この海上の森は実際はどこにでもある雑木の里山である。

私はこの地区に生まれてから二十五年を過ごし、現在は三重県の亀山市に住む。そこで往年の海上を思い、駄文を認めてみる。

海上はもともと「海上枝」、あるいは「海上洞」である（『張州府志』など）。この海上林の多くは江戸時代に尾張藩と徳川家の山々となり、それらに管理されていたが、江戸末期から明治にかけて、これらの山々の松は商業者によって伐りとられ、ハゲ山になった。そこで大正十一年（1922）に東大演習林が設置され、瀬戸の山々の自然をとり戻すために植林・砂防などが行なわれ、自然をとり戻して今日に至るのである。

そこで、先の海上洞についてであるが、海上には幾つかの洞があり、それらを海上洞といった。洞とは、それは岩がたくさんあってそこから水がはやく流れ出しているところである。瀬戸市には洞と名の付く山、あるいは地名が多い。ということはそれらが湿地帯であることと思れやすい山々であるということである。

海上はもと愛知郡幡山村大字山口で、山口の一部であった。が、いまは瀬戸市海上町である。

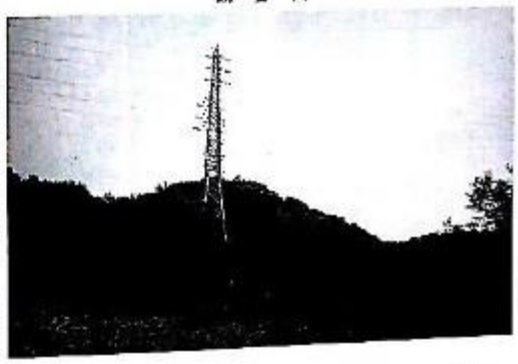
本来海上を語るには、庄内川が伊勢湾へ注ぐその伊勢湾から瀬戸市に向かっての地誌から始めなければならないが、いまはそのような枚挙のいとまもないので、海上界隈に重点をおいて「海上の森」を紹介する。

登山についての注意

さて編集部から「海上の森」をということで原稿の依頼を受けたが、この雑誌は本格的なハイキングを主とするものと解釈している。

しかし、この「海上の森」は登山というよりは山歩き、あるいは林のなかの散策というコースになる。かと言ってこの山歩き、散策は容易なものでないことをご承知願いたい。ということは、常に危険が伴う冒険的山歩きであるからである。

観音山



そこで服装は登山用で完璧でなければならない。この山歩きは小道が途中で消えたり、雑木林・竹藪の下、あるいは湿地帯には常にマムシ（蝮）がひそみ、そのうえに山ヒル（蛭）もいる。さらに茨の刺があちこちで待ち受けているし、いつ谷底へ滑り落ちるか分からない森なのである。ただ、山々の標高は200㍍から500㍍のいわゆる里山地域である。

観音山

愛知環状鉄道「山口」駅で下車。北に向かい山口病院前へ出て東へ歩くこと500㍍（別のルート＝山口駅から南へ進み、山口川の堤を東へ行き、天神橋（国道155号線）を渡り、しばらく歩くと信号があり、それを左折して進むと吉野町へ至る）行くと屋戸橋に至る。橋の下は山口川であばれ川である。この山口川についてはのちに述べることとする。

屋戸橋を直進して右折すると屋戸町で、別ルートと愛環鉄道のガード手前で合流し吉野町へ至る。吉野町はかつて吉田といった。この吉田は「吉田の早苗」と呼ばれ、この付近の田は粘土質の良田でよい米のできるところで、「山口八景」のひとつである。その「吉田の早苗」の歌には、

五月雨に吉田の里の乙女子は
植振りはてて早苗取るなり

とうたわれている。

現在も吉田には田があり、いまでは蛍の名所として名古屋からも蛍観察に人々が集まる。

この吉田は山あり、川あり、田あり、湿地帯ありのところで、そこには鴨がおり、セリ・カンゾウ・ザザユリなどが生息、あるいは自生した。

谷川に沿うと観音山がある。観音山は標高200㍍の山である。登り口には谷川が音をたてて流れている。昭和三十年（1955）頃までのこの山は花崗岩が幾つも飛び出し、登山口にはサカキ・シキビ・ヤマトタケなどが生え、山は岩（花崗岩）だらけで、幼い松が生えているだけであった。そして頂上に至ると山口が全望できた。しかし、今は山全体に常緑樹と藤蔓や茨が生い茂りジャングル化して登山は容易でない。そのうえにマムシのすみかでもある。勇気のある方は登られるがよい。

この観音山は名のとおり江戸末期まで観音堂が山の頂上にあり、堂は西を向いていた。その堂のご本尊の観音菩薩は、城東三十三観音（名古屋城から東）札所の第三十二番にあたる。この観音堂とご本尊は明治六年（1873）に矢形町の本泉寺の境内に移された。今でもこの観音菩薩の九万九千日のご縁日8月9日には法会が開かれ参詣客でにぎわう。

7月14日に発表された愛知万博の会場のうち、「南側の会場（テーマゾーン）」に当るのが、この観音山の左手、すなわち「広久手」の一部である。

連載

1等三角点峰（500㍍以上）548座完登の記録（第15回）

北海道南部の山旅

坂井久光

昭和63年5月30日に出発し、6月2日に札幌から洞爺湖行きのバスで壮瞥に入り、伊達行きに乗り換えて北湯沢温泉へ入った。車中「洞爺湖プリンスホテル」の支配人伊藤氏と将棋新聞を介して知り合った。

民宿「蔵王」で一泊。この温泉は無色透明で、明治三十年測量技師藤原平兵衛氏の発見と言う。

3日、朝から雨なので近くのユースホステルへ行ったが、雨はすぐ上がった。主人に登山口へ送ってもらい、徳舜瞥山からホロホロ山へ登った。登山口には自家用飛行場であった。川沿いのゆるい登りで、シラカバ・エゾマツ・ミズナラ林のなかに残雪があり、ジグザグに登って徳舜瞥山へ着いた。ガスで展望なし。西への尾根道をくだり、ハイマツのなかを登ってホロホロ山（1322㍍）の1等三角点へ出た。ひと休みして大滝登由で下山し、ユースホステルに泊まった。

翌4日、倶知安の「ニセコ荘」へ行き、主人の船場氏の車で京極町の百名水を案内してもらった。翌5日も雨で連泊して6日8時出発。めざす三角山の山麓の大和の竹内宅に寄り、昨年のお礼にと小著を渡して、登山口の小沢の出合へ行った。

竹内さんのアドバイスにより、小沢を1㌔遡り、支尾根に出たが道はない。ネマガリダケのやぶで疎林のなかを登って残雪のコルに出て踏み跡を見た。それもすぐ消え、残雪をたどって肩に出て急斜面を登るとエゾザクラが咲き誇る三角山（795㍍・1等点）に登頂した。付近に横丸太の積み置きがあった。展望は広大。近く羊蹄山・ニセコ・ホロホロ山が望見できた。

ホロホロ山

7日、船場氏に貫気別山登山口の開拓農場の林道終点まで送ってもらい別れた。営林署の林道をたどりカラマツの植林地を通って、残雪のシラカバ林の尾根を登って山頂へ。ガスで展望はなく、すこし休んで下山した。この山はスキー場になっていて、反対側の壮瞥からはリフトがあり、スキーシーズンならラクに登れる。

帰路山菜採りの若夫婦と会った。「助かった。ここはどこですか」と訊かれたので「貫気別山だ」と答えると、びっくりして「どこから来られたのですか」と言うので「京都からだ」と言うとまたびっくりしていた。「私たちは室蘭から来たが、道に迷って困っています。どうか助けてください」と言うので、私は「室蘭からの林道は私の地図にないので、壮瞥の農家へ案内しましょう」と言って、壮瞥の農家へくだった。途中「何を採りに登ったのですか」と問われたので、「サンカクチンを採りに」と答えたら、「たくさん採れましたか」と言った。びっくりするやらおかしいやらで苦しかった。夫婦と農家で別れて留寿都からバスでニセコへ出て、列車で函館へ行き「ときわ旅館」で一泊した。

8日、バスで名寄へ出て、ツバメ沢奥の農家までタクシーで行き、硫別岳（892㍍・1等補点）をめざした。途中の630㍍の3等三角点までは、シラネアオイの紫の美しい花が咲いている所もあり、プナ北限の看板があった。カタクリやギョウジャニンニクも咲き誇っていた。残雪があったが、この先はやぶが出てきて反射板の立つ三角点まで行って引き返した。展望は良し、すぐ隣に硫別岳がコルを隔ててそびえていたが、道が消えネマガリダケのブッシュなので残念ながら往路を下山した。

その後ヒッチして蘭越へ。列車で小樽へ。小樽の友人上口氏に電話すると迎えに来てくれた。今回の山旅の概略を話すと喜んで泊めてくれた。翌日フェリーで帰京した。

同年8月1日に日高の名峰カムイエクウチカウシ山（1979㍍・1等点（熊が転がり落ちる山））へ登っないかと、「一等三角点研究会」の会員に呼びかけた。それに応じた小島・山形・小川・川越の五氏と、帯広で7月31日に集合しようと約束した。私は7月20日に山形氏と彼のトラック改造のキャンピングカーで北海道に出発した。22日に小樽に上陸し、余市の天狗岳へ向かった。

早朝余市町梅川の林道へ入り、桜満園で道を訊ねた。桜桃をご馳走になり、小躍して一箱買って奥へ入ったが、1㌔先で道が荒廃していたのでバックした。天狗岳は断念して、次は昆布岳に決めた。倶知安の船場氏を訪ね、登路を訊いた。彼は昆布岳は道有林なので道庁支局の許可がいると言って案内してくれ、林道の鍵を借りてくれた。国道5号線の福井で左折、名無川林道に入ると二分し、左の道の沢林道に入る。奥の新しい林道が分岐している所で駐車した。少しくだると谷川に出た。ここから道はなく沢登りとなった。沢は小さく右岸左岸と渡って上流へ。長い沢登りのすえ、ようやく源頭へ着いた。湿地にはミズバショウがあった。

先は急峻な山容で登立している。ササや潅木で、岩につかまり攀じ登ること約1時間でハイマツの茂るやせ尾根の昆布岳（1045㍍・1等点）の山頂三角点へ着いた。北は断崖でその下は一面のナナ原。展望広大で前に後方羊蹄山やニセコ山群。東に幌尻岳、南に狩場山や大平山等の道南の山々が霞んで望見できた。二人で万歳三唱後少憩して下山。倶知安に戻り、船場氏に鍵を返し厚く礼を述べ、「羊蹄園」で入浴して空き地で車泊した。

23日、蘭越から名駒を通り三笠に行き、幌別岳の登路を土地の人に聞くも、昔はあったが今はないとのことで断念した。米で行ける母衣月山へ行くことにした。白炭から島牧へバイパスを通って林道に入るが、鎖がかかっていて不通。仕方な

昆布岳山頂にて

くそこに駐車して山頂へ行く。山形氏が見つけた小道（林道が改ったもの）をたどりしばらくで山頂へ着いた。

一昨年と比べると草が茂り様子が違っていたが、展望は変わらなかった。すこし休んで下山した。島牧から千走川林道へ入り狩場山の登山口へ。すでに15時だったが、山形氏が登ろうと言う。2時間で山頂へ着いた。下山後、泊川沿いの宮内温泉で汗を流して付近で車泊した。

24日、泊川林道（水たまりが多く悪路）をつめた。途中、川の中に河鹿温泉という露天風呂があり、そこの大平山の登山口で駐車した。この山は石灰岩の地質で本場のエーデルワイスに最も近い種が生えており、標高1191㍍。地形図に登路はないが、踏み跡があり、他の登山者もいて、快晴で展望は絶景だった。羊蹄・遊楽部岳が見え、草原で寝転び至福のひとときを過ごす。往路を下山して宮内温泉で入浴した。休憩後、遊楽部岳をめざし、国道を南下して今金町へ行き、スキー場の小山烏峡月山（等三角点）を登って、二股川から左股川へ入り、太櫛川沿いに白別岳下の終点で車泊した。

翌朝登路を調べたが、道は廃道となり痕跡も見当らず、登山口までバックして駐車した。区画道をたどり、9：15㍍のピークまでかなり時間がかかった。ひと休しで白別岳（1225㍍）へ登頂した。3等三角点を見て、いったんコルにくだり急登して遊楽部岳（1275㍍・1等点）へ着いた。東に太平洋を、西に日本海の波濤を眺める。絶景に二人で万歳三唱して下山した。今金町の温泉で汗を流してポンシュブンナイ川林道（ポンは小、シュブンはウグイ、ナイは小川）をつめルコツ（足跡）岳の山麓で車泊。翌26日天候悪く、ルコツ岳への登路を探べたがなし。ネマガリダケのやぶがあり、断念して瑠璃峠を越えて長万部町で少憩後、洞爺湖畔の幟内山へ登った。ゴルフ場の三角点を案内して眼下に洞爺湖や中島の美しい景色を眺め、洞爺温泉へ行った。昨年知り合ったプリンスホテルの支配人伊藤氏を訪れると、早速歓迎してくれ、半額でご馳走やビールの差し入れまでしてもらった。豪華な夕食と入浴。きれいな打ち上げ花火も眺めてぜいたくな一夜を過ごした。

翌27日、静内へ行き、ペテガリ岳の入山許可を営林署で求めた。その後、ペラリ山（718㍍）へ西川林道をつめて登った。山頂は草原で点標は見つからず残念ながら下山した。午後から天候が悪化し、明日は雨だと予想してアポイ岳キャンプ場へ行き泊まった。

翌28日は雨だったが、傘をさしてアポイ岳（811㍍）の山頂へ。斑糲岩からなる蛇紋岩に風化した岩質で、アポイの名の付く山岳がたくさん生えている名山だが、展望は抜群だった。午後雨も上がったので日高の名峰ペテガリ岳（1736㍍・2等点）へ向かった。静内の西川から静内川上流の農家へ抜け、新設の富見ダムから夕刻には「ペテガリ山荘」に到着した。

29日、早朝出発し、ササの茂った長尾根を通り天狗のコルへくだり、急登してペテガリ岳へ着いた。（次号へつづく）

北の山上 鷲峰山登山

コースとコースタイム　京阪宇治駅（バス25分）車中前バス停（40分）→①大道神社・道西塚（1時間30分）→②休憩所（20分）→③金胎寺（1時間）→④奏琴明神社（50分）→⑤鷲松尾・恵美神社（20分）→⑥鷲峰山前バス停（バス25分）京阪宇治駅（徒歩約1時間）

中村敏文

金胎寺の多宝塔

京阪宇治駅前9時15分発の京阪宇治交通バスは、25分で維中前へ着く。天智天皇の第七皇子、施基親王（田原天皇）ゆかりの宇治田原町は、古代の田原郷の地域で皇室領、摂関家領、平等院を領家とする神宮寺領である。江戸時代も郷之口を中心とする十五ヶ村は禁裏新御領となり、後水尾皇后和子（将軍秀忠の娘）の皇女誕生の産屋候も含まれていた。

古代の大和と近江を結んだ田原道も背谷から田原盆地に入り、郷之口、荒木を経て禅定寺川を遡り、近江の瀬田へ通じていた。平安時代には東国への間道として宇治から大廻りして田原郷を東西に横切り、裏白峠越えで信楽へ抜ける信楽街道が軍事上の重要な通路となった。

田原川を挟んで維考館中学の向対岸にある維中前バス停付近も交通の要地で、宇治田原町役場へ1㌔、郵局も点在する田原郷の一拠点である。

国道307号線を南へ横切り、東南へ行くとT字路に突き当たり、左折して東両方向へ大廻りして立川の集落を行くと半時間で大道神社下の信西塚へ着く。

① 信西塚（宇治田原町立川）

町道の左側に供養塔などを立て整備してある信西塚は、平治の乱で平清盛に破れた信西こと少納言藤原通憲塚である。平清盛父子の熊野参詣をみて源義朝と組んで挙兵した通憲は、洛中での戦いで源氏軍が敗れ、所領の大道寺へ逃走したが、追撃されて自害し胴体は付近の寺へ埋葬され首は京でさらされたという。大道寺の農民は首をもらい受け首洗い池で清め、塚を築いたという伝承がある。

大道神社は江戸時代の大道寺村と鍵塚村が勧請した社で、明祭神は菅原道真であり、鎌倉初期作という神像がある。立川の小字である大道寺は鷲峰山金胎寺の北参道口として、奈良時代に金胎寺の泰澄が建立した大道寺由来の村である。

② 金胎寺北参道休憩所（鷲峰山中腹）

大道神社から数分行くと町道は左折して東へのびるが、鷲峰山北参詣道はまっすぐに東南へ細い山道となってのびる。2㍍幅の参詣道は谷筋に入ると1㍍幅と

細くなり、休憩所まで2㌔余りは半分以上が地形によって変化するV字溝で、浅く深く両側がそそり立っていて、工夫をこらさねば歩けない。木の根をつかんだり杖を左右交互に使い分けて四苦八苦を重ねて登る。2㌔を1時間で登れる傾斜だが、休憩所まで1時間余りでたどり着く。

休憩所には地福谷からの林道が拡張されていて、金胎寺の近くまで通じている。小団体が憩れるベンチと特別仕様の手洗所も設置され、小公園となっているため、

鷲峰山登山にはありがたい設備である。

③ 鷲峰山金胎寺（和束町菅山の北山）

休憩所からの参道は2㌔幅に舗装されて金胎寺下へ続き、左へ分岐する地道の参道を少し上がると金胎寺へ着く。休憩所から20分、大道寺の参道口から2時間の登山中級者のコースである（初心者でも少し時間をかければ登れる）。

海抜685㍍の鷲峰山は京都府の相楽郡と綴喜郡の境の連山の一峰で、山容が天笠の霊鷲山に類似している霊山として命名されたという。修験道の大和大峰山の山上に対して北の山上といわれ、南は原山から、北は大道寺からの参詣道、湯屋谷・地福谷からも参詣道が開かれている。

金胎寺は天武天皇の勅願で役小角が開いた霊場と言われるが草創は不詳で、山岳霊場の拠点として奈良時代からおいおい諸堂や僧坊が建立されたとされる。

興福寺文書には元明天皇の世に越智秦澄大徳が再建し、伏見院の隠遁所となり、本尊に弥勒大師を納め、その後の大同二年（807）に願安大師が再建とある。平安初期の金胎寺は僧坊五八、交衆二〇口で承仕一三人と寺運盛んであった。

後醍醐天皇が都落ちして南都東南院へ逃れたが与力する衆徒なく、鷲峰山へ登り金胎寺へ入るが山深く里遠く不便なので、翌日には笠置山へ臨幸し石室へ入り国都の衆徒を召し出している。鎌倉・室町時代は寺勢を失墜させたが、江戸時代では修験道の行場として繁盛していた。

現在は重文の弥勒菩薩座像を本尊とする真言宗醍醐派の古寺で、江戸時代の寺観を継承して本堂を中心に大師堂・行者堂・鐘楼がある。本堂左側には品格の高い多宝塔が立ち、一段下がって客殿と庫裏がある。重文指定の三間多宝塔は桧皮で室町初期の永仁六年（1298）建立である。本堂の後ろ山は北斗星の拝所という空鉢の峰で、重文指定の正安二年（1300）在銘の宝篋印塔が山頂中央にどっかりと据えてある。なお寺宝の重文指定の紙弘仏八万四千塔一基は後用顕徳二年銘の途方もなく古い渡来物である。

行場巡りは寺の案内人が誘導して2時間を要するので今回は取りやめとし、ゆっくり諸堂巡りをして、空鉢の峰からの展望を楽しみ湯屋谷へ下山を決める。

本堂右手の檜林のなかへ通じる小道を

抜けると林道へ出る。前方に振線中継塔が見え、100㍍も行くと左へ分岐する湯屋谷道がある。湯屋谷集落まで3㌔弱の下り道だが、V字溝が1㌔余り続き、道新も乏しもない下山道である。何回か冷汗をかきながら1時間もくだると茶祖明神社へたどり着く。

④ 茶祖明神社（宇治田原町湯屋谷）

大神宮社は明治初年に釜ヶ谷より遷座して湯屋谷の氏神とした社で、聳立してある茶祖明神社は、宇治原茶の茶祖永谷宗七郎義弘（1681）の遺徳をたたえ昭和二十八年に創建した社である。

茶宗明神社

湯屋谷は田原川の最上流域の中谷・西谷・東谷の谷筋に散在する集落で、田原郷では茶葉の最も盛んな地区で、水谷宗円の屋敷跡もある。現在は湯屋谷と大道寺の中間丘陵に宇治田原工業団地が建設され、近代的な茶業工場が田原郷の優れた宇治茶を送り出している。

湯屋谷村の伝承では和同年間に温泉が湧き出し、行基が湯屋寺を創建している。施基皇子の第二王子、湯原王が当地に住んだという伝承もある。

湯屋寺は南北朝時代に廃れ、温泉も後国末期には廃絶して復興していない。現在の長福寺は足利軍に焼き打ちされた湯原寺の流れをくみ、室町末期に建立された浄土宗知恩院末寺の金剛山地蔵院である。

湯屋谷バス停の午後のバスは15時30分しかないので縫中前まで4㌔を歩く。国道307号線をたどると少し短いが、亜駱宮を避けて岩山への町道をたどる。

⑤ 巌松院・双栗天神社（岩山）

大岩山山麓の岩山集落最北端の巌松院は釈迦如来を本尊とする高野山真言宗寺院。聖徳太子開基の古寺で江戸初期に如寛文最大徳の中興という。現存の本堂・庫裏・客殿は幕末の名工、柴田新八郎の初期代表作である。新八郎は禁裏御所修理の棟梁で高野山金堂再建の総指揮者としても有名である。

巌松院から東南へ10分ほどくだると柴田新八郎造営の本殿を残す双栗天神社が鎮座する。天穂日命・菅代主命・大年命をまつり、近世に菅原道真を合祀した旧村社である。社伝には雷神が大岩に降って光明を放つ瑞祥を見たので、田原郷の住人双栗忌寸宿禰と和邇部茨彦が祭祀した大岩を神座とする古社である。

双栗天神社の南側に禁師如来を本尊とする真言宗東寺派の真言院がある。境内にある五輪塔は付近の山中より見つけた鎌倉時代の名品である。

真言院から南へくだり、縫考館中学の横を抜けて田原川を渡ると縫中前バス停である。

文学歴史探訪ハイク ㊽

伊吹山に日本武尊を訪ねて

松永恵一

日本武尊と山神

記紀でもっとも文学的に描かれた上代の伝説上の英雄。景行天皇（130年頃即位）の第二皇子。小碓命。別名日本童男。16歳の時、父天皇の命で九州の熊襲を討ち、その首長熊襲建兄弟の弟から、勇猛ぶりを賞賛され、「倭建」の名を献じられた。さらに出雲建や各地のまつろわぬ者たちを討伐し凱旋する。山あれば山の神、河あれば河の神、穴戸（海の瀬戸）あれば穴戸の神、道のさわりの荒ぶる神はみなこれを平らげた。

この栄光の西征の後、再び命じられて東国に赴く。実に下る道に伊勢の大神の宮に詣って、神前に祈る。伯母倭比売から神剣草薙剣と盗を授かり東征の旅に出るが、今度は一転して苦難の連続だった。相模国では草薙剣と盗の中の火打ちによって野火の難から救われ、走水の海では妃弟橘比売の犠牲によって無事荒海を渡ることができた。

蝦夷や荒ぶる神を討伐しながら、甲斐から信濃の国を越えて尾張の国に帰りつき、尾張国造の想美夜受比売を娶る。しばらくぶりに戦いのない平和な日々をしみじみと味わっていたが、一またまた、伊吹山の悪い神があばれだしました。どうか村人を救ってください」と村長が頼み込んできた。

日本武尊、勇いたる草薙剣を比売のもとに置いて出かける。宝剣は長く尾張に留まることになった。霧が立ち込める不気味な伊吹山に登って行くと、突然牛ほどもある白い大きな猪が前に現れた。見るからに恐ろしそうな猪であった。しかしこの猪を山の神の使者だろうと思い無視して通り過ぎようとしたが、実は山の神がこの猪に化けていたのだった。登り行くほどに大氷雨に遭い、山神の妖気にあたり朦朧となってしまう。やっとの思いで山麓の玉倉部の清水に至り、正気を取り戻す。その清水を居醒清水という。

伊吹山（『日本名山図会』）

そこを発って大和への帰途につき、伊勢国の能褒野に至り、病ますますあつく、望郷の思いつのって歌う。大和国原、四方の山々連なって、青垣の中にしずもる国よ、なつかしきかなとて、詠われるその歌。

倭は　国のまほろば　たたなづく
青垣　山ごもれる　倭しうるわし

（『古事記』中）

歌い終わって、30歳の生涯をとじる。ただちに駅使をもって急を大和に知らせた。その墓からは美しい白い鳥が大和へ向かって飛び立ったという。

伊吹の神は伊吹山麓を拠点とした伊福氏・伊福部氏・五百木氏、あるいは息長氏など土地の豪族であろう。伊吹の語源は「鉄吹き」だという。「鉄を鍛る」。大和政権と伊吹の山神との争いは、鉄や銅をめぐる王権と土地の豪族との争いとみることもできる。

『伊吹』と題する歌舞や、大江山の酒呑童子の生い立ちを述べた『伊吹童子』などの語りが残されている。こうした語りに形象される伊吹山の姿は荒々しい、無流の関係からも、それは冷たくてすさまじい。

伊吹山の薬草

延長五年（927）に書かれた『延喜式』巻三七に、典薬寮へ諸国から進貢された生薬の名称と数量が国別に記されている。品目数の最も多いのが近江の国73種で、ついで美濃62種である。この両国が全国の一・二位を占めているのは、両国にまたがる伊吹山系が薬用植物の宝庫であったことによると考えられている。

織田信長は永禄年間（1558～1570）に、ポルトガルの宣教師に伊吹山で五町余りの薬草園をひらかしめ、本国から3000種の薬草を移植したという記録が『切支丹宗門本朝記』『南蛮寺貴記』等に残る。ヨーロッパ原産の牧草であるキバナノレンリンソウ・イブキノエンドウなどが、古くから伊吹山のみに自生することから、薬草と共に移植されたと考えられている。しかし、薬草園の痕跡やヨーロッパ産の薬草はまったく残っていない。

伊吹山に自生する薬草は、カノコソウ・クララ・サラシナショウマ・リンドウ・ミヤマトウキ・クガイソウ・イブキトリカブトなど民間薬として伝えられたもの298種、民方薬草19種がある。

伊吹山のモグサ

伊吹山とその周辺にはヨモギやオオヨモギが多く、これを原料にモグサが造られ、ひろく販売されていた。

和泉式部は相手の冷淡な心を恨んでこんな歌を詠んだ。

けふもまた　かくや伊吹の　さしも草
さらばわれのみ　燃えやわたらむ

（『新古今和歌集』巻第十一　恋歌一）

いつものように、今日もまたこのようにつらいことをおっしゃるのですか。それならばわたしだけが、伊吹山のさしも草のように、恋心を燃やし続けることになるのでしょうか。

元禄四年（1691）、『日本賀遊子』の「近江の名物出所之部」に伊吹蓬艾があり、元禄初期には伊吹山周辺でモグサが生産され市販されていたことがわかる。

宝永六年（1709）、近松の浄瑠璃『枹狩剣本地』に伊吹モグサが登場、「サンヤレサンヤレ」とはやしながら艾灸の効能を述べるくだりがあり、大盛うけたという。江戸でも同じ年、市川団十郎が中村座でモグサ売りを演じて大評判になったという。当時木曽街道柏原、東海道梅ノ木・大津で売られていた。

山頂近くから二合目付近を見下ろす

コース概観

昔から日本七高山の一つとして、また薬草の宝庫、高山植物が咲き乱れるお花畑で有名な伊吹山（1377・4m）は、日本武尊の伝説や天下分け目の関ヶ原の戦いなど、歴史を見つめてきた山でもある。夏は夜間登山、冬はスキー場として賑わう狭間の秋の一日、静かな伊吹山と山頂からの展望、下山後の薬草湯を楽しみに出かけてみた。

東海道本線の近江長岡駅で下車。マイクロバスに乗り登山口に向かう。大きく右に曲がり大敷セメント工場の横に出来た「伊吹薬草の里文化センター」（愛称ジョイいぶき）を通る。帰りに寄しもうと思っている薬草湯はこの施設の中にある。約10分で伊吹登山口着。帰りのバス時刻を確認してから出発。

目の前に覆い屋根のついた長い長い建物が横たわる。採掘した石灰石原料を工場に運ぶベルトコンベアー。伊吹山は全山が石灰岩で出来た山で、伊吹の主体をなす石灰岩には化石が多く含まれ、とりわけフズリナ（紡錘虫）を多産する。

「君が代」に詠われた「さざれ石」は学名「石灰質角礫岩」といい、伊吹山の麓で産出し、岐阜県の天然記念物に指定されている。石灰石が雨水で溶けると、粘着力の強い乳状液となり、この乳状液が二億年以上にわたって地下に浸透し、小石を互いに凝集させ三岩に成長させる。この巨岩が河川の浸食作用で地表に露出したのがさざれ石である。

文徳天皇（在位850～858年）の皇子惟喬親王に仕えた藤原可臣右位左衛門は、この地でさざれ石を発見し、「これは珍しい石、日出度い石である」と見たまま感じたままを詠んで奉った歌が

わが君は千代に八千代にさざれ石の
いわをとなりて苔のむすまで

の一首である。都では「見かけぬめずらしい石であり、かつまた秀歌である」として、『古今集』（巻七賀の歌）に採録された。石位左衛門は名のある人ではなかったので「詠み人知らず」とされた。

スキー宿の集まる上野の集落を歩き、雨乞いの太鼓踊りで知られる三之宮神社に出る。右手に観光案内所がある。三合目までリフトとゴンドラが営業しているので、時間に余裕のない場合は利用するとよいだろう。

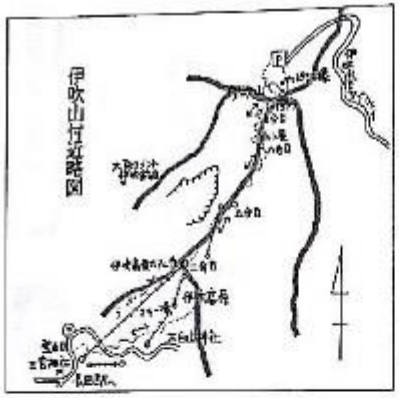
リフト乗り場の奥から登山道に取りつく。登り口に日本武尊ゆかりのケカチの名水がある。のどを潤して樹林のなかの道を登ると一合目に出る。関西初のスキー場として開発された所で一気に視界が広がる。草スキーをする人がいる。パラグライダースクールやマウンテンバイクの大会なども開催されている。

二合目にある松尾寺は伊吹山寺の一つで四十坊を数えたと伝わる。兵火で焼失したのち、黄檗宗の秀水禅師によって山

麓松尾に移されたが、昭和42年に伝承地に再建された。この時、約五百年前の吊り鐘が掘り出されている。

三合目から見上げる伊吹山はどっしりとしている。左手に「伊吹高原ホテル」を見送る。たくさんのススキが美しい。リュウノウギク・アキノキリンソウ・ハクサンフウロ・ウレモコウなどが咲き誇る。四合目でスキー場も終わり、山らしい雰囲気となる。

五合目。イブキトリカブトが見られるようになる。六合目、七合目といった頃



霧がすぐに出てくる。涼しい風が気持ちいい。はかる下方に色とりどりのパラグライダーが見える。

八合目の小屋は回峰行の休み場になっている。一人の修行僧がこもり、そびえ立つ平等岩での修行に励んだのは江戸時代の寛文初年（1660頃）のこと。後、北海道に渡り、知床湖中之島で刻んだ観音像に「江州伊吹山平等岩籠内円空」の名を残した。円空は十二万体の造仏悲願を立て、地蔵尊・薬師・造仏遊行の生涯を送った。

九合目への傾斜はきつい。岩がゴロゴロして歩きにくい。何度も立ち止まる。九合目にはたくさんのリンドウが咲き乱れていた。お花畑のなかをゆるやかに登ると山頂に到着。山小屋・売店・測候所・伊吹山寺などがある。ヤマトタケル像が何事か胸の内に秘めたような表情で立っている。悲劇的な最期を語っているようだ。

南に鈴鹿の山並、西に琵琶湖や比良の山々。北に美濃の山々。東から顔を出しているのが白山。東に目を転じるとはるか彼方の空の上に幾つかのピークが顔を覗かせている。御嶽。乗鞍？　それとも穂高かと感激しながらシャッターを切る。

白山やアルプスの山まで見ることができ、満足感に浸りながら下山。ひたすらくだり五合目で一息入れる。さらにくだり、三之宮神社の前にある伊吹牛乳の製造直売店に立ち寄る。一本75円。「うーん、おいしい」。

「ジョイいぶき」まで15分ほど歩く。薬草湯と露天風呂できょう一日の汗を流す。土産に薬草湯の茶と漬物を買って秋の風に吹かれながら、バスを待った。

☆コースタイム☆

近江長岡駅（バス10分）伊吹山登山口（10分）三之宮神社（1時間30分）三合目（30分）五合目（1時間20分）伊吹山山頂（2時間）登山口（15分）ジョイいぶき（バス）近江長岡駅

〈地形図〉2万5千＝関ヶ原・美束

〈費用〉

大阪駅～近江長岡駅	2210円
近江長岡駅～伊吹山登山口	290円

〈問い合わせ先〉

伊吹町役場観光課・ジョイいぶき
0749（58）1121
営業12時30分～19時30分
入浴料大人300円

特選コースガイド(1)

丹波

矢所から 聖権現山

初級コース（★　）

西尾　舜一

丹波の山となると、もう登り尽くされたと言われながらも、こんなにおもしろい山が残っているところがうれしい。山はやはり深くて大きいのである。

この山は、和知町の某料理屋で会合があった折、午前中が空いていたので半日の山として選んでみた。

車で由良川筋の道を走り、JRの山家駅付近から釜倫に入る道を北に入り、矢所という集落まで行く。矢所は左側の小高い所にある。行き過ぎて奥山から林道終点の養蜂場まで行ってしまうので注意すること。このとき私もそれをやってしまった。

矢所は数戸の農家があり、家の下から見事なヒナ段式の水田が作られている。この村の先祖は、何代もが費してこれを作り上げたのだろう。しばし見とれる。

矢所・奥山の両集落の氏神は熊野神社で、矢所の村はずれにあってよく手入れされている。矢所の民家の上に数匹の牛の牧場があり、その横に石造りの立派な鳥居が草深いなかに建っている。家の壁にも石仏などがあって、これから登る「聖権現」の登山口を示しているのですぐ分かる。

家の人に車の置き場所（二台程度可）を許可してもらって登りだす。子牛が走り寄って来てくれるが、親牛にたしなめられている様子も何だか心地よい。

始め鳥居の所が草深く気になったが、桜の老木もあって、昔はさぞかし立派な登山道だったろうと想像される。しかし道は次第に良くなってしっかりしてくるので安心だ。

5分程登ると、左手に小祠があり秋葉神社がある。さらに良い道を20分で立派な杉のなかの参道となる。その奥には参道をまたぐように拝殿がある（その後この建物は拝殿ではなく休憩する多目的のものらしいと分かった）。

聖権現

この山中にしては意外なほど大きな建物に驚き、まずはザックを降ろして横を見ると「聖権現」の由来が書いてあった。これによると、日前神社と呼び、元は大和から移転（勧請ではないかと思われるが）したもので、祭神は「石凝姥命聖命」とあって二神の合体したものらしい。

建物の先には石灰岩の奇岩が林立し、小規模ながら祠が東南向きに岩に埋め込

まれたように建てられている。

山家城主の谷氏は、この社をいたく尊崇して荘厳な祭礼を行い毎年4月16日には神楽を奉じたという。

祠に参拝しさらに登ると、神域というのはこんな場所のことをいうのだろうか、原生の森や短かく生えそろった下草もあり、神さびた雰囲気に圧倒される。現在も山家の人によって維持管理されているらしく美しく清められている。

この山は石灰岩の奇岩（この付近では奇異に属する）を古くから神体とし、日照の神と山の神・水の神（雨乞）の合体したものが加えられて、おそらく多目的な神像となったものではないかと思われる。

奥の院から少し登るとスパッと開けて草原となり、鉄塔が立っている。道はなおも続き、T字形の尾根の頂部に出るが、道は左に行くので左のやぶ尾根に入る。20分のやぶこぎで2等三角点の奥岳（459・4m）に着く。展望もない丹波らしい山である。しかし道標も案内もないこのような低山でも、自分で探して登ったということで十分満足するものだ。

帰りは少し欲を出して東の古峠へ出ようとしてやぶをこいでいたら、突然やぶの中から人が現れ、両者とも仰天した。この人はワナを仕掛けているというので古峠行きは断念し、往路を引き返した。

山で動物、特にクマに出遭うのは怖いが、人間はもっと怖い。特に美人はいけない。雪女とまでいかないでも、男は美人の頼みには弱いから美人で悪女に出会ったら万事休すである。

往路、矢所の民家で訊いてみると、自分たちは登らないらしく、山家からは人が来るという。これも旧藩時代の名残で、先祖の言いつけを守っておられるのか明らかでない。

しかし登って悪くない山だった。

（平成9年11月16日歩く）

≪コースタイム≫

矢所（5分）秋葉神社（20分）聖権現山（30分）奥岳三角点（往復）

＜地形図＞5万＝綾部

＜参考＞

・交通はJR山陰線山家駅から歩くなら矢所まで1時間余分にかかる。

・マイカーが便利だが、駐車場はない。一、二台なら民家に頼んでみよう。

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!

・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2型（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもリコンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話06(6745)3911・FAX06(6745)3983
（夜間・電話06(6945)0616・FAX06(6945)9044）

特選コースガイド図

鈴鹿

宮妻から 雲母峰（きららみね）

初級コース（★　）

榊原　計国

雲母峰（888・4㍍）は、鈴ヶ岳前衛の山ではあるが、鈴鹿の主脈尾根から伊勢平野に突き出している支尾根上に独自の個性を持ってその存在を主張している。鳥が大きく羽を広げて仁王立ちしているかのような堂々とした様は、入道ヶ岳から主脈尾根に向かうイワクラ尾根から眺めるとよく分かる。

雲母峰の東側、特に湯ノ山側は植林が進み、登ってもあまりおもしろくない。宮妻側にはすばらしい二次林が残っていて、快適な山歩きが楽しめる。

ここで紹介するのはその宮妻側からのルートなのだが、なぜか大半のガイドブックには、湯ノ山側から植林のなかを何度か林道を横切るかたちで登って行き、三度目に出会う林道の終点からは植林のなかをジグザグに山頂直下の鞍部まで突き上げているルートしか載っていない。宮妻側からのルートは、私もたまたま現地を車で通りがかり「雲母峰登山あんない図」を見つけて初めて整備された登山道があることを知ったくらいだ。

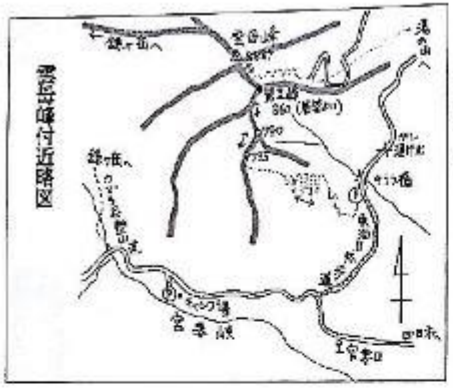
また、地形図にはキララ橋から尾根の山腹をたどり、先ほどの鞍部へ反対側から登りつめる昔のルートが点線路で示されている。しかし、このルートは今では全くの廃道となり、やぶが立ち込めとても歩けない。以前に鎖ヶ岳から縦走してきて、雲母峰の本峰山頂を越えて鞍部よりこの点線路をたどろうとしたが、とても歩きづらく、途中からまっすぐに宮妻峠側へおりたことがあった。

今はそれに代わり、735㍍の標高点がある尾根上に整備された登山道が付けられている。道形もはっきりして所どころ道標も立てられている。その道が展望のよい山頂部第Ⅱ峰まで直接通じている。この雲母峰往復コースは、標高差500㍍余りで山登り初級者ばかりではなく、ウォーキングで体を慣らし、そろそろ手頃な山歩きでもしてみたいという方にも薦めたい。

雲母峰第Ⅱ峰にて

四日市駅から宮妻口行きの三重交通バスに乗り終点で下車。バス停に立っている東海自然歩道の案内図に従って湯ノ山方面へ歩いて行く。15分ばかり歩けば、鎌谷川に架かるキララ橋にたどり着くが、そのすぐ手前で分岐して山側へ登って行く林道がある。ここが「あんない図」のある登山口だ。四、五台の駐車スペースもある。

始めは鉄塔を左から大きく捲きながら登って行く林道を進む。さらに山側に向かって進むと左側に道標があり、林道から離れて植林の急斜面をジグザグに登って行く。ここからが本格的な登山道となるが、道はジグザグに付けられていてそんなにきつくない。しばらくはそんなかなか、平坦の登りとなる。時どき木々の間から伊勢平野が眺められると、けっこう登ってきたことが実感でき、また元気がわいてくる。ジグザグ道が終わる頃には尾根の稜線にたどり着く。ここから山頂まではほぼ尾根上の道をたどって行くことになる。



雲母峰付近略図

二次林のなかをすぐに急登が始まるが、木々につかまりながら登って行くと尾根の左側は植林、右側は二次林のゆるやかな道となる。375㍍の標高点がある小ピークには左側から巻き込むようにしてたどり着く。あたりは二次林に包まれた気持ちのよい森となっている。道形ははっきりしているし、時どき山頂までの距離と登山口までの距離を示した道標も立っており迷うこともない。のんびりとあたりの自然を楽しみながら行こう。

さらに進み、もう一つの790㍍ピークを越えてからいったん20㍍余りくだり、あとは標高860㍍、展望の雲母峰第Ⅱ峰まで一気に登り返す。傾斜がゆるくなれば、山頂はもうすぐだ。

第Ⅱ峰の山頂広場は東西に大きく切り開かれていて展望が利き、東側は伊勢平野から伊勢湾とその向こうの知多半島、さらに天候が良ければ三河の山々まで見渡せることだろう。西側は鎖ヶ岳が鎌尾根を引いてそびえている。また、その右側には鈴鹿の盟主御在所岳も控えているし、その間には雨乞岳も見える。展望のすばらしいこの山頂でゆっくりとお昼を楽しめばよいだろう。

三角点のある本峰へは湯ノ山への登山道が分岐している鞍部を経て行くが、山頂は展望もなく狭いので荷物を置いて行くのもよいだろう。往復30分もみれば十分だ。

鎖ヶ岳へ縦走をする場合は、本峰からさらに西へたどることになるが、これは時間もかかり中級者以上のコースとなる。来た道を忠実にたどって戻るのがよい。

（平成11年6月20日ほか歩く）

△コースタイム▽

近鉄四日市駅（バス50分）宮妻口（15分）キララ橋登山口（15分）山腹取付点（20分）尾根道（40分）735㍍ピーク（35分）雲母峰第Ⅱ峰（山頂往復・30分）宮妻口

＜地形図＞2万5千＝伊船

＜問い合わせ先＞

三重交通　0593（23）0808

特選コースガイド③　大峰南部

2等三角点のある山

転法輪岳と大黒天神岳

（てんぽうりんだけ　だいこくてんじんだけ）

初級コース（★　）

山形　歳之

転法輪岳（1281・2m　点名・池峰）

紀伊半島を縦断する大峰山脈は、吉野から熊野本宮に到る奥駈道として有名である。未だに女人禁制の山上ヶ岳や玉置神社。峰々に行場等があり、修験道の山である。

また、近畿を代表するこの山脈は、登山者にとっても魅力ある山々が連なり、全山を縦走するには一週間を要す。水場も少なく有人の山小屋は限られているので、縦走するには相当の準備が必要である。北アルプスや南アルプスを縦走したことがある私も、地元にいながら全山縦走は果たしていない。

長大なこの山脈の中には、1等三角点が三山、2等三角点が六山ある。今回は行き残していた2等三角点の二山を訪ねることにした。

平成10年10月。山麓の下北山村まで出かけたのだが、「台風で林道が荒れ、登山口まで入れないだろう」と言われ、他の山に転進した。

一ヶ月程経ってもう通れるだろうと再度訪れる。初日は現地到着が遅くなったので、同じ稜線上にある行仙岳をめざす。林道から屏風状の国道425号線は、大型車は通れない急勾配の曲がりくねった道で、白谷トンネル東口が登山口になる。鉄階段のあるNTTのアンテナ道で、よく整備されているので、1時間足らずで簡単に山頂（2等三角点）に立てた。

下北山村の池原には立派な「きなり温泉」（入浴料500円）があり、その夜は温泉の公園に車を駐めた。

翌朝、小又池之郷林道に入る。舗装はされているが、狭い道の所どころに岩屑が散らばる。どこまで走れるのか不安だ。対岸の岩壁はすばらしい景観を見せ、交通の便が良ければさぞかし名所になるだろうと思う。やがて舗装道が終わり鉄バイプのゲートが現れる。扉は開いていたが、その先の林道はガラ石の積み重なりで、乗用車での乗り入れが躊躇される。しかしまだ先は長いので、四輪駆動にして乗り入れる。ゆっくりと走るが一向に道が良くならない。とうとう辛抱しきれず、1㎞ばかりの所で車を置いた。ところが歩き出すと道が良くなってくる。引き返すのも面倒なので、そのまま林道を歩いて行く。峠の方からチェンソーの音が響く。植林の作業でもしているのかと

転法輪岳2等三角点

思ったら、林道に倒れた大きな木を切って片づけている人たちがいた。かねがね「新宮山の会」の人たちは、奥駈道の整備をしていると聞いていたので、声を掛けると、やはり会の人が道の補修をしているとのことであった。峠には20人くらいは泊まれる持経の小屋がある。

峠から南へ縦走路に入る。ここでも会の人たちが道に倒れた樹木を切っていた。感謝のほかはない。

稜線の道はササが刈られ、遊歩道並みに歩きよく、道標には次のポイントまでの標準タイムまで記されている。私は前鬼から北のコースは歩いているが、南の奥駈道は人も少なく困難な道と思っていたので、こんな立派なハイキング道があるとは意外であった。

少しの登り下りで平治の小屋に着く。修行の小屋だが囲炉裏のあるこぎれいな部屋で、泊まりたい気分になった。

山在峠の石塔

やがて大きな蜘蛛の立つ転法輪岳に登る。雑木に囲まれあまり展望の良くない平凡な山頂であった。

持経の小屋におりて来ると、作業を終えた人たちが休んでいた。また北から縦走して来た20人ばかりが憩っていた。作業のため林道のゲートは開けられていたが、閉鎖されることもあるらしい。持経の小屋へは西側の白谷林道からも入れる。

（平成10年11月1日歩く）

△コースタイム▽

持経の小屋（50分）平治の小屋（25分）転法輪岳

△地形図▽5万＝釈迦ヶ岳

2万5千＝池原

大黒天神岳（573・6m　点名・ト型）

大黒天神岳は奥駈けの最終日。玉置山から本宮にくだる稜線上にある。

五条から新宮にのびるもう一本の紀伊半島縦断の国道168号線を南下し、本宮の切原から山在峠を越す林道に入る。峠に到ると奥駈道の案内が出てくる。

玉置山の方向に進むと宝篋印塔の下に出る。五、六台の駐車スペースがある。ここから奥駈道に入る。すぐ宝篋印塔があり、植林の尾根を登る。稜線に出て二本の鉄塔を過ぎ、一つのピークに登り着くと2等三角点が設置されていた。その先に大きな山塊が見えて、その山だとばかり思っていたので、意外な到着であった。アンテナと山名板、道標だけの平凡な山頂であった。植林で展望はあまり得られない。奥駈道のことで道は良い。

（平成10年11月4日歩く）

△コースタイム▽

山在峠宝篋印塔下（1時間）大黒天神岳

△地形図▽5万＝十津川

2万5千＝伏拝

特選コースガイド④

湖北

環状列石と風穴の森
かぶと山（兜黛山）

初級コース（★　）

柴田　昭彦

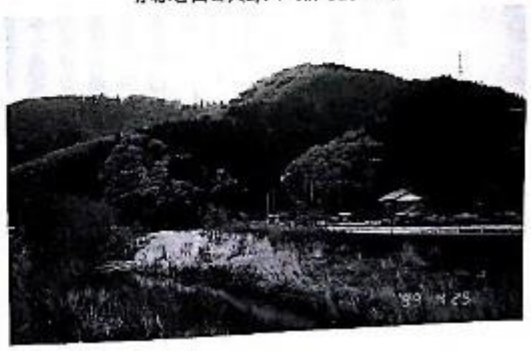
最近は『近江百山』『滋賀県の山』など、県域のガイドも増えてきたが、伏木貞三『近江の山々』（白川書院、昭和49年）というコンパクトな本が出版された当時は、比良と鈴鹿のガイドはあっても、他の近江の小さな山々を採りあげたものはなく、これは先駆的な本といえよう。自然と人との交流を詩情豊かに描いていて、読者を近江の山々の魅力に引き込んでしまう名著である。もちろん絶版なので、滋賀県立図書館等で読むほかはないのが残念である。『近江の山々』を読んでいて、ずっと気になっていたのが「兜黛山」であった。

伏木氏は低い山とばかりに、無謀にも「地図も持たず、道も調べず、足の向くまま」登りだしたところ、すぐに道は消え、倒れたクマザサと山躑躅、茨をかき分けて、悪戦苦闘の末、ふらふらになって山頂に達している。伏木氏をして、かぶと山に向かわしめた動機は、頂上に「神籠石環列石」があることを初めて知ったからであったようだ（伏木氏は「じんごいし」とふりをつけるが、斎藤良吉によると、「こうごいし」が正しい。別冊歴史読本『日本名城総覧』新人物往来社、1988年、参照）。

地形図を見ても、かぶと山の山頂への道は記入されていない。しかし、近江町全図（一万分の一）には尾根伝いの道の記入があり、「近江のしおり」（町勢要覧）には「かぶと山遊歩道」の記載があるので、どうやらやぶをかき分けなくても、山頂に達することができるように思われた。

筆者が最初に訪れた時は、山頂の北東の麓から町界尾根に沿うNHKテレビ中継所への巡視路を利用して北峰に達したが、急坂があり、夏草の繁る箇所もあるので避け、今回、よく整備された「かぶと山遊歩道」と中山道「醒ヶ井宿」の名所を巡るコースを紹介する。

かぶと山と天野川（新町橋から）



JR東海道本線醒ヶ井駅で降りる。醒ヶ井は街道沿いの宿村として知られ、名所も多く、古来歌枕の地としても名高い。駅の「清流の里・宿場町　醒井案内」で名所がよくわかる。駅の北側にかぶと山の中峰・南峰がデンと横たわり、北峰も見えている。

国道21号線を横断し、右の醒井養鱒場

「神籠石」と刻んだ石碑

方面への道を進む。橋を渡り、次の辻（中部北陸自然歩道の道標がある）で右へ入ると中山道である。途中、右手（北側）に六軒茶屋跡がある。昭和三十年代までは草葺屋根の民家が六軒ほど並び、最近まで一軒だけ残っていたようだ。今では松並木と共に草葺屋根も姿を消し、ノスタルジーだけが残る。

先の辻へ戻り、中部北陸自然歩道の道標に従い南下してすぐ右折して名神高速沿いに進み、川に出合って右折、丹生川橋のそばに出る。ここで国道を渡り直進すれば壬申の乱の橋河古戦場跡が右手に広がる。また国道を渡り右折すれば一類観魂寺衆の墓碑がある。

ここは左へ側道橋を渡り、国道を横断して直進し、低い線路下をくぐり、天野川堤防沿いの道をたどる。今では寂寞だけとなった浮橋とヒグチ橋のかわりに平成十年に作られた河南稲口橋を渡り、左折してすぐ右手の地道をたどる。山麓線に沿う農道で、ほどなくサイクリングロードに合流し、右折。ロードが左に折れる地点で右手の山道に入る。左手に小屋が現れたらそのそばのやぶ道から溝をまたいで越し、倉庫前の駐車場に出る。舗装道をたどり、大宮神社をめざす。

神社手前で右の道に入ると案内図があり、南登山口順路に入る。かぶと山の概要の説明板がある。オオムラサキについての説明板も出てくる。桜並木のなかにベンチなどもあり、鎮守の森が広がる。次第に急坂となり、ジグザグに登ると竜宮の森に出る。山の神の祠があり、環状列石群の説明板も立つ。西側の展望が開けていて爽快である。名木かすみ桜もある。すぐ先に両峰がそびえ立つ。

山道を少し進むと順路の看板のあたりで右手に踏み跡があり、途中、岩と岩の間を抜けるとほどなく、4等三角点のある本峰山頂に達することができる。

元の道に戻り、杉林を抜け、補助ロープのある急坂を登ると環状列石群の看板が現れる。ここが中峰の南端で、土手状の道そのものが列石塁であることが観察できる。中峰遺構の列石群は南北約153m、東西長径約55m、短径約31mの長

かぶと山（中峰）の環状列石群（高さ1㍍の石垣が続く）

楕円形を成し、東西約二ヶ所で列石がとされた状態になっているという。人頭大の石を積み重ね、高さ1㍍、幅2㍍で環状に巡らし、石墨を構築したものである。

明治四十三年に紹介され、醒井村神籠石様列石と呼ばれてきているが、その築造の起源や目的等については定説がない。息長氏の祭壇（祭祀場）、古代山城、烽火台、墳墓、高地性集落（住居）、中世の城郭説などがある。

『近江町史』（平成元年）によると、学術的調査が実施されていないためはっきりしたことは言えないが、当遺構にかかわっての戦いは記録になく、「古代、有力豪族、息長氏の本貫の地であることは留意すべきことの一つと考えられる」と、整境説を示唆している。

環状列石（ストーンサークル）といえば、秋田県鹿角市大湯のものが有名で、縄文後期初頭（約4000年前）の葬送祭祀儀礼の舞台装置としての記念物（モニュメント）と推定されているが、かぶと山のものは、かなり年代が新しいようだ。

環状列石群の看板から少し進むと、右手に二列の石垣があり、石垣をくだると「神籠石」と刻んだ石碑があやしいムードをかもしだしているのに出くわす。伏木氏が訪れた時は1月2日であったためか供え物があったと言うが、今そのようなものは見当たらない。

石垣とは反対側の左手には所どころに巨石が見られるが、伏木氏の言う古墳の崩れたらしい巨石というのははっきりしない。もとの山道を進むとやがて列石はなくなり、岩塊が散在しているなかを歩く。右側にクマノミズキ・カラスザンショウの名札がある所で、苔むした石が列をなしていて、左手に列石が続く様子が観察できる。明らかに人工的な配石遺構である。少しやぶがちだが、石垣をたどってみるのもおもしろい。

遺構を過ぎて、ツツジの間を登りきると赤い目印があり、右手の植林尾根道（少し不明瞭）を経て、かぶと山の最西点（311・7㍍）のある北峰に達する。ここにはNHK醒ヶ井テレビ中継放送所があり、北東方向へ巡視路が続いている。右手の頂上部は、苔むした石が一見人工的に配置されているように感じるが、よく見れば自然石の地形である。だが、十分にファンタスティックな雰囲気があり、神の降臨する磐座のようでもある。

かぶと山（カブト山）は、兜山とも表記される。その他に、兜嶽山・向山・西山とも呼ばれるようだ（近江町史）。向山の読み方は示されないが「むこうやま」であれば、醒井の向こうにある山の意味であろう。西山は、東麓からの呼称と思われる。

山頂からは巡視路をたどってもよいが、急坂でやぶの箇所もあるので尾根道を引き返す。よく整備された道を北方へたどると風穴の森で、下りとなり、左手に多和田の風穴が現れる。深さ約18㍍、全長約100㍍で複雑な形状をした風穴である。鎖の囲いがあり中に立ち入ることは禁止されている。

風穴からくだった鞍部には道標があり、八坂神社にくだることもできるが、登り返して四季の森を通り、右に夫婦彫を見て、北登山順路の表示のある峠（辻）に着く。右手の雑木林のプロムナードを行けば行程を短縮できるが、整備された北登山順路をたどってみよう（左に進むと八坂神社である）。すぐに案内板があり、春はツツジ、秋は紅葉の遍い文句通りの花木の整備されたやすらぎの森、憩いの森の散策道をくだる。

多和田の風穴の入口

出た場所は多和田の集落で、入口付近に祠がまつってある。

右手（北）に進路をとる。祠の前の分岐で右の細い田舎道をのんびり行くとよい。すぐ民家に出合うが道なりに左へそれて進もう。虫捕りの親子連れとすれちがうような情趣のある道だ。舗装道を横断して、まっすぐに竹林に沿う狭い道をたどる。やがて峠に続く車道に出る。右手の谷にのびる山道は行き止まりなので、車道をたどり、峠を越えて黒田川にかかる橋を渡り右折し、天野川にかかる新町橋を過ぎて、線路下をくぐり、中山道沿いの名所を巡りながら、醒ヶ井駅に戻る。

名所として、鶯ヶ端跡・馬頭観音・三水四石（忌醒の清水、十王水、三行水、蛇石、眼掛石、鍬掛石、影向石）・加茂神社（名神高速工事のため昭和36年移設）・日本武尊像・紫石灯籠・醒井延命地蔵尊（既ゆし地蔵）・本陣跡（樋口山）・脇本陣跡（江橋邸）と明治天皇御駐輦所（石碑）・間歩跡・泡子塚（西行ゆかりの水子供養の五輪塔）・了徳寺のお花付銀杏（国指定天然記念物、推定樹齢60年）・松尾寺（醒井の観所）・梅花藻群生地・天然記念物級の珍魚ハリヨ生息地（地蔵川）・寺ヶ谷寺院跡・新川通船船付場・法善寺の寺門（彦根城の矢倉門を移築したもの）などがある。

これらのうち、影向石は『木曽路名所図会』に「源海寺の竹林にあり。賀茂明神此石上に影向し給ふ也」と紹介していて加茂神社の神霊が来臨した石である。高速道路をくぐる手前右手の小丘上にあるというが、現在ではやぶに埋没してしまったようだ。名所については、今井金吾『今昔中山道独案内』（日本交通公社）・淡海文化を育てる会編『近江中山道物語』（サンライズ印刷）に詳しいので参考にされたい。

（平成11年4月25日・5月1日歩く）

△コースタイム▽

醒ヶ井駅（60分）南登山口（20分）竜宮の森（25分）北峰（25分）北登山脈踏分岐（10分）北登山口（20分）峠（1時間）醒ヶ井駅

△地形図▽2万5千＝長浜・彦根東部

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電車　叡電・京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽地元ふれあいハイキング「竜王山からそばの花咲く笠荒神へ」　9月5日(雨天中止)(集合)　天理駅10時(コース)　天理駅(バス)　天理ダム—龍王山—笠荒神—長谷寺—長谷寺駅(約14㌔)　参加自由・無料(バス代拝観料別途)、上本町事業06(6775)3566

▽近鉄フリーハイキング「初秋の飛鳥・平城フリーハイキング」　9月9日(雨天中止)(集合)　飛鳥駅前10時30分(コース)　飛鳥駅—鬼の雪隠—鬼の俎—亀石—甘樫丘—飛鳥寺—橘寺—定林寺跡—高松塚古墳—国営飛鳥歴史公園館—飛鳥駅(約9㌔+地図渡し、係員は同行しません)　参加自由・無料(拝観料別途)、天王寺事業06(6624)0382～3

▽近鉄万歩ハイキング「世界遺産への道、白鳳寺から春日大社」　9月11日(雨天中止)(集合)　近鉄奈良駅東改札前9時10分(コース)　奈良駅(バス)　山村町—正暦寺—八坂神社—白毫寺—春日大社—近鉄奈良駅(約7㌔)　参加自由・無料(拝観料別途)、上本町事業06(6775)3566

▽近鉄・南海・朝日合同企画「金剛生駒紀泉アタック(セブン)、4回(二上山)」　9月12日(小雨決行(雨天中止の場合は12月5日)または12月12日)に延期)(集合)　葛城駅前8時30分～9時30分(コース)　葛城駅—当麻寺—当麻寺駅(約5㌔)—当麻寺—奥院—二上山(雄岳)—万葉の森—道の駅(竹田街道)—叡福寺—近鉄磯長駅—聖徳太子廟—上ノ太子駅(約13㌔)　参加自由・無料(拝観料別途)　＊小学生と75歳以上の単独参加は遠慮ください。天王寺事業06(6624)0382～3

▽近鉄万歩ハイキング「三輪・信貴縦走コースパート2、十三峠から高安山へ」　9月15日(雨天中止)(集合)　三輪ローブウェイ山上駅—玄賓庵—大神神社—三輪駅(約14㌔)　参加自由・無料(交通費各自)、上本町事業06(6775)3566

▽近鉄フリーハイキング「古代・飛鳥・平安時代を訪ねる歴史遺」　9月21日(雨天中止)(集合)　上ノ太子駅10時(コース)　上ノ太子駅—観音塚—宗井八幡宮—源氏三大の森—叡福寺—上ノ太子駅(約10㌔+地図渡し、係員は同行しません)　参加自由・無料、天王寺事業06(6624)0382～3

▽近鉄フリーハイキング「大和三山を巡る」　9月24日(雨天中止)(集合)　橿原神宮前駅中央改札前10時(コース)　橿原神宮前駅—橿原神宮—畝傍山—畝火山口神社—神武天皇陵—水泉師寺跡—耳成山—藤原宮跡—耳成山—八木駅(約14㌔+地図渡し、係員は同行しません)、上本町事業06(6775)3566

＊近鉄10月の企画は別途パンフレットを参照ください。

京阪・叡山電車・江若交通

▽北山ウィークデーハイキング「赤山禅院・西塔コース」　9月1日(雨天中止)(集合)　八瀬遊園駅9時30分(コース)　八瀬遊園駅—赤山禅院—水飲対神跡—三王の碑—ケーブル比叡駅—西塔—坂尾坂—八瀬遊園駅(約10㌔)　参加自由・無料(拝観料別途)、叡山電鉄運輸部075(702)8111

▽比良山平日ハイキング会「ススキの西南稜・武奈ヶ岳コース」　9月8日(雨天中止)(集合)　京阪出町柳駅10時(コース)　出町柳駅—ワサビ峠—武奈ヶ岳—イブルキのコバ—八雲ヶ原—山上駅(ロープウェイ・リフト)　山上駅(バス)　比良駅(約7・5㌔)　参加自由・無料(交通費各自)、京阪出町柳駅コンコース8時～8時30分(コース)　出町柳駅(バス)　朽木栃生—コメガイ分岐—ヒジキ流—地蔵峠—ヨコタニ峠—ボロブダ峠—蛇谷ヶ峰—ふれあいの里—朽木温泉(バス)　出町柳駅(約13㌔)　参加費(1ヶ月2名)(電話申込制)・参加費無料(バス代別途)、(申込先)　京阪バス営業課075(871)7521

▽スポニチファミリーハイク「青葉山・石山寺コース」　9月12日(雨天中止)(集合)　京津線・上栄町駅下車10分長等公園9時～10時(コース)　長等公園—自然観察の森—逢坂山歴史道—音羽山—パノラマ台—西国巡礼休憩地—幻住庵—石山寺駅(約12㌔)　参加自由・無料(交通費各自)、京阪ハイキング係06(6947)3702

▽こうじゃくMtハイキング「白倉岳コース」　9月21日(雨天中止)(集合)　JR篠田駅8時37分(コース)　篠田駅(バス)　杉本熊生—北岳—鷹ヶ峰—村井(バス)　安曇川駅(約5・5㌔)　参加申込制(1ヶ月前から)・参加費250円(バス代等)、(申込先)　江若交通本社077(573)2701

▽京福ハイク「愛宕山・月輪寺コース」　9月23日(雨天中止)(集合)　京福嵯峨駅前9時30分～10時(コース)　車山駅前(バス)　清滝—水尾—桂—愛宕神社—月輪寺—清滝(約11㌔)　参加自由・無料(交通費各自)、京福電鉄管理課075(801)5315

▽スポニチファミリーハイク「鞍馬・天ヶ岳コース」　9月26日(日)　9時～10時(コース)　鞍馬駅—奥王坂—三角点—三叉路—天ヶ岳—百井峠—扶桑峠—鞍馬駅(約12㌔)　健脚向)　参加自由・無料(交通費各自)、京阪ハイキング係06(6947)3702

▽五感で歴史ウォーク第4回「京都・東山ねねの道から稲荷山」　10月3日(雨天中止)(の場合は10月17日(日)に延期)(集合)　京阪出町柳駅下車10分百万遍知恩寺9時30分～10時35分(コース)　知恩寺—吉田神社—吉田山—金戒光明寺—平安神宮—青蓮院門跡—知恩院—円山公園—ねねの道—産寧坂—清水寺—子安の塔—三年坂—社前—豊臣秀吉—長生野陵墓—長楽寺前—祇園四つ辻—伏見稲荷駅(約14㌔)　参加自由・無料(交通費・拝観料別途)、京阪ハイキング係06(6947)3702

▽京都北山三角点トレック第5回「愛宕山コース」　10月9日(日)小雨決行(中止の場合は10月23日(日)に延期)(集合)　京阪出町柳駅コンコース3時～3時30分(コース)　出町柳駅(バス)　尼長谷—芦火谷分岐—ツボクリ分岐—芦子山—岩戸谷—ヒノコ峠—三谷峠—三谷林道—三谷口(バス)　出町柳駅(約14㌔)　健脚向)　参加定員200名(1ヶ月前より電話申込制)・参加費無料(バス代別途)、(申込先)　京都バス営業課075(871)7521

▽北山ウィークデーハイキング「アソガ谷・百井谷コース」　10月13日(雨天中止)(集合)　叡山電車鞍馬口駅9時30分(コース)　貴船口駅—貴船神社—奥宮—奥宮前—アソガ谷—尼ヶ岳—百井峠—百井谷—鞍馬駅(約13㌔)　参加自由・無料(交通費各自)、叡山電鉄運輸部075(702)8111

▽比良山平日ハイキング会「紅葉の比良山系縦走コース」　10月21日(水)・27日(雨天中止)(集合)　JR比良駅8時45分～9時15分(コース)　比良駅(バス)　山瀬駅(リフト・ロープウェイ)　山上駅—八雲ヶ原—イブルキのコバ—細川峠—釣瓶峠—堂満岳—ホッケ山—ヒロ谷—ヒロ谷峠—コタニ峠—畑(バス)　武佐高島駅(約8・5㌔)　健脚向)　参加定員100名(1ヶ月前より電話申込制)・参加費1900円(比良駅から交通費)(申込先)　比良ロープウェ

イ車業課077（596）0516

▽比良連峰アタック「白滝山・打見山コース」　10月24日(日)雨天中止（集合）京阪出町柳駅コンコース8時30分～9時30分（コース）出町柳駅（バス）坂本―伊藤新道集合―白滝山―長滝―北谷―打見山山頂―山麓駅（バス）志賀駅（約7・5㌔徒歩）参加自由・参加費大人2200円小人1100円（バス代・ゴンドラ代込）、京阪ハイキング係06（6947）3702

▽こうじゃくMtハイキング「紅葉の百里ヶ岳コース」　10月23日(祝)雨天中止（集合）JR安曇川駅8時54分（コース）安曇川駅（バス）小人谷―百里新道―シチクレ峠―百里ヶ岳―根来坂―焼尾地蔵―小人谷橋（バス）安曇川駅（約10㌔）参加電話申込制（一ヶ月前から）・参加費2000円（バス代等）、（申込先）江若交通本社077（573）2701

南海

▽駿河ヘルシーハイク「高野山町石道ハイキング」　9月23日(祝)雨天中止（集合）高野線九度山駅9時30分（コース）九度山駅―慈尊院―南谷山展望台―六本杉―片生都比売神社―二つ鳥居―一町―上古沢駅（約13㌔）参加自由・無料、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽駿河ヘルシーハイク「裏山雨山自然公園ハイキング」　10月9日(日)雨天中止（集合）泉佐野駅9時（コース）泉佐野駅（バス）土丸―土丸城跡―雨山―小関谷の頭―上水楽池―東ハイキングコース―大阪体育大学前（バス）泉佐野駅（約10㌔）参加自由・無料（バス代実費）、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽駅長推薦南海沿線ぶらりあるき「産業祭・女人堂を経て高の院へ、秋の高野山を歩く」　10月23日(日)雨天中止（10月30日に延期）（集合）高野線学文路駅10時10分（コース）学文路駅―女人堂―転軸山森林公園―奥の院（自由解散）・約9㌔）参加自由・無料、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽南海・近鉄・朝日合同企画「金剛生駒紀泉アタック（セブン）、5回岩湧山」　10月24日(日)小雨決行（集合）滝畑ダムバス停9時～10時（南海河内長野駅からバス）（コース）滝畑ダム―カキザコー岩湧山―五ツ辻―根古峰―三合目―南海紀見峠駅（約12㌔）参加自由・無料（交通費各自）、南海テレホンセンター06（6643）1005

▽五私鉄歴史ウォーク第5回「岸和田城下町と泉州シーサイドロード」　10月31日(日)雨天中止（の場合は11月7日(日)に延期）（集合）南海羽倉崎駅下車中央公園9時30分～11時（コース）中央公園―マーブルビーチりんくう公園―青空市場―二色の浜公園―二色の浜パークタウン―貝塚寺内町めぐり道―だんじり会館―岸和田城―岸和田駅（約15㌔）参加自由・無料（交通費別途）、南海テレホンセンター06（6643）1005

阪神

▽五私鉄歴史ウォーク第3回「明石海峡・望海ウォーク」　3月19日(日)雨天中止（の場合は9月26日(日)に延期）（集合）山陽須磨浦公園駅下車須磨浦公園9時～10時（コース）須磨浦公園―旅振山―井植記念館前―東垂水漁業公園―平磯緑地・恋人岬―マリンピア神戸―アジュール舞子―舞子公園・明石海峡大橋―舞子公園（ゴール）―舞子公園駅（約12㌔）参加自由・無料（交通費別途）、阪神電鉄運輸部営業課06（6457）2258

神戸電鉄

▽神鉄ハイキング「鈴蘭ミステリーハイク」　9月5日(日)雨天中止（集合）中鉄社9時30分（五社駅より2200㍍）（コース）当日発表（約13㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽神鉄ハイキング「百丈岩と塩田八幡宮ハイク」　9月23日(祝)雨天中止（集合）二郎駅9時55分（コース）二郎駅―平田配水地―百丈岩―塩田八幡宮―三田本町駅（約12㌔一般向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽神鉄ハイキング「帝釈観山跡と稚児墓山ハイク」　10月3日(日)雨天中止（集合）藍那駅―藍那駅9時35分（コース）藍那駅―藍那宮道―帝釈観山跡―稚児墓山―グリーンスポーツホテル―箕谷駅（約14㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

事業部078（521）0321

▽神鉄ハイキング「大宮八幡宮秋まつりハイク」　10月10日(日)雨天中止（集合）志染駅10時30分（コース）志染駅―三木山森林公園―大宮八幡宮―上の丸展望台―三木上の丸駅（約8㌔家族向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

山陽電車

▽山陽ハイキング「お鷹山・小富士山ハイク」　9月12日(日)雨天中止（集合）妻鹿駅10時（コース）妻鹿駅―お鷹山―小富士山（麻生山）―白浜の宮駅（約10㌔一般向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽山陽ハイキング「須磨お月見ハイク」　9月23日(祝)雨天中止（集合）須磨浦公園駅下車鉢伏山展望園前18時30分（コース）須磨浦山上展望園前―鉢伏山―おらが山―須磨寺（約4㌔家族向）参加自由・無料（懐中電灯必携）、須磨浦遊園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「御津町イモ掘りハイク」　10月3日(日)雨天の場合10月10日(祝)に延期（集合）網干駅下車網干川堤若草橋10時（コース）網干川堤若草橋―富栄神社―新屋―成山新田（イモ掘り）―大覚寺―山陽網干駅（約10㌔家族向）参加自由・無料（イモ掘園入園料別途）、須磨浦遊園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「林崎漁港・野々池ハイク」　10月24日(日)雨天中止（集合）中八木駅下車大久保浄化センター公園10時（コース）大久保センター公園―大久保本陣跡―林崎漁港―野々池野水池―住吉神社―藤江駅（約11㌔一般向）参加自由・無料、須磨浦遊園ハイキング係078（731）2520

三岐鉄道

▽鈴鹿の山を歩こう「宇賀渓砂山（山沿いコース）」　9月5日(日)雨天中止（集合）近鉄富田駅三岐線ホーム9時05分（コース）富田駅（電車）大安駅（バス）宇賀渓キャンプ村―（山腹道）―五階滝―長尾滝―（砂山道）―砂山―宇賀渓キャンプ場（バス）大安駅（電車）富田駅（約8㌔初心者向）参加自由・参加費200円（交通費別途、三岐鉄道運輸課観光係0593（64）2141

▽鈴鹿の山を歩こう「初秋の雲ヶ岳」　9月25日(日)雨天中止（集合）近鉄富田駅三岐線ホーム8時（コース）富田駅（電車）大安駅（バス）宇賀渓キャンプ場―中道―竜ヶ岳―石榑峠―小峰―日道―御祓橋―宇賀渓キャンプ場（バス）大安駅（電車）富田駅（約12㌔徒歩向）参加自由・参加費200円（交通費別途、三岐鉄道運輸課観光係0593（64）2141

▽鈴鹿を歩こう「秋深の藤原岳」　10月3日(日)雨天中止（集合）近鉄富田駅三岐線ホーム8時（コース）富田駅（電車）西藤原駅―大貝戸道―藤原岳―聖宝寺道―西藤原駅（電車）富田駅（約9㌔一般向）参加自由・参加費200円（交通費別途、三岐鉄道運輸課観光係0593（64）2141

▽鈴鹿を歩こう「秋深の御池岳」　10月24日(日)雨天中止（集合）近鉄富田駅8時（コース）富田駅（電車）西藤原駅（バス）御池岳登山口―コグルミ谷―御池岳―鈴北岳―鎌掛峠（バス）西藤原駅（電車）富田駅（約11㌔一般向）参加予約申込制定員200名・参加費200円（交通費・バス代1000円別途、（申込先）三岐鉄道運輸課観光係0593（64）2141

奈良交通バス

▽万葉の大和路を歩く会「王かきる二上山へ」　9月26日(日)（集合）近鉄富田駅北口8時30分（コース）富田駅（バス）叡福寺と聖徳太子御陵―孝徳天皇陵―竹内街道―二上山峠―雄岳・大津皇子墓へは各自で）―馬の背―烏谷口古墳―当麻寺―当麻寺駅（8㌔少し健脚向）テキスト・バス代実費、講師奈良女子大学教授坂本信幸氏、参加申込制（一週間前までにハガキか電話で平日9：00～17：30間に下記宛申し込んでください）〒630―8651奈良市大宮町一丁目一番25号、奈良交通「万葉の人和路を歩く会」係☎0742（20）3133

□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。

せせらぎ

題字・小林玻璃三

近年、三重県では局ヶ岳や局岳で新コースが整備され、登る楽しみが増えた。

5月8日、三岐県境の烏帽子岳に行ったら、時山バンガロー村からの新コースがあると分かり、登ってみた。送電鉄塔の巡視路なので登りやすい。鉄塔からは時山の集落、尾根からは住跡の韮花畑が望めた。稚児百合の花や蕨薬の新芽も楽しい。標高700㍍を過ぎると、木石、楡花が出てきた。片栗、岩団扇の花は終わっていたが、岩鏡が花盛りだった。衝羽根空木、深山樒の花も可愛い。稜線に出て一つ目のピークを越えると、山頂直下の南斜面に満開の石楠花が見えていた。最高点を踏んだ後、景色の良い岩場まで戻って昼食にする。石楠花の向こうに、ソノド・霊仙山・鍋尻山・三国岳・鈴北岳等が並んでいた。花と新緑を愛でながらゆっくり登って2時間、下りは1時間20分のコースタイムだった。

（藪木伸人）

4月29日、大又から池小屋山へ向かうため、大又林道終点の登山口に着いてみると、あしび山荘付近で山斜面の大崩落があり、登山禁止の看板が出ていた。登山道も幅広く拡張されつつあり、工事車両がその奥へ入っているのがうかがえた。

そのコースをあきらめて、高見大峠へ行った。そこから尾根道をとって、雲ヶ瀬山・ハンシ山・伊勢辻山と幾つもの登り下りを繰り返した。赤ゾレ山に着いた時に正午になったので、食事休憩にした。

展望は360度、時々日が差すが風は冷たく、防寒着を着ていてもかなり冷える。谷の向こうの薊岳や稜線の先の国見山の頂は霧氷で真っ白だ。遠くに見える山上ヶ岳や大台ヶ原山の頂が白いのは雪が降ったのであろうか。

気がつくと薊岳のはるか上空を一羽の鳥がこちらへ向かって飛んでくる。みるみる近づいてくる黒い点をよく見るとカラスだ。私は今まで、カラスは群れて生活し、低空圏を制する生き物だとばかり思っていたが、このカラスは1400㍍を超す峰のはるか上空を、何かの目的と強い意志を持って一直線に飛んで行った。この姿は何だろうか、遠い地に住む恋人に逢いに行くのであろうか、それともこれが異国の地に旅立つ「旅がらす」の正体なのだろうか。

わずかの時間で高見山の方向へ飛び去っていったカラスを見

○新ハイ関西サービスチェーン

名峰・二岐登山 小白森―大白森―甲子・那須への縦走基地 1名でも就寄り駅送迎可（要予約） 露天風呂と内湯
福島・二岐温泉 日観連 大和館
〒962-05 福島県岩瀬郡天栄村二岐温泉
電 0248-84-2021
F 0248-84-2705

富士登山・富士五湖 東海自然歩道（石割山・ハリモミ純林）
三国山の麓
ペンション コットンテール
〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野
電 0555-65-8515

大菩薩峠中腹から大菩薩嶺分岐点 眺望・岩風呂あり JR中央線塩山駅下車タクシー40分 バス20分登山口下車徒歩2時間
山小屋 福ちゃん荘
〒404-0022 山梨県塩山市上萩原
電（自宅）0553-33-4639 （山小屋）0553-14-9215

尾瀬、平ヶ岳探勝と釣りの山小屋 越後三山只見国定公園内
清四郎小屋
ほんものの手打そばと高山に
樹海
〒946-0000 新潟県北魚沼郡湯之谷村樹海の果（銀山平）
電 090-2658-1008 期間外（11月～4月）は 02579-2-5026

て、その行動距離の大きさを羨ましく思った。そして、私の娘が「人間が空を飛べたら排気ガスの問題が無くなるのにね」と言っていたのを思いだした。私はそうなったら電線に引っ掛かり、あちこちで停電騒ぎが起こるのが心配だ。

（山形　明）

5月21日、仕事を終えてから和歌山への山旅へ出発した。

白浜から数㌔の大塔道の駅で野営後、早朝登山口の宗小屋谷橋をめざして安川大塔川林道を走り、朝食後法師山へ出発した。

きょうの予定は、法師山と大塔山である。うまくいけば縦走路を使って大塔山に行けるのであるが、あいにくやぶがかぶっていて無理のようである。

法師山から下山途中、「また同じくらいの標高の山を登るのか」と思うとゾーッとした。

仕方なく林道まで下りて、再び林道を40分程歩き、防火水槽の標識のある所から支尾根に取りついた。半信半疑で登っているとやっと大塔山の標識が出てきたのもつかの間、841㍍ピークと一の森の間で登山道が10㍍程崩れ落ちているではないか。細引き等を持っていなかったので、小笹などに運を任せてなんとかその場をクリアし、やっとこさ頂上に立つことができた。

頂上ではブナの大木が出迎えてくれた。下山は一の森分岐から905㍍ピークそしてヤケザキ谷・ヤイチ谷出合にくだり、長かった一日を終了した。

その夜は中辺路道の駅で乾杯。野営後、翌日、スーパー林道龍神本宮線を走り冷水山・安堵山鞍部に車を駐めて、両山をピストンして帰りの駄賃にした。

今度は高槻市めざして渋滞との戦いがまた始まった。

（吉武崇一）

5月下旬、屋久島を訪ねた。念願の標高差680㍍を登って、縄文杉との対面を果たしたわけである。しかし、高齢者にとって歩行距離20㌔の登り下りはやはり厳しい条件だった。熟年女性の中にも「もう駄目、ここで待っています」と断念した人や、苦しげに一歩ずつよじ登っていた高年男性もいた。ぼく自身は「夢に向かって精進を」積ねていたお陰で、そんなに苦しむこともなかった。

6時50分に歩き始め、17時10分に登山口に帰着したのであるが、縄文杉で過ごした1時間以外の10時間20分は、コースタイムの6～9時間に比べ、かなりの超過であった。

それにしてもすばらしかった。有名無名を問わず、縄文杉以外にも、厚い緑のコケにおおわれた巨大な屋久杉に目を見張らされた。近来にない最高の山歩きであった。

当日の歩数は40700歩を記録し、（表示㌔）×2000＝（歩数）という概念を、定量的に確認できたのも今回の収穫である。

（東谷　宏）

京都バス・江若バス比良線の村井や坂下から比良山系へ行くとき、登山道について左記の点を、留意されたい。

一、村井から横谷沿いのヨコタニ峠への道は通行困難。地蔵峠に通じる尾根道をとるほうがよい。

汗をたっぷり流せる温泉と 笹ヶ峰牛のシャブシャブ 日本海の鮮魚と山の幸
ハイカーの宿
ナガサキロッジ
〒949-2100 新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉
電 0255-86-2261

高山の花、湿原の花 妙高山と火打山 百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-2100 新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉 ナガサキロッジ
電 0255-86-2261

休憩昼食入浴も歓迎 10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福島館
〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1139
電 0460-4-9041

「伊豆の踊り子」の情緒、レトロな宿 踊り子に河津川の渓流
湯ヶ野温泉 湯ヶ野荘
ご希望の方に天城山（天城山）ハイキングコース案内等をして上げます
〒413-0507 静岡県賀茂郡河津町湯ヶ野93
電 0558-35-7225

前者は、昭文社の地図では、98年度版までは登山道として赤線で表示されていたが、99年度版で削除されている。

後者は、ヤマケイの地図・目地出坂の地図で登山道としての表示があるが、前者はない。

なお、後者のルートをとるときは舗装路から幅の広い地道に入るが、途中で踏み跡程度の尾根道をとることになる。このポイントを見落としたときは幅の広い地道を進み、峠付近で途切れている少し手前の地道の最高地点付近から、北へやぶのなかを強引に駆け上がって尾根道に出ることができる。

二、坂下から小女郎峠への登山のサカ谷道は、坂下付近で進入ルートが付け替えられている。

従来は桂昌寺に通じる橋を渡ったが、現在はもう一つ南側にある橋を渡り、堀切のそばの左岸（右側）を通り、右岸（左側）に渡ってから、北へ急斜面を登る。このルートには道標があり、迷うことはないと思う。

なお、前述三社の各地図では、坂下からの登山道はまだ訂正されていない。（吉塚孝次）

「通行手形」に関して少し説明をしたいと思います。

御池岳を始め、鈴鹿の山には多くの鹿が生息し、その姿を見ることも少なくありません。鹿の落とした角をやぶこぎの「通行手形」と小生らは呼んでおります。

鹿の角は毎年、秋の繁殖期を前に新しく生え変わります。4～5月に落ちますので、5～6月には雄であっても角を持っていないのです。生まれた年には雄に角は生えず、二年目で10㌢位の枝分かれしない角が生え、三年で二つに枝分かれ、四年で三つに枝分かれし、五年で親と同じ形の角になり、大きさは40～60㌢程になります。

今年6月13日に授かった「通行手形」は10㌢の二年物で、5月23日授かったものは26㌢の四年物と思われます。6月12日に授かったものは五年以上のもので53㌢の完全な美品でした。

最大のものは一昨年に授かった57㌢のものですが、秋に背川検谷で拾いましたので、少し傷があります。近藤先生が測定で授かったものも57㌢の大きさで、60㌢を超えるようなものはめったにないと思います。

一昨年までに三本、昨年が六本、今年はすでに六本を授かりましたが、いっしょに歩いた方に記念に差し上げたので、手元にはあまり残っていません。（山田明男）

山行短歌

4月14日　野坂赤坂山
名残り雪に遅々咲の花縋らばびお波北方の春ゆるやかに

4月26日　湖北七尾山
野弥呼の眠る岡よあなたに抱かれし遠き想い人恋処へ

4月29日　湖北七尾山
あの花この花集まるだけ集め七つ尾根を色づかせし奇跡

5月1日　飛騨川上岳
北アルプス御岳白山雄叫びの貴志収斂し美しき神たち

5月2日　奥美濃大日ヶ岳
ひるがの湿原に水芭蕉咲けど山の夏遅れ米で雪を抱く

5月11日　因伯氷ノ山
戦場の伸間ら笑顔で胸を張れ兵軍の最高地に立ちし時

四季彩りなす兼坂高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ　冬はスキー
けやき造りと味の宿・自然運
温泉旅館　けやき山荘
〒390－1503
長野県西安曇郡安曇村乗鞍高原
電　0263－93－2555

さわやかな信州
蓼科高原　山坊の湯
温田中温泉（蓼科）
日野屋旅館
〒381－0400　長野県諏訪郡
下井郡山ノ内町温田中温泉
電　0268－33－2218

標高2000m雲上の温泉
湯の丸高原　自然休養林
ハイキングにXCスキー
青峰温泉
〒384－0000
長野県小諸市高峰高原
電　0267－25－2000

ハイキングに／スキーに／
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯終点下車
電　0269－34－2421
東京本社・東京都新宿区新宿3
20－5（新北新2ビル）
㈱スポーツサービス
電　03－3341－0211

5月17日　湖北孚吹山

アイリーンよ君と見た湖は輝けど
湖北はもどらじ那千草の道

5月21日　神戸傳山から北野

青き眼の少女飛び跳ね坂を来て
洋館の絵窓に身を寄せし

5月25日　鈴鹿御池岳

あめのちはれ幸運の瑞々しき樹と
福々しい立ち枯れの樹よ

5月29日　石見三瓶山

道の駅、野の花、池の色よ初夏の
風と三瓶へ笠をみちびけ

5月30日　奥出雲鉄引山

出雲への神話の旅はほろほろと
風のたてがみ琴の音になびき

5月30日　奥出雲大万木山

樹は黙し語らぬものを我等へは
よろづ木歌ひ山毛欅林映ゆ

（木村太郎）

入梅後の晴れ間をついて奥美濃の大洞山に登る。地形図に山名記載のない1等三角点峰、岐阜県郡上八幡町と和良村境にある1034・8㍍峰である。

去年は地図なしで行ったので林道を間違え、この周辺で一番高い山へ登ったら市島（108 2・2㍍）だった。今回は地図を持って再度チャレンジし、宿願を果たした。山頂は木立に囲まれ展望に欠けるが、十分満足して下山した。

前日は、ブナの新緑とムシカリの清楚な白い花が出迎えてくれた大日ヶ岳に登った。多くのハイカーで賑わっていた。眺望も良く大パノラマをたっぷり味わった。

下山後、温泉でゆっくり汗を流す快感は病みつきになる。今回は「きふやまと温泉やすらぎ館」、母袋高原子に登って「母袋温泉」と、湯船に身を沈め、山と温泉を堪能した。

（鷲津清二）

6月5日～6日、「全国地名研究者大会」が姫路で催された。遠くは沖縄・北海道を始め、全国から参加された。

地元開催ということで、私は郷方の仕事をおおせつかり時間がなく、皆さんとの交流が少なかったのが残念だった。

講演内容は「瀬戸内の地名・文化―海の回廊としての瀬戸内」。二日目は、「地元出身の民俗学者柳田国男について」と、彼の生家見学であった。

このような大会が行われるのは、今何気なしに呼んでいる「山名」が理由あって現在の名になった経緯を知りたくてのことである。しかし山名探しははかどってはいない。ありがたいことに地名研究のモットーは現地を踏む（見る）ことだそうで、今後も山行に励めそうだ。

我が新ハイクラブにも先達がいらっしゃるので、あるいは出席されているのではと思ったが、バタバタしていて紙しく声が掛けられなかった。出席されておられたらお許しいただきたい。今後、何かとお知恵を拝借したいものと思っている。

（須賀岡　穣）

6月と7月は、家庭の事情で予定の山行をすべて中止し、参加の申し込みをされた方々には大変ご迷惑をおかけしました。8月も計画をとりやめ、三ヶ月間、新ハイの山行から御無沙汰しますが、9月から自然観察山行を再開するとともに、自然観察ハイクシリーズの第二弾も始めることとしました。

自然観察山行は貸切バスを使

塩の道　千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399－9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電　0261－72－4452

八ヶ岳周辺縦走の中心地
59年秋新規増築完成全館個室
木の香匂う新設全室冬氷暖房
オーレン小屋
1泊2食付き　6000円
4月末～11月末開設
〒391－0213
茅野市豊平2720　小平勝美
電　0266－72－2279

北八ヶ岳の登山基地　冬はスキー
JR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
蓼科高原
プチホテル　カナール
〒391－0301
茅野市北山蓼科高原笹平555
13の1
電　0266－67－2253

日本唯一の女人禁制の山「大峯山」（百名山）の登山口
尾鷲村々長女人コースもあり
五葉・名水の里
旅館　紀の国屋　甚八
1泊2食付　7,000円から
〒638－0431
奈良県吉野郡大川村洞川
電　0747－6－0309

うなどの事情もあり、従来通り定員制を実施します。定員制はやむを得ないことと自分自身に言い聞かせていますが、毎回キャンセル待ちの返事をお送りするのはとても心苦しく、また、本誌の発刊後またたく間に申し込みハガキが寄せられるのも、まるで競争をあおっているようで、複雑な思いがあります。

けれど、東海地方の山域も他のリーダーによる山行で回数が増加し、あるいは、新しく自然観察を主体にした個性的な山行も始まるなど、会員にとって選択の幅が広がりつつあり、申し込みが集中するのも次第に緩和していくようで、少しホッとしているところです。

秋からは、鉄道などを利用できる山域についてはできるだけ定員枠をはずす方向で計画したいと考えています。

なお、本誌上でも折々コメントがありますが、定員制山行への申し込みをされた場合、返事が遅くなるときは定員の枠内に入ったということであり、返事が早いのはキャンセル待ちの扱いになったものとご理解ください。

（竜見守孝）

六月山野行

2日 Ⅲ△栗山・Ⅱ△深田（いずれも「大和白石」再調査。

3日 伏見公民館「大和の峠を歩く」大峠案内。43名。

6日 「やまと地形図の会」Ⅲ△女岳（「大和高田」）案内。36名。

11日 「生駒さくら会」大阪生～都生花しょうぶ園案内。13名。

14日 「大和浸歩会」大柳生～柳生花しょうぶ園案内。参加32名。

17日 「氷室一番」室生ダム（荒れ地蔵・竜頭滝）案内。32名。

18日 笠木峠下見。（木雀雨天中止）

20日 「点のつどい」矢田寺～Ⅱ△松尾山～Ⅲ△一本松「信貴山」案内。33名。

21日 Ⅱ△観音寺（「畝傍山」）

22日 Ⅲ△下三橋（「大和郡山」）再調査。いずれも点検仁矢。

29日 ウーマンライフ社の矢田寺～Ⅱ△松尾山案内。雨天。26名。

（上田倖弘）

不特定の人たちと山を歩くようになって、もう何年くらいになるか。一昔は数えることだろう。始まりは図書館で目にしたある「集ひ」の山行案内だった。申し込みも手続きも必要ない、当日の気分の赴くままの参加でよかった。

いろいろな人と顔を合わす。老若男女、社会軟弱、ビギナーベテラン。集まった人のことは何も知らない。コースも何があるのか分からない、そこそこのアドベンチャールートだった。

不思議なもので、下界ではまとまらないであろう混成パーティも野山に入ると、助け合い気をつけ合ってコースを乗りきってしまうからすごいと思った。

そんなこんながうまくいった時は、何となく心はホッとするし、気持ちは温かくなって、ああ、きょうも参加してよかったな、と感じる。

こんな気持ちになるのも、またさせてくれるのも、提唱者やそのときのリーダーの持ち味にあるのは言うまでもないことだろうが、参加される方たちの、人対人でなく、人対山の自然と

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電話 09997-5-3322

御在所登山に
愛知川渓谷歩きに
山好き仲間の来る宿
朝明渓谷
山小屋 朝明茶屋
〒511-0125
三重県三重郡菰野町千草
電話 05059-3-1789

いう気持ちがそうさせるのだと思う。

吹き渡る甘い匂いを持った爽風、可憐な花の妖精たち、命を感じる幼葉から青葉へ、生を歌う小鳥たち、こんな野山の自然に母なる優しさがあるからであろう。まさにドップリと浸たり抱かれたい。

でも自然はいつも優しくはない。春の嵐は命を奪う。怒ると父なる厳しさがある。そんな時は、じっと頭を下げて自己を見つめ、来るべき時に備える。

（富井克治）

山行計画

（9・10月）

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。一度用一のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。

山行中し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。

体調の悪い方、幼児と共び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点所の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（後行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（安田火災海上保険会社と契約）

死亡・後遺障害保険金額 1000万円

入院保険金 日額 5000円

通院保険金 日額 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・8本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤観光の場合（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行名（正確に記入すること）

期日

住所 〒

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

養老山系自然観察ハイク1

幸運・小倉山（一般向き）

期日 9月4日(土) 日帰り

集合 JR大垣駅8時40分

コース 大垣駅（電車）近鉄養老駅—養老公園—三方山—小倉山—旧攻塔—養老公園—近鉄養老駅（電車）大垣駅（解散）

費用 約1500円（大垣駅から交通費）

地図 2万5千分の1養老

係 ◎磐見守康

申込み 名古屋市瑞穂区瑞穂町1の19の5 磐見守康まで

養老山系自然観察ハイクシリーズの第1回目。自然の観察と写真撮影に伴う不規則なゆき方が苦になられない方ご参加ください。小雨決行

越前・一乗城山（一般向き）

期日 9月23日(日) 日帰り

集合 JR名古屋駅中央改札口7時25分／米原駅発9時05分新井駅行きに乗車

コース 名古屋駅（電車）米原駅（電車）柳瀬駅（電車）一乗谷駅—朝倉氏館跡—一乗谷城—一乗谷駅（電車）柳瀬駅（電車）米原駅（電車）名古屋駅

一乗谷城は、朝倉氏の城跡で、一乗谷駅から約1時間の山道を登ります。

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも、緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。

申し込みの返信案内は締切が決まり次第、山行日の10日前頃にします。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

（初心者向）やさしいコース

（初級向）どなたでも歩けます

（一般向）ハイキングの標準コース

（中級向）かなり経験者向のコース

（やや健脚向）・（健脚向）は、危険な所があり、キツイ登りや、くだりが長く続くコースと、ご理解ください。

明倉城跡公園—本丸跡—一夜城山—一ノ丸跡—鉄塔—一乗谷駅（電車）福井駅（電車）米原駅（解散18時30分頃）

費用　約2,000円（資料代キップ使用）

地図　2万5千＝永平寺・河和田

係　◎小出良春

申込み　〒610—0121　城陽市寺田大拝10の10　新ハイキング関西まで

戦国大名朝倉氏の史跡めぐりです。城山は樹林帯なので低山のわりには暑くない快適なコースです。＊申し込みハガキに集合乗車駅を明記ください。雨天中止

○地図読み山行35

東海自然歩道を歩く（13回）

太神山（一般向き）

（新ハイ関西支部合同）

期日　9月5日(日)　日帰り

集合　JR石山駅前バスターミナル8時15分

コース　石山駅前（バス）アルプス登山口—迎え不動—泣き地蔵—太神山—矢筈ヶ岳—御松尾原—アルプス登山口（バス）石山駅

費用　約2,700円（大阪から）

地図　2万5千＝瀬田・朝宮

係　◎塚元一彦　○中河　登

申込み　〒536—0008　大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元一彦まで　＊定員30名（会員に限る）

3月に雨のため中止コースのリターンマッチです。湖南アルプスの主峰太神山から矢筈ヶ岳を歩いて地図読みを勉強します。初心者歓迎。指定の地形図とシルバー・III型コンパスを持参してください。雨天中止

名山踏歩3

北アルプスの山々

白馬岳・唐松岳・五竜岳

（やや健脚向き）

期日　9月9日(土)夜～12日(日)

前夜発2泊3日

集合　（9日）JR名古屋駅太閤口駅前22時00分

コース　（9日）名古屋駅（夜行バス）～

（10日）～猿倉—白馬尻—白馬大雪渓—白馬岳（小蓮沢）（歩程6時間）

（11日）白馬山荘—栂ノ岳—唐松岳—五竜岳—五竜山荘—遠見尾根—山頂駅（テレキャビン）山麓駅（バス）名古屋駅（解散）（歩程7時間30分）

費用　約36,000円（名古屋からバス代・宿泊代等）

地図　2万5千＝白馬岳・栂平・神城

係　◎秋場俊司　○渡辺　武　○多田礼子　○内田忠子　○伊藤田藤雄　○流川せつ子

申込み　〒120—8691　足立郵便局私書箱第17号　新ハイキング常駐グループ関西係まで　＊定員関西25名（会員に限る）　＊9月2日まで

新ハイキングクラブ東京合同。北アルプスの百名山二座を結んで、岩場や鎖場もある主稜線を縦走します。雨天決行

○初秋の池めぐり

御池岳の池と自然探査山行の

（やや健脚向き）

期日　9月12日(日)　日帰り

集合　JR関ヶ原駅9時20分／三岐鉄道西藤原駅9時00分

コース　各集合駅（電）コグルミ谷登山口—カタクリ峠—幻池—丸山—底池—オチョコブチ—丸池—夕日のテラス—日本庭園の池—元池—鈴北岳—タテ谷—コグルミ谷（解散）

費用　交通費各自

地図　2万5千＝関ヶ原・藤原

係　◎山田明男　○遠藤芳彦

申込み　〒503—0535　岐阜県海津郡南濃町松山624の19　山田明男まで　＊定員15名（大阪・京都方面からの電車の方を優先。関ヶ原駅より車を手配します）

ススキの穂の出始める初秋の池めぐりを楽しみましょう。＊申し込みハガキに集合駅を明記ください。マイカー参加の方はその旨お知らせください。小雨決行

鈴鹿・石榑峠から武平峠縦走

（健脚向き）

期日　9月12日(日)　日帰り

集合　武平峠・三重側駐車場7時00分

コース　武平峠（車・車）石榑峠—三池岳—釈迦ヶ岳—水晶岳—西見岳—御在所岳—武平峠（車）石榑峠（解散）＊石榑峠8時スタート予定

費用　交通費各自

地図　昭文社＝「御在所岳・鎌ヶ岳」

係　◎筒井宗治

申込み　〒610—0121　城陽市寺田大拝10の10　新ハイキング関西まで　＊マイカー山行（JR河内駅から連絡で便乗できます）

秋の一日、石榑峠から武平峠までの縦走を楽しみましょう。歩行約9時間です。雨天中止

鈴鹿を歩く77

鎌ヶ岳・大洞ノ頭・白滝山

（健脚向き）

期日　9月12日(日)　日帰り

集合　477号線元越谷林道入口手前広場8時30分

コース　広場（車）武平峠—鎌ヶ岳—鎌尾根—大洞ノ頭—白滝山—元越谷林道—広場（解散）

費用　交通費各自

地図　昭文社＝「御在所・鎌ヶ岳」

係　◎宮野　明

申込み　〒610—0121　城陽市寺田大拝10の10　新ハイキング関西まで　＊マイカー山行

鎌尾根から分岐して西に向かい元越谷の出合まで続く長大な尾根道を歩きます。雨天中止

近畿百名山を登る（第6回）

金高・[illegible]（やや健脚向き）

期日　9月16日(水)　日帰り

集合　近鉄大和上市駅9時00分

コース　大和上市駅（タクシー）神ノ谷林道—東谷林道—尾根分岐—小白髭岳—白髭岳—吉尾—中奥[illegible]谷林道終点（タクシー）大和上市駅（解散）

費用　約4,000円（大和上市駅からタクシー代）

地図　昭文社＝「大台ヶ原」

係　◎村田智俊　○則定保夫

申込み　〒610—0121　城陽市寺田大拝10の10　村田智俊まで

急登とやせ尾根のあるコースです。広葉樹の多い自然西又稜のピークをめざします。小雨決行

平日木曜ハイク60

北山・鎌倉山から峰床山

（一般向き）

期日　9月16日(水)　日帰り

集合　JR堅田駅8時30分

コース　堅田駅（バス）坊村—鎌倉山—オグロ坂峠—峰床山—八丁平—中村乗越—高川学校前（バス）堅田駅（解散）

費用　約3,000円（バス代）

地図　昭文社＝「京都北山2」

係　◎和中　毅

申込み　〒610—0121　城陽市寺田大拝10の10　新ハイキング関西まで

鎌倉山からのダイナミックな縦走、峰床山山頂での好望、高層湿原の八丁平など、北山の魅力満載の人気コースを歩きます。雨天中止

○週末ハイク17

比良・蓬莱山から釣瓶岳

（一般向き）

期日　9月18日(土)　日帰り

集合　JR近江高島駅8時55分（59分発バスに乗車）

コース　近江高島駅（バス）沖—ココタニ峠—地蔵山—釣瓶岳—細川越—八雲ヶ原—北比良峠—ダケ道—イン谷口（解散・バス）比良駅

費用　約3,500円（大阪から）

地図　昭文社＝「比良山系」

係　◎村野東彦　○加藤正彦

申込み　〒610—0121　城陽市寺田大拝10の10　新ハイキング関西まで

機嵐のなか、比良北部の尾根を歩きます。馬力があれば武奈ヶ岳もねらいます。雨天中止

√自然観察山行30

伊吹山・御池岳・鈴鹿高原

（中級向き）

期日　9月18日(土)～19日(日)　1泊2日

集合　（18日）JR岐阜駅8時50分

コース　（18日）岐阜駅（バス）

白袋スキー場—白袋温泉（泊）
子宝—白袋温泉（泊）
（19日）白袋温泉（バス）ひるがの高原—大日ヶ岳—水後山—松峰（バス）坂巻駅（解散17時頃）
費用　約17000円（岐阜駅からバス代・宿泊代・保険代・資料代含）
地図　2万5千＝石徹白・大鷲・二ノ峰・新潟・郡上・那留
係
申込み　〒504—0828　各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康
＊8月31日までに
＊定員20名（会員に限る）
6月に中止したコースを再計画しました。古今集ゆかりの白袋峠・千石と一寺三角点のある二百名山・大日ヶ岳を歩きます。自然の観察と写真撮影に伴う不規則な歩き方が苦にならない方ご参加ください。雨天決行（コース変更あり）

✓
鈴鹿・能仏谷から御在所岳（中級向き）
期日　9月19日(日)　日帰り
集合　近鉄名古屋駅北口（地下8時05分／近鉄四日市駅湯の山線ホーム8時50分）
コース　四日市駅（電車）湯の山温泉駅（タクシー）武平峠—沢谷峠—七人山のコル—東雨乞岳—雨乞岳—杉峠—コクイ谷—国見峠—御在所岳（ロープウェイ）湯の山温泉（バス）四日市駅（解散17時頃）
費用　約4000円（名古屋から交通費、タクシー・ロープウェイ代含）
地図　昭文社＝「御在所・鎌ヶ岳」
係
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
クマザサに包まれた雨乞岳から愛知川源流を見て、国見峠から御在所岳へ。下山はロープウェイにします。雨天中止

比良・権現山から蓬莱山（一般向き）
期日　9月21日(祝)　日帰り
集合　JR堅田駅江若バスのり8時40分（水分発杉木行きに乗車）
コース　堅田駅（バス）平—アラキ峠—権現山—小女郎池—蓬莱山—クロトノハゲ—大狗杉—キタダカ谷—志賀駅（解散）
費用　約3000円（交通費）
地図　昭文社＝「比良山系」
係
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
比良連山の見晴しのよい稜線を琵琶湖を眺めながら縦走します。雨天中止

✓
八ヶ岳・蓼科山と北八ツ池（やや健脚向き）
期日　9月25日(土)～26日(日)　1泊2日
集合　(25日) JR大津駅7時15分（30分遅発）
(25日) 大河原駅（バス）蓼科山七合目—樹林帯—大河原峠—蓼科山—将軍平—大河原ピュッテ（泊）
(26日) ピュッテ—双子山—夏沢峠—亀甲池—北横岳—山頂駅（ロープウェイ）—麓駅（バス）蓼科高原（入浴・夕食後バス）大津駅（解散19時頃）
費用　約22000円（バス代・宿泊代等）＊2日間の昼食は各自で
地図　昭文社＝「八ヶ岳・蓼科」
係
申込み　◎渡部孝子　○西田　昇　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員38名（会員に限る）
夫々、お断りの人が多かったので再行します。蓼科山は将軍平に荷物を置いてピストンしますが、時間がないのでやや速く歩きます。2日目はゆっくりできます。雨天決行

✓
鈴鹿を歩く78
杉峠・グイジョウ・カクレグラ（健脚向き）
期日　9月26日(日)　日帰り
集合　421号線佐目小谷入口
コース　広場8時00分（車）藤切谷日林道入口—杉峠—アゲンギョ—ダイジョウ—カクレグラ—佐目小谷広場（車）和南広場（解散）
費用　交通費各自

地図　昭文社＝「御在所・鎌ヶ岳」
係
申込み　◎岩野　明　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊8月31日までに
＊マイカー山行
千鹿越の杉峠からダイジョウ・カクレグラと続く長大な尾根を縦走し、佐目小谷の出合にくだります。雨天中止

北山ちょっと歩き1
朝日峰・蜂山（一般向き）
期日　9月23日(祝)　日帰り
集合　京都駅北口JRバスのり8時50分
コース　京都駅（バス）愛宕道—田所峠れ—岩倉田尻—松尾峠—朝日峰—蜂山—高山寺—梅ノ尾（解散）
費用　約2000円（京都から）
地図　昭文社＝「京都北山1」
係
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
少し長いコースですが、急坂もなく歩きやすいのんびりの登山です。雨天中止

養老山系自然観察ハイク2
芙蓉・小倉山（一般向き）
期日　10月2日(日)　日帰り
集合　JR大垣駅8時40分
コース　大垣駅（電車）近鉄養老駅—養老公園—三方山—小倉山—巨岩群—養老公園—近鉄養老駅（電車）大垣駅（解散）
費用　約1500円（大垣駅から交通費）
地図　2万5千＝養老
係
申込み　◎鷲見守康　〒504—0828　各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
養老山系自然観察ハイクシリーズの第2回目。自然の観察と写真撮影に伴う不規則な歩き方が苦にならない方ご参加ください。小雨決行。

✓
地図読み山行36
紅葉・四石山（一般向き）
（新ハイ関西支部合同）
期日　10月3日(日)　日帰り
集合　南海難波駅前バスのり8時45分
コース　難波駅（バス）金剛寺—登山口—送電鉄塔—四石山—鉄の子峠—境谷—JR山中渓駅（解散）
費用　約2000円（大阪から）
地図　2万5千＝磯井・岩出
係
申込み　◎塚元一彦　○中村　登　〒538—0008　大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元一彦まで
＊定員30名（会員に限る）
紀泉高原の一角、四石山は364mの低山ながら展望のすぐれたピークです。地図読みとコンパスの使い方を学習しながら歩きます。初心者歓迎。指定の地形図とシルバー直型コンパスを持参してください。雨天中止

✓
星空・鳳凰尊山から緑色光山（一般向き）
期日　10月3日(日)　日帰り
集合　近鉄名古屋駅6時25分／近鉄名張駅8時45分
コース　名張駅（バス）中太郎生—西蔵王—供御尊山—鳳凰尊山—本ボッシ—供御尊山—亀山—長尾峠—徐古光山—太郎路（バス）名張駅（解散16時45分頃）
費用　約5300円（名古屋から、入山料500円含）
地図　2万5千＝鳳凰尊山・菅野
昭文社＝「赤目・鳳凰尊高原」
係
申込み　◎小出良春　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
コースガイドに「鳳凰尊山は室生山地を代表する山。ススキの地帯にある360度の大パノラマ」とある。＊申し込みハガキに集合駅を明記ください。雨天中止

✓
鈴鹿・仙ヶ岳・御所平・安楽越（健脚向き）
期日　10月3日(日)　日帰り
集合　石水渓・梁川荘駐車場7時30分
コース　梁川荘（貸き車）安楽越（車）梁仙荘—鬼ヶ牙—仙ヶ岳—御所平—安楽越（車）梁仙荘（解散）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「御在所・鎌ヶ岳」
係
申込み　◎岡井克治　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

＊マイカー山行（JR河曲駅から運転で便乗できます）

仙ヶ岳に登り、安楽越までの縦走を楽しみます。雨天中止

三重の山47

鈴鹿・綿向山（一般向き）

期　日　10月9日(日)　日帰り

集　合　大阪駅「かもしか荘」前8時30分

コース　かもしか荘（車）西明寺登山口―建王山―奥の平鞍部―イハイガ岳分岐―綿向山―金明水―五合目―雨乞小屋―奥の平橋―登山口（解散15時30）

費　用　150円（交通費各自）

地　図　昭文社＝「御在所・鈴ヶ岳」

係　◎尾崎英五　○新町幸夫

申込み　〒513―0642　鈴鹿市平田東町4の5　尾崎英五まで

＊マイカー山行

絶向山を望みながらよく整備された笹三尾根を歩きます。頂上からは絶景で個が一望されます。小雨決行

飛騨・笠谷山・川上岳・位山（㉑級向き）

期　日　10月9日(土)夜～11日(月)

集　合　前夜発＝1泊2日

（9日）京都駅八条口近鉄改札口22時30分

コース　（9日）京都駅（バス）桂谷山いこいの森登山口―林道終点―谷山上長笈岳―ブナの木平―林道終点―いこいの森（バス）栗鹿の里スパー美郷（入浴・昼食）荻原町位山自然の家（泊）

（11日）自然の家―林道登山口―尾根展望広場―川上岳―天の岩道―位山―天の岩戸―スキー場登山口―知安峠（バス）京都駅（解散19時30分頃）

費　用　約17,000円（バス代・宿泊代等）

地　図　2万5千＝位山・山之口

係　◎村田智愛　○真比粉美

申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智愛まで

＊定員40名

大展望と紅葉の三山に登ります。川上岳から位山までは天空遊歩道を歩きます。雨天決行

鈴鹿を歩く79

頭陀の滝・東のボタンブチ・土倉岳（健脚向き）

期　日　10月10日(日)　日帰り

集　合　御池林道・小文谷分岐広場8時30分

コース　分岐広場―小文谷林道―ノタノ坂―遊歩路―上倉尾根―真ノ谷―頭陀の滝―真ノ谷―東のボタンブチ―土倉岳―ノタノ坂―小文谷林道―分岐広場（解散）

費　用　交通費各自

地　図　昭文社＝「鈴鹿・伊吹・藤原」

係　◎岩野　明

申込み　〒510―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

＊マイカー山行

昨年行けなかった頭陀の滝と奥の平の断崖を歩きます。雨天中止

○黄色葉・紅葉を見よう

御池岳の池と自然探査山行⑥（やや健脚向き）

期　日　10月10日(日)　日帰り

集　合　JR関ヶ原駅8時20分／三岐鉄道西野原駅9時30分

コース　各務原駅（車）コグルミ谷登山口―カタクリ峠―幻池―展望の谷―池の平の池めぐり―鈴北坂―タテ谷―キハダの滝―コグルミ谷（解散）

費　用　交通費各自

地　図　2万5千＝篠立

係　◎山田明男　○高橋芳彦

申込み　〒503―0535　岐阜県海津郡南濃町松山624の19　山田明男まで

＊定員15名（大阪・京都方面からの電車の方を優先。関ヶ原駅より車を手配します）

ウリハダカエデの紅葉・オオイタヤメイゲツの紅葉を楽しみましょう。＊申し込みハガキに集合駅を明記ください。＊マイカーの方はその旨お知らせください。小雨決行

北山ちょっと歩き2

沢ノ池・沢山（一般向き）

期　日　10月13日(水)　日帰り

集　合　京都駅北口JRバスのり

ば9時50分

コース　京都駅（バス）杉ノ尾―福ヶ谷林道―沢ノ池―沢山―上ノ水峠―京見峠―船山―西賀茂正面（解散）

費　用　約1,000円（京都から）

地　図　昭文社＝「京都北山1」

係　◎武山繁三

申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

高雄から沢ノ池周辺をめぐり、京見峠から落北を歩きます。雨天中止

名山踏歩4

台湾・玉山（やや健脚向き）

期　日　10月16日(日)～19日(水)　4泊5日

集　合　（15日）関西空港出発カウンター前8時00分

コース　（15日）関空空港＝台北（バス）阿里山（泊）

（16日）阿里山（バス）自忠（バス）上東埔―塔々加登山口―孟宗竹林―抹茶山荘（泊）

（17日）抹茶山荘―玉山上東峰（バス）嘉義（泊）

（18日）嘉義（バス）台北（泊）

（19日）台北＝関西空港

歩　程　（16日）約6時間

（17日）約8時間

費　用　約19万円（交通費・宿泊費等）

係　◎秋山徳司　○多田礼子　○内田聖子　○大島順夏　○荒川せつ子　○伊藤川盛雄

申込み　〒120―0869―1　足立区綾瀬弘道新田第17号　新ハイキング常陽グループ関西係まで

＊8月15日まで

＊会員に勝る

新ハイキングクラブ東京会員。富士山より高い高嶺の山です。申し込みハガキの余白に過去に歩いた3千対級の山を書くこと。申し込み確定者に詳細計画書郵送。

✓自然観察山行31

飛騨・三方岩岳と朝陽山（一般向き）

期　日　10月16日(土)～17日(日)　1泊2日

集　合　（16日）JR岐阜駅8時50分

（16日）岐阜駅（バス）白山スーパー林道三方岩駐車場―三方岩岳―駐車場（バス）河合村（泊）

（17日）河合村（バス）天生峠―朝陽山―天生峠（バス）岐阜駅（解散）

費　用　約17,000円（岐阜駅からバス代・宿泊代・保険代・資料代等）

地　図　2万5千＝周谷・中宮温泉・平瀬

係　◎鷲見守康

申込み　〒504―0626　各務原市蘇原対泉町―の15の5　鷲見守康まで

＊8月15日まで

＊定員20名（会員に勝る）

三百名山の三方岩岳と朝陽山を訪ね自然の紅葉がすばらしい朝陽山を歩きます（本誌50号参照）。自然の観察と写真撮影に伴う不埒則な歩き方が苦にならない方ご参加ください。雨天決行（コース変更あり）

✓落北・小谷山（一般向き）

期　日　10月17日(日)　日帰り

集　合　JR名古屋駅中央改札口7時25分／JR北陸本線河三駅9時25分

コース　河毛駅―小谷山登山口―聖護院―金剛丸―本丸―小谷山（車）米原駅（解散15時30分頃）

費　用　約3,000円（名古屋から）

地　図　2万5千＝虎御前山

係　◎小出良春

申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

戦国大名浅井氏三代五十年の小谷城跡があり、国指定として整備されている史跡をゆっくりと見ながら歩きます。＊申し込みハガキに集合駅を明記ください。雨天中止

北山・頭巾山（中級向き）

期　日　10月20日(水)　日帰り

集　合　京都駅八条口近鉄改札口付近7時45分

コース　京都駅（バス）山森―頭巾山―野鹿ノ滝―野鹿ノ滝橋（バス）京都駅（解散19時頃）

費　用　約4000円（バス代）

地　図　昭文社＝「京都北山2」

係　◎夏堀弘子　○加藤元彦

申込み　〒610−0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員25名（会員に限る）

紅葉の頭巾山を若狭に抜けます。平日なので静かな山行を期待しています。小雨決行

平日水曜ハイク23
湖北・大御影山（中級向き）
期　日　10月20日(水)　日帰り
集　合　JR京都駅烏丸口のりば
7時37分発に乗車
コース　京都駅（電車）近江今津駅（バス）ビラデスト今津−847.4ピーク−大御影山（往復コース）ビラデスト今津（バス）近江今津駅（解散）
費　用　約4000円（京都から）
地　図　2万5千＝熊川
係　◎湯浅次男　○青木一雄
申込み　〒569−1133
高槻市川西町1の18の20
湯浅次男まで
＊定員45名

長深い湖北のブナ林に秋を訪ね、近江坂の古道を歩きます。ややロングコースの往復ですが、しっかりと歩きましょう。小雨決行

徐福を歩く80
御所平・岳石・かもしか高原（難側向き）
期　日　10月24日(日)　日帰り
集　合　黒滝集落・田村谷林道広場8時30分
コース　広場（車）田村谷林道取付点−ヨコネ−御所平−水無し−舟石−かもしか高原−山女原−滝ノ原集落跡−林道−車道（解散）
費　用　交通費各自
地　図　明文社＝「御荷所・鎌ヶ岳」
係　◎岩野　明
申込み　〒610−0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

御所平のブナを楽しみ、安楽越の道をたどり、かもしか高原から山女原におりて黒滝へ首尾谷の林道をくだります（25号・40ページ参照）。雨天中止

◎近畿百名山を登る（第7回）
朽木・百里ヶ岳（一般向き）
期　日　10月26日(日)　日帰り
集　合　JR安曇川駅9時00分
コース　安曇川駅（バス）小入谷−百里新道−シチクレ峠−百里ヶ岳−根来坂−坂尾地蔵−生杉口（バス）安曇川駅（解散）
費　用　約5000円（実費から）
地　図　2万5千＝七屋
係　◎村田智彦　○安倉正勝
申込み　〒610−0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智彦まで

江若国境のブナ林のある山頂をめざします。遠く日本海を見ることもあります。小雨決行

平日木曜ハイク61
北山・岳山から廣河八丁（一般向き）
期　日　10月28日(木)　日帰り
集　合　京阪出町柳駅京都バスのりば7時40分
コース　出町柳駅（バス）広河原−尾花谷を経て佐々里峠−岳谷山−岳谷峠−廣村八丁−ソトバ峠−衣懸坂−芦原町（バス）北大路駅（解散）
費　用　約3000円（バス代）
地　図　明文社＝「京都北山2」
係　◎岡中　敏
申込み　〒610−0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

おなじみの廣村八丁を訪ねますが、今回は佐々里峠経由です。雨天中止

選抜ハイク19
大峰縦走・弥山から釈迦岳（やや健脚向き）
期　日　10月30日(日)〜31日(月)
1泊2日
集　合　〈30日〉近鉄大和上市駅9時20分
コース　〈30日〉大和上市駅（タクシー）行者還トンネル西口−弁天の森−奥三宿跡−弥山小屋（泊）
〈31日〉弥山小屋−八経ヶ岳−舟のタワ−楊子ヶ宿跡−孔雀岳−釈迦岳−深山谷−太古の辻−前鬼−林道終点（タクシー）大和上市駅（解散）
費　用　約18000円（大和上市駅よりタクシー・宿泊代等）
地　図　明文社＝「大峰山脈」
係　◎後藤貞彦　○加藤元彦
申込み　〒610−0121
城陽市寺田大畔15の10

新ハイキング関西まで
＊定員25名（会員に限る）

大峰縦走コースの第一弾です。2日目は会心歩ですので、その心積りで参加ください。雨天決行

信貴・船木山から駒ノ尾山（一般向き）
期　日　10月31日(火)　日帰り
集　合　JR西明石駅船頭橋出口8時45分
コース　西明石駅（バス）大蔵谷林道分岐−縁山キャンプ場−船木山−駒ノ尾山−駒ノ畑山荘−登山口（バス）乗合温泉（バス）西明石駅（解散19時頃）
費　用　約5500円（バス代等）
地　図　2万5千＝坂根・西市内・古町・千草
係　◎井上　保
申込み　〒674−0097
明石市大久保町西島3の1・20の104　井上　保まで
＊定員40名（会員に限る）

東の大蛇、西の後山、今に残る女人禁制の行者木宮、その後背にそびえる船木山からの眺めは登りの疲れをいやしてくれる。尾根筋は中国自然歩道です。雨天決行

山行報告
（5・6月）
新ハイキングクラブ関西

湖北・金糞岳
5月1日(土)　晴れ
JR長浜駅集合8・40〜50（タクシー）二俣キャンプ場9・15〜25−迫分10・15〜23−林道10・55〜11・00−林道11・50〜55−小朝の頭12・30（昼食）13・00−大朝の頭13・20−金糞岳13・50〜14・10−小朝の頭14・50−林道15・20−林道16・00−迫分16・25−高山バス停17・20〜45（バス）長浜駅18・20（解散）

頂上近くではショウジョウバカマ・イワウチワ・カタクリ・イワナシが咲いていました。山頂からは白山や能郷白山等が見えました。全体的に歩きやすいなだらかな道でしたが、歩行8時間の長い山行でした。（記録・中尾博子）

（参加者）中村英雄　山本良子　美村孝治　深川和子　石黒陽子　武田三可　松村雅子　青山治子　鍋野稔夫　鍵屋計園　新家務義　木村光江　田中　茂　佐賀章一　藤巣　邦　和田匠明　宮村孝次郎　保田　巳　四松孜雄　山本慶一郎　北川明子　北川真雅　山谷三鶴子　森　晴代　森　晴代　飯田由美子　鈴木恒雄　佐々木美千代　中尾博子　中尾博子　○朝倉利己　◎小出良春（計29名）

氷ノ山と妙見山
（近畿百名山を登る2回）
5月2日(日)〜4日(月)　2泊3日
〈2日　晴れ〉新大阪駅集合7・45〜56（電車）八鹿駅10・16〜30（バス）大谷保11・20−山の家11・30（登山）12・30−小代越13・20−高丈山13・30〜40−鉢伏山14・10〜30−スキー場15・00−朝日山の家・スキーハウス15・30（泊）
〈3日　晴れ〉山の家7・10−登山口公園7・45〜50−地蔵峠8・45−氷ノ山頂9・50−氷ノ山11・00（昼食）12・00−神大ヒュッテ12・20−鹿足郡鹿野小屋13・30−医院スキー場14・00〜30−山の家15・30（泊）
〈4日　雨〉山の家9・00（バス）八鹿駅10・00（解散）＊雨天のため妙見山は中止しました。

2日と3日は好天に恵まれ、鉢伏山と氷ノ山からの展望はすばらしかった。氷ノ山の登山道沿いにたくさんの花が咲いていた。雨で4日の妙見山は断念したが、また再行予定。
（参加者）栗　文子　井林茂登子　吉條孝次　吉川武司　波多野恵子　馬籠恵男　田中豊雄　田中真知子　小川明夫　武藤　剛　武藤美恵子　呉上裕美　田中まさ子　上田上子　岡田春夫　北川田鶴子　秋田雅峰　長沢信夫　伊藤明男　飯田久子　湯浅信男　白田三子　近江孝雄　青木一雄　藤石智子　清川明子　高橋雅彦　高橋由美子　小林千草　○安倉正勝　◎村田智彦（計30名）

霧島・栗谷山と川上岳
（自然観察山行26）
5月3日(祝)〜4日(月)　1泊2日
〈3日　晴れ〉−JR吳駅駅集合8・50〜9・00（バス）栗谷山林道登山口13・20−ブナの大草14・00−栗谷山14・40〜15・00−西郡眼ルート−林道登山口15・20（バス）秋原町荒船17・30（泊）
〈4日　雨〉旅館7・00（バス）ひるがの高原（バス）白馬温泉（バス）岳草駅14・45（解散）＊

川上岳は荒天中止しました。
　道休憩の大渋滞に巻き込まれて予定時間は狂いましたが、慈谷山には春雨 シロモジの花と自然林の芽吹きを味わいました。4日は荒天のため川上岳を断念。ひるがの高原でミズバショウを見て、温泉浴を楽しみました。
（参加者）眺野輝夫　近江美子　鈴方由子　城月清幸　鷹巣　邦多賀久子　竹田芳英　徳田梅子　夏山修子　チョン・サムスン　深坂　覚　深坂昌子　櫻田新一郎　本間　隆　三浦公雄　宮坂敏彦　森　時代　藤田敏明　◎鷲見宗康　（計19名）

三重・鳥岳

5月3日(祝)　晴れ
松阪駅前集合8・50～9・00（バス）朝日神社前9・50―登山口10・15―第一展望所10・50―尾根上分岐11・50―鳥岳11・20―大日如来石室11・25～35―鳥岳11・40（昼食）12・15―展望台12・25―丸戸13・15―朝日神社前14・00（解散）
　連休というのに、出会った登山者はわずかで静かな山でした。頂上には見晴らし台、大日如来石室のそばには東屋休憩所が新設され、地元も整備に力を入れているようです。吹き抜けるさわやかな風が心地よかった。（記録・中尾美智子）
（参加者）朝倉利己　野村達雄　美村米治　宇野弘幸　田中三恵子　宇野良子　浅井知子　中尾美智子　石川佳子　○藤田和洋　◎小出長春　（計11名）

笹原・仙ヶ岳（三重の山45）

5月8日(日)　晴れ
石水渓口集合8・30～45―林道終点9・45―御所谷出合10・30―仙の石（休憩）12・10（昼食）12・50―仙ヶ岳（西峰）13・00―御所谷分岐13・20―御所谷出合14・30―林道終点15・00―石水渓口15・50（解散）
　白谷も御所谷も湧水と小滝群。渡るばかりの新緑も格別で疲れを忘れさせてくれた。仙の石からは南鈴鹿の山が一望できた。そしてシロヤシオ・アカヤシオにも会え、恍惚とした。
（参加者）宇野弘幸　川米　隆　森　昭代　小堀直美　岡本美千子　鈴木　甫　○新町幸夫　◎尾鷲英五　（計8名）

比良・堂満岳（週末ハイク14）

5月6日(日)　晴れ
JR比良駅集合9・50～9・05（バス）イン谷口9・20～40―ノタノホリ10・05～10―堂満岳11・40～50―八雲ヶ原12・50（昼食）13・45―ホラ岳14・10～20―駅近岳14・35～45―大津ワンゲル準―イン谷口16・20（解散）
　見事なイワカガミを楽しみ、最後の急登をあえぎながら湖国のシャクナゲに迎えられて登覚岳山頂に到着した。午後はコースを変更して、釈迦岳から大津ワンゲル道をくだった。バスの待ち時間が長いため全員で比良駅まで歩いた。
（参加者）金森師子　中村敏春　宮本真幸　鈴木知雄　草野智恵子　原　文子　斎藤　隆　山口敏明　中坊裕子　秋田勝蔵　野里マツヨ　加藤佳彦　袖上　明　熊田千寿子　緒方由子　梶　良男　山本幸子　森田和子　渡谷節枝　佐田次男　上坂妙枝　斑井洋子　川上香代子　竹田喜英　北川実枝　西辰久枝　竹内喜久子　○加藤元彦　◎狩野清彦　（計29名）

御池岳の池と自然探査山行④
（カタクリとイワカガミの花）

5月3日(祝)　晴れ
JR関ヶ原駅集合8・20（車）コグルミ谷登山口9・35―長笛茶屋10・05―カタクリ峠10・35―幻滝11・05―藤瀬の谷11・40（昼食）12・20―池巡り―鈴北岳14・15―コグルミ谷登山口16・10（車）関ヶ原駅16・55（解散）
　カタクリは咲いていました。わずかですがイワカガミも見られました。14の池を回り、印象深いの花にも会えました。
（参加者）小尾木吉　符野清彦　近江秀子　福岡　幸　飯田由美子　原　文子　寺田久広　中井ひろみ　芳松朝子　下村晋子　光川二郎子　藤松雅子　石田哲二　市橋千代子　青柳孝次　鈴木正昭　鈴木忠昭　伊藤六栄　山田妙子　木村正弘　木村千代子　佐々木美千代　○高原芳彦　◎山田勝男　（計24名）

芦見谷から竜ヶ岳
（京都北山歩き83）

5月9日(日)　晴れ
京都駅山陰線ホーム集合7・50～8・02（電車）八木駅8・45～9・00（バス）出垣9・30～40―芦見峠10・10～20―竜ヶ岳（休憩）11・05―林道終点11・15―竜の小屋下に遅いついて来られた。見晴台からは中央アルプスも御嶽も絵のなかでした。下山道はブナ・カシ・ミズナラのオンパレードで、木霊に出会えそうな巨大樹のなか、森林浴を楽しみました。（記録・原文子）
（参加者）森　時代　原　文子　三井紘一　吳比裕美　木村光江　杉本　薫　田中　茂　由田郁代　神原計国　徳田梅子　藤田美子　今西民代　上北芳子　林　いく子　波多野豊子　原木美千子　○朝倉利己　◎小山喜春　（計13名）

芦見谷から伊賀谷山
（京都北山歩き84）

5月16日(日)　曇り
出垣駅集合8・30～40（バス）芦見谷口9・20～45―見谷峠り口9・55―伊賀谷山12・05（昼食）13・00―福川小学校14・20～15・10（バス）出町柳駅16・00（解散）
　帰上がりのためヒルが多くやぶこぎのきつい登りとなった。下りは整備された道でだいぶ南の方へおりた。
（参加者）吉長秀次　田中　明　今西光男　田中喜雄　田中真知子　藤本紀子　国松義雄　太田広子

分岐11・30―竜ヶ岳12・15（昼食）13・00―愛宕神社14・00～20―大杉谷ヒグラシの滝15・15～20―奥ノ大谷林道15・40―清流16・20（解散）16・33バス発
　芦見峠から歩いた芦見谷沿いの檜き道は渓流に近かった。林道終点からしばらくは昔の渓谷歩きが楽しめ、竜ヶ岳への登路は尾根道の両側にシャクナゲの花が満開だった。下山は暑かったのでヒグラシの滝に寄ってしばらく涼んだ。
（参加者）小古賀子　村田はる江　柳川宗雄　宮本真幸　宮本信子　国松義雄　山元　武　武部美喜子　亀本敏治　亀本秀子　土屋恭士郎　新家勝義　上部信順　竹内喜久子　藤本紀子　本間　隆　井林美幸子　芝野義明　岩川育士　山岡多恵子　島比裕美　天羽　茂　中尾博子　渡辺達郎　大島光雄　細井和子　山岸勝巳　市野博文　吉生孝子　高木　曽　小杉　浩　桑田　晃　中坊裕子　三野　旭　中田茂子　美村米治　松田好市　木村敏雄　太鼓清美　前田政雄　下江敏子　入江武史　長尾節子　小川明美　和田国雄　○安倉正勝　（計47名）

カクレグラと入道ヶ原
（鈴鹿を歩く89）

5月9日(日)　晴れ
佐目小谷広場集合6・30―水谷ヶ岳10・15―カクレグラ11・10―道瀬峠12・00（昼食）12・50―入道ヶ原13・20―滝瀬路13・40―佐目14・35―佐目小谷広場15・10（解散）
　道瀬峠を登るとタヌキが山道えてくれた。鈴塔からは大パノラマが展開し、淡い新緑の山は幽玄な色調を見せてくれた。フデリンドウやイワカガミの花が続き、その中にヤマイワカガミ（白）を発見、初めて見るめずらしい花で全員感嘆の声。楽しい山行となった。
（参加者）榎田勝利　山田富三　大石将美　加藤孝道　後藤康幸　瑞部　純　池田辰雄　池田繁美　森戸鉄治　三井紘一　伊藤喜久男　谷　守　河辺敏男　西西正弘　奥村一平　藤原計国　鈴木　甫　◎岩野　明　（計18名）

鈴鹿・伊吹北尾根
（伊吹北尾根自然観察ハイク5）

5月15日(日)　晴れ
大垣駅集合8・40（バス）国見峠9・45～50―飯助平10・40―国見岳11・00―大禿山11・45（昼食）12・30―御池峠12・50―鈴鹿ヶ原14・35―きざし石公園16・10～30（バス）大垣駅17・40（解散）
　北尾根ハイクシリーズで初めての好天。自然林の新緑がまぶしく、春潮会の花たちとの出会いの尾根歩きでした。開花していた木は60余種を数えました。
（参加者）岡田武規　落合ひろ子　川島康美　北川直佑　北川明子　佐藤新一　佐藤妙子　鈴木　甫　田口博子　夏山春子　細野敏也　安田由子　若林　寛　荒田はる江　若松紀子　三ッ井千鶴子　○三井紘一　◎鷲見宗康　（計18名）

木曽・南木曽岳

5月15日(日)　曇り
JR名古屋駅集合5・13～18（電車）南木曽駅6・02～15（タクシー）林道終点10・30～40―金時の洞窟11・15―喫茶湯11・25―新緑茶11・45～50―金時峠12・40―南木曽岳12・45―南木曽岳大神12・47（昼食）13・25―登録小屋13・35―南木曽駅16・30～43（電車）名古屋駅18・29（解散）
　強風歩故で名古屋駅で合流できなかった二名が、頂上を過ぎた頃に追いついて来られた。見晴台からは中央アルプスも御嶽も緑のなかでした。下山道はブナ・カシ・ミズナラのオンパレードで、木霊に出会えそうな巨大樹のなか、森林浴を楽しみました。（記録・原文子）
（参加者）森　時代　原　文子　三井紘一　吳比裕美　木村光江　杉本　薫　田中　茂　由田郁代　神原計国　徳田梅子　藤田美子　今西民代　上北芳子　林　いく子　波多野豊子　原木美千子　○朝倉利己　◎小山喜春　（計13名）

芦見谷から伊賀谷山
（京都北山歩き84）

5月16日(日)　曇り
出垣駅集合8・30～40（バス）芦見谷口9・20～45―見谷峠り口9・55―伊賀谷山12・05（昼食）13・00―福川小学校14・20～15・10（バス）出町柳駅16・00（解散）
　帰上がりのためヒルが多くやぶこぎのきつい登りとなった。下りは整備された道でだいぶ南の方へおりた。
（参加者）吉長秀次　田中　明　今西光男　田中喜雄　田中真知子　藤本紀子　国松義雄　太田広子

太田秋弥　横山達郎　砂原美芙子
森脇夏義　木下雪子　岡明一三男
加藤義彦　大谷章子　広田不佐子
森澤一雄博　森澤遼子　神山美佐子
松田好市　多賀久子　幸田富美子
入江武史　大島光雄　岩本いすゞ
中村佳世子　○川上久堅
◎中西信行　（計29名）

沢池から桃山（京都北山歩き35）

5月18日(日)　晴れ

京都駅前集合8・20～25（バス）
槙ノ尾10・05～福ヶ谷林道～沢池
11・15（昼食）12・50～吉兆山～
桃山～眺谷14・00～源光庵前14・
10（解散）

新緑の美しい屋根を歩き、ヤマ
フジがとてもきれいでした。

（参加者）吉嶺孝次　国松義雄
清水順三　山下恒三　中村美雄
山口勝雄　市野博文　中山茂子
大橋光雄　難井巻子　高木　晋
中尾博子　川原勝忠　陣　彦子
和田政樹　田中俊枝　久世美紗子
菅生壱子　松山みつ　川端敏子
◎今西宏男　（計21名）

比良・コメカイ道から武奈ケ岳

（末広ハイク56）

5月23日(日)　晴れ

JR堅田駅集合8・40～50（バス）
羽栗坂生9・20～30～コメカイ道
からイクワ峠11・05～15～鈴鹿
岳11・45～50～武奈ヶ岳12・35
（昼食）13・10～八雲ピッチ14・
00～10～カラ谷14・40～50～リフ
ト前16・00～03（バス）比良駅
（解散）

コメカイ道は古道の風格があり
ながら人ずれしてないすばらしい
トレイルだった。オーバータイム
になりそうで終盤急がせましたが、
スミマセンでした。

（参加者）田中　明　田中まや子
国松義雄　安良岡子　草野智雄子
戸根　茂　大島光雄　宮村孝次郎
中村美雄　鈴木郁雄　都三野八郎
都司良江　妹尾公代　前川和佳子
前田政雄　川上久堅　山本千鶴子
宮下陽子　松村雅子　川崎章士江
石原君子　川中　保　松宋いつ子
岡本初子　平　幸子　永見美砂子
川端敏子　中村　稔　中村佐代子
上坂廷枝　竹田亜美　久世美紗子
砂原恵美子　○加藤元彦
◎前中　毅　（計35名）

鈴鹿・ゴロ谷からブナ紅葉

5月23日(日)　晴れ時々曇り

小文谷出合広場集合8・00（車）
ゴロ谷出合8・20～二の尾根9・
20～30～小ボタ峠11・05～10～
ブナ紅葉11・45（昼食）14・00
～お母さんブナ14・40～15・00～
蛇ブナ15・20～40～小文谷出合16・
40（車回収）17・20（解散）

今回はサブを努めてくれた木村
君の送別山行。良い天気になって
日頃の心がけを山の神も分かって
いらっしゃる。ワインで乾杯、鍋
のお歓待からワサビ菜まで盛り
司とご馳走はいっぱい。ブナファ
ミリーの緑と小鳥の歌声におくら
れて時の流れに遊びました。

（参加者）太石勝美　永戸鉄治
今陰民代　池田隆一　伊藤喜久男
小田妙子　武藤山吉子
○木村吉秀　◎前井克治　（計9名）

東海自然歩道を歩く（12回）

三ヶ岳から高仙原

（地図読み山行34）

5月23日(日)　晴れ

JR加茂駅集合8・35～40（バス）
原山9・00～四郎9・10～30～尾
根最上部10・10～20～和尚分岐10・
55～11・05～登山口11・15～三ヶ
岳11・45（昼食）13・00～総和寺
13・30～45～下石市14・40～JR
笠置駅15・25（解散）

参加25人中9人が初参加。地図
読みをマスターしたいという人は
回を追って増えている。コースの
ほとんどは最適。車道だったが、
秋後シーズンの茶畑のやわ
らかな雰囲気が楽しく、楽しい山行
になった。

（参加者）石原君子　下村啓子
石松　啓　福岡　章　宮本神太郎
山口敏明　甲木峰子　塩谷峰子
植村華代　高橋憲治　高橋由紀子
吉原清夫　保山　正　岩本いすゞ
秋山　統　西尾久枝　難間美智子
斎藤　隆　斎藤妙子　布施清美
北川良子　○田中三雄子
○中村　登　◎塚元一彦　（計22名）

向山とイハイガ岳

（鈴鹿を歩く70）

5月23日(日)　晴れ

登り谷出合広場8・25（車）逆瀬
路駐車場8・30～尾根経路8・55～
向山10・40～向山南峰11・00～イ
ハイガ岳11・40～草原12・10（昼
食）13・00～竜王尾根13・20～岩
棚13・50～天狗ヶ森14・30～登り
谷15・30～出合広場15・50（解散）

向山はテレビの新線におおわれ、
南峰からは雄大な景観が展開した。
登り谷頭頂の大ガレはけものの道を

トラバースしてイハイガ岳に直登
した。草原からの上空にイヌワシ
かクマタカ一羽が現れ、旋回しな
がら大空に舞い上がり南へ向かっ
ていった。

（参加者）山田敏三　加藤友道
樫田勝利　武村千鶴　後藤東幸
磯部　純　柳野孝允　谷　守
河辺敏男　池田憲蓮　池田紫美
和田西郎　宮杉　博　石田真由美
森澤一雄博　鈴木　晴　三浦喜左子
神原計国　小林　実　篠崎武男
◎難野　明　（計21名）

鈴鹿・鈴北岳

（宇曰ふれあいハイク14）

5月25日(日)　曇り

彦根駅前集合8・40～50（バス）
彦根駅9・25～45～ヒルコバ11・
15～25～鈴北岳11・55（昼食）12・
40～御池岳丸山13・15～30～元瀧
往復14・20～30～鈴北岳14・35～
50～彦根峠南の鉄塔15・25～35～
彦根トンネル西口16・00～10（バ
ス）彦根駅16・50（解散）

御池谷の急登を元気に越え、ナ
サをくぐって鈴北岳へ。天気好転
の期待も空しく展望はなかった。
丸山には注復で道を変え、「真ノ
池」「元池」などを見た。天気の
良い日に再行したいとの声もあっ
た。

（参加者）瀬戸内紳子
佐藤新一　佐藤妙子　土井　茂
巻田　晃　大野富子　木村　豊
山元　武　樫田　正　武部美義子
妹尾一正　上山久子　国松義雄
森　瑞代　湯浅亜夫　小林伊作子
清水聡三　小杉　浩　中上紀代子
大島光雄　朝井初子　大橋光雄
辻　行子　白根清子　背山晋子
隆　澄子　堀田國広　宮村孝次郎
中川博史　山口　隆　山崎勝美
岸本節夫　中尾美智子
藤井雄子　松村雅子　松宋いつ子
平田輝美　山本真子　城月清幸
菅生壱子　秋田雅師　渡辺達郎
人江武史　長沢佑美　川崎宮士江
山科邦彦　樽木金三　山本千鶴子
木村太郎　木下恵子　柳　賀子
太田愛子　南　賀子　波多野恵子
石原君子　久世美紗子
○中村美雄　○寺井恒夫
◎川上久堅　（計61名）

東濃・小秀山と笠置山

（自然観察山行27）

5月29日(日)～30日(月)　1泊2日

（29日　晴れ）坂原駅集合8・50
～9・00（バス）笠置山登山口10・
40～ヒトツバタゴ自生地11・40～
笠置山12・40（昼食）14・00～ヒ
トツバタゴ自生地14・45～登山口
15・40（バス）加子母村民宿17・
40（泊）

（30日　晴れ）民宿6・30（バス）
乙女渓谷キャンプ場6・40～50～
三の谷登山口7・20～カブト岩10・
15～小秀山11・15～第二高原11・
50（昼食）12・50～カブト岩12・
10～三の谷登山口15・00～キャン
プ場15・35～45（バス）坂原駅16・
45（解散）

笠置山では天然記念物のヒトツ
バタゴの花とヒカリゴケ、小秀山
ではホンシャクナゲとアカヤシオ
を観察。小秀山は乙女渓谷のある
二ノ谷の通行が禁止されていまし
たが、「自然郷」からは目前の御嶽、
遠く白く輝く白山、北アと南アの
ピーク、中央アの全景が見事でした。

（参加者）近江芳子　金森蓮子
狩野栄恵　吉嶺孝次　木村カツミ
彩本　篤　田中隆子　草野智蓮子
富田勉子　夏山巻子　瀬戸内紳子
三浦澄子　向田　豊　森川忠之
蓮川和子　吉田義宏　若松　克
荒畑利子　○加藤元彦
◎鷲見宗源　（計20名）

丹後・東條陸山

5月6日(日)　晴れ

JR西明石駅集合8・25（バス）
竹ノ内10・40～六尺の大カツラ11・
30～40～東條尾山12・40～作業小
屋13・25（昼食）14・25～西床尾
山14・15～30～林道出合15・25～
45～竹ノ内16・15（バス）西明石
駅16・30（解散）

山頂からの眺めは植林帯の水蒸
気のせいか、遠くまで見ることが
できなかった。下山の稚児谷はフ
タリシズカの群生が今を盛りと咲
いていた。イワカガミ・シャクヤ
クと人気のある山は花が多い。

（参加者）小原栄吉　八木八雲子
巻田　晃　船越利明　船越みゆき子
美村孝治　美村三枝　安田ふみ江
三井紘一　小田澄子　山下小夜子
小杉　浩　加米吉子　草田久子
秋田植師　河崎妙子　三輪浩子
小林修子　平塚英子　柳川常雄
吉嶺孝次　岡田　昇　岡田澄美子
中村静香　野口　修　大野富子
夏澤妙子　田中　明　保田　正
湯浅次男　原　文子　千葉千枝子
大村　豊　斉野良吉　砂原恵美子
植鳴　登　加藤元彦　柳水　暁
石田貴一　神　伸　宮村孝次郎
坂田　弘　◎井上　保　（計43名）

鈴鹿・烏帽子岳と三国岳

6月6日(日) 晴れ
関ヶ原駅集合8・25(タクシー)
時山バンガロー村9・00～10―北尾根6・50―地点10・05～20―烏帽子岳10・45～11・00―大鉢路12・00(昼食)12・30―池池13・30～35―三国岳13・55～14・00―平15・00―ワサビ田15・20―時山バンガロー村16・00(解散)

烏帽子岳北尾根にはコアジサイの群落が続いていました。花は終わっていましたが、イワウチワ・イワカガミ・シャクナゲの群生もあります。烏帽子岳の山頂と三角点は4～5分離れていました。三国岳への縦走路の大鉢塔からの展望はよかったのですが、烏帽子岳・三国岳の頂上は到達できなかった。このコースは技巧が多く初心者の登山は難しいと思いました。(記録・徳田暢子)

(参加者)中村美雄　若松初子
高岡信男　近田智子　早野智雅子
渡辺達郎　北山昭子　北川真惟
木寺直子　藤本紀子　朝木美恵子
和田直樹　小澤明美　岡本美千子
山本京子　高橋繁治　森　美香子
国松義雄　竹田喜美　椅　美保子
本間　隆　伊藤昭男　波多野恵子
岡本和子　奥川修大　村田はる江
佐藤繁治　石飛尚子　飯田由美子
徳田梅子　田中美代子
中尾美智子　○山田明男
◎小山良春　(計34名)

イブネ・銚子・深谷山・銚子ケ口

(鈴鹿を歩く71)

6月6日(日) 晴れ
紅葉谷・神崎橋広場集合8・00(車)
藤切谷口林道入口8・30―桜池峠9・05―シダの木9・35―桜峠10・40―佐目峠11・15―イブネ11・40―銚子12・05(昼食)12・45―フナクボ13・30―深谷山13・50―大峠14・35―水荷の池14・25―銚子ヶ口東峠15・10―打越峠17・00―和南広場17・45(解散)

藤切谷ではカジカの声を聞いた。杉峠からイブネの深いササは枯れだしていて、ジグネ(約60年周期で枯れる)の始まりを思わせた。新緑のブナ林を歩き、水舟の滝ではモリアオガエルの卵塊が幾つもぶら下がっていた。2万5千歩を超える超ロングコースも健脚揃いで予定通り踏破できた。

(参加者)山田雅二　武村千鶴
太石孝美　後藤康幸　高原芳彦
水谷俊之　樫田勝利　鈴木　崩
鞆部　純　小林　稔　永口鉄治
加藤友述　神野孝允　伊藤芳久男
寺井恒夫　奥村一平　落合ひろ子
小林　実　高彩　博　池田度述
池田繁美　谷　久雄　馬場彌栄子
武藤山芳子　◎吉野　明　(計35名)

鈴鹿・武平峠から小峠割峠

(夏山に向けてのトレーニング)

6月8日(日) 晴れ
かもしか荘集合7・40(微き車)
元越谷入口8・00(車)武平峠8・15―水越谷―鎖ヶ岳9・30～40―鎖尾根―次沢峠11・00―大岩の頭11・40(昼食)13・00―バラボラ13・45～14・00―高丸山15・00～15―元越谷16・00～10―元越谷入口16・40(解散)

スカッと晴れた風薫る国の屋根歩きは、ベニドウダン・サラサドウダンの花に小鳥の声。大岩の上でいつもの長めの昼食。高丸山からのきつい下りも難なく通過して、トレーニングには物足りなさを感じてのフィナーレでした。

(参加者)後藤康幸　後藤昭幸
高原芳彦　神野孝允　谷　守
保田　博　山形　明　鶴部　純
今園民代　芳野　明　伊藤芳久男
○時岡眞澄　◎岡井克治　(計19名)

丹波・平国山(水晶ハイク21)

6月9日(日) 晴れ
柔岡駅集合9・10～15(バス)赤熊9・55―鷲岡11・35―平国山―55(昼食)12・55―宮川井手分岐13・20―西加舎14・30(解散)

空気もさわやかな快晴。深谷のせせらぎを聞きながらの登り坂は高原の気分です。頂上からの展望も冬のように遠くまで見られた。下りは新緑のトンネルをのんびり歩きました。

(参加者)中村静香　吉藤孝次
本間美智子　越尾一正　松下美智子
大嶋隆造　石原君子　小林伊佐子
大島和子　中村勝一　東　矢智子
松山みつ　松本武文　大野加奈江
国松義雄　中田茂子　砂原慶子
平敬英子　眞田久子　千葉千枝子
川上久堅　櫻島光子　真島巳合子
鍛冶結子　白鳥忠子　曽年幸子
木村　豊　藤井益子　岩木いすゞ
川原勝迪　岡　玲子　岡　彰
本下照子　中沢弘子　久世美紗子
堀　久子　堅田紗夫　堅田美奈子
中尾恒子　畑井初子　成川みさお
○竹内一雄　◎渡辺次男　(計45名)

美濃・伊吹北尾根

(伊吹北尾根自然観察ハイク6)

6月12日(日) ◎渡辺次男
リーダーの都合で中止しました。

比良・白滝山からクロトノハゲ

(雲木ハイク15)

6月12日(日) 晴れのち曇り
堅田駅集合8・40～44(バス)坊村9・20～40―三ノ滝10・05～20―ワサビ谷口10・25―ワサビ大滝10・50～11・00―白滝山12・00―音羽池12・10～35―汁谷・大鉢滝と音羽池分岐12・55(昼食)13・50―打見山15・00～10―クロトノハゲ15・35―大物杉16・00―志賀駅17・05(解散)

滝見場や池めぐりで涼をとりながら急な登りを克服した。汁谷の河原で遅い昼食をゆっくりとって、午後はコースを打見山まで登った。名残のドウダンツツジを見ながらクロトノハゲから下山した。

(参加者)三井紘一　吉積　清
森川信之　岩川育士　村田はる江
小林　昇　夏山孝子　熊田千恵子
今井武司　船越利明　船越みよ子
北川史枝　梅　寛子　上田正子
山本京子　原　幸子　川上春代子
細野欽也　呉山繁三
○加藤元彦　◎鈴野恵彦　(計21名)

御池岳の滝と自然探索山行④

(モリアオガエルの卵を見る)

6月13日(日) 晴れ
関ヶ原駅集合8・20／西野原駅集合9・00(車)コグルミ公園山口9・35―長命水10・15―カタクリ峠10・45―真の谷・丸山分岐11・20―天狗の鼻12・10(昼食)12・50―非助の池13・30―ボタンブチ13・25―孟洲13・40―丸山13・50―山西池14・15―孟池14・40―幻滝15・20―カタクリ峠15・50―長命水16・00―コグルミ公園山口16・35(解散)

池は5つめぐりました。全ての池にモリアオガエルの卵塊が見られ、幻滝では初に登った大きな滝と、その上にのった小さな滝が確認できました。

(参加者)小島末吉　光川一美子
寺田正栄　武村千鶴　木村光江
寺田久広　石飛尚子　後藤久美子
田島寿雄　眞田明子　佐古田文子
西村文男　森澤元輔　熊木英恵子
小林　実　木村正弘　木村千代子
木谷俊之　井上　光　横塚武国
近藤郁夫　小田妙子　藤井康男
チョン・サムスン　石川喜代子
山田妙子　山野志保江
○高原芳彦　◎山田明男　(計29名)

台高・明神平から釈迦

(近畿百名山を登る3回)

6月13日(日) 晴れ
近鉄榛原駅集合8・00～20(バス)大又林道七曲八滝手前広場9・15～30―林道終点10・30―あしび山荒崩壊地11・00―明神滝11・30～45―明神平12・20(昼食)13・15―釈迦岳14・30―大鳥池16・00―大又登山神社17・00～20(バス)榛原駅18・15(解散)

あしび山荒付近の崩壊地は通過できた。明神平で遅い、新緑のブナ林を通って釈迦岳へ縦走。途中シカに出会ったり、ヨウラクツツジの満開を見たりで、楽しかった。釈迦岳は多人数ではゆっくりできない。長い下り道だったが、予定通り直野神社に着いた。

(参加者)森川信之　三井紘一
田中春雄　佐藤紘一　佐藤妙子
野野宏彦　木村　豊　橋爪　章
近藤　恭　佐藤繁一　保田　正
松本康蔵　浜尾一正　鈴木敏彦
中西裕子　中島　淳　武部美美子
浜尾義行　中島弘子　前川和佳子
徳田　哲　北野　進　北野晴美
徳田正子　本田雅子　瀬井洋子
星方由子　金森菊子　今西光男
佐々木美千代　波多野恵子
熊木秀雄　西村美行　三浦師子
大鳥清栄　松田和雄　亀本英治
鳥本吉子　石田豊美　藤澤達郎
国松義雄　波辺静孝　西野幸夫
上田久子　黒河内東洋明
馬飼利明　眞田久子　井林寿会子
中村英雄　田中勇子　小島フジ子
高岡信男　朝倉利己　吉藤孝次
石原君子　白鳥忠子　鍛冶結夫
鳴海雅子　秋田鶴鈴　吉田武司
星野正弘　武田和巳　城月敏幸
呉比裕美　吉田武司　長沢佑美
川中　保　中尾恵子　中尾美智子
黒田時子　若松　寛　若松初子
瀧尾健治　寺木幸男　竹内喜久子
血原清男　血原智子　中上初代子
岡田春美　中村静香　木村太郎
青木一雄　若松初子　岩木雅二
加藤明男　高橋繁治　高橋田紀子
上田正子　入江武史　飯田雪子
○安倉千勝　川上春代子
○関定宗夫　◎荒田智宏　(計56名)

貴船から向山(京都北山歩き66)

6月15日(日) 曇り
出町柳駅集合9・00(市電)貴船口9・30―二の瀬ユリ―橋の水谷―貴船山10・55―二の瀬ユリ原―台山・20(昼食)13・00―夜泣峠

向山13・40—市原駅15・10（解散）

間もなく楽しく一日を過ごしました。途中、ササユリ・ネズミウシ・ギンリュウバイなどの花に出会いました。

（参加者）吉屋茂次　石原順次　石原右子　岩本加美　塩原喜織　中村美雄　中田茂子　岩生幸子　小嶋知子　山田英雄　東山常夫　岩生幸子　大熊元造　久世美紗子　川上久雄　大熊元造　小嶋知子　岡松義雄　市野博文　高島百合子　川原勝重　森本　悟　松山みつ　辻　宮子　田中直美　畑井明子　◎矢西光男

南山城・三上山から海住山寺

（木曜ハイク57）

6月17日(水)　晴れ

JR奈良駅集合・浄瑠璃寺9・00～10—南宇尾根を経てカイガケの道10・10—三上山11・10～25—山城森林公園12・00～10—海住山寺12・45（昼食）13・35—西山区経を経て神童子15・00～20—奈良駅15・45（解散）

竹林や茶畑の間を縫うような南山城の小道を散策した。三上山展望台では365度のパノラマ展望を楽しみ、ほとんど人の入らない区域ではササユリに出会えた。

（参加者）野間桂夫　山元　武　木嶋智子　森川徐一　森川明子　佐藤晋義　川端静子　濱田　京　中村孝一　池田治子　上田久子　吉屋孝次　白石忠子　田中真知子　石原右子　大下順子　湯浅健夫　湯浅みや子　岡　彰　大下順子　堀田晴子　国松義雄　高木　哲　久世美紗子　速水　保　城月美幸　松本いつ子　浦尾保治　堅田修大　堅田公美子　平　幸子　エリーナ・ニアミネン　○川上友堅　◎田中　毅（計33名）

三河・本宮山

6月20日(日)　曇りのち晴れ

名鉄名古屋駅集合8・50～9・00（電車）本宮山駅9・48～55（バス）くらがり渓谷10・35～40—おきな滝11・40—N氏中腹所の分岐12・15—三河本宮山12・45（昼食）13・30—表登山口15・20—長山駅15・45～16・02（電車内解散）

登山口にあった一本のピンクのササユリが歓迎してくれました。渓谷のなかにスギやカエデが林立し、涼しく寝ることができました。

（記録・森晴代）

（参加者）真田明子　森　晴代　笹田博子　野村達雄　小原きぬ子　杉本　高　農業　邦　○朝倉利巳　◎小山良春（計9名）

山人山・七人山（鎖場を歩く）

6月20日(日)　曇り時々晴れ

国鉄佐野駅8・30～35—中谷峠9・35—イイナのコバ10・20—ひとよりのコバ11・00（昼食・東面を巻き付く）12・45—七人山13・40—武平峠15・25（解散）

山はガスのなかだ。登りだすとササユリやコアジサイの花が続いた。天谷峠でシカ三頭に出会う。イイナのコバは乳白色のガスに包まれた幻想的な雰囲気の世界だった。ひとよりのコバで早い昼食。食後希望者のみ東面を岳まで往復した。午後は晴天となり、さわやかな緑林をのんびり歩いた。

（参加者）山形　明　山田景三　大石雅郎　大石雅美　後藤康幸　武村千鶴　玄田良則　小田妙子　小林　稔　丹下由子　武藤由美子　池田俊逸　宮台ひろ子　池田繁美　加藤国計　天間　茂　表村一平　水谷俊之　神野孝九　篠部　純　谷　守　高原芳彦　多賀司二　多賀久子　伊藤重雄子　河辺牧男　小澤明美　原塚新太子　和田西郎　小林　実　石田真由美　斎藤　博　奥井幸生　◎宮野　明（計35名）

奥秩父・大ヒ ケ岳と母袋高原キャンプ

6月26日(日)～27日(月)　一泊2日

◎25日　曇り　大野口武蔵野線青少年旅行村集合16・30（キャンプ泊）

◎27日　雨　旅行村6・00（解散）

前夜はバンガローを五棟借りて、広場での焼きそばパーティで大いに談笑した。翌朝は大雨となり、経ヶ岳登山は断念して解散した。

（参加者）河合正彦　中川博史　藤本紀子　宮本真幸　宮本悦子　平　幸子　奥田隆夫　佐古田文子　城月美幸　熊田鳴子　林　弘毅　山村新吾　八尾隆司　石川哲八子　チョン・サムスン　山口森江　三井敏一　鹿田洋介　渡辺重忠　小尾末吉　黒野正弘　村田はる江　安倉正勝　○関口裕美　◎村田智愛（計25名）

新ハイキングクラブ関西入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング（隔月刊・年6号発行）の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、情操豊かで健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに求めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に49年間も好評のうちに活動してきました。関西は平成3年発足で8年目に入りますが、すでにたくさんの会員が活動しています。

会員は当会の山行頒会に優先して参加できます。この他例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。

リーダー（無）はすべて熟慣の幹仁で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

会員には毎号「新ハイキング関西の山」をお送りします。

四季の自然に触れながら歩き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金　500円（バッジ代）
年会費　3000円（会報共）

入会金の申し込み（振込）はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び郵便番号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実に手元に届きますので便利です。

切手500円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌一冊をしあげます。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に一～二回程度の山行例会を計画・実施していただきます。

無償の幹仁ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のあるかた、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」を送ります。

○新入会員紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号4006番から4065番まで。

【埼玉】　柳沢典男　小田幸雄
【東京】　内田麦子　伊藤三智子
　　住田口和子
【千葉】　渡辺　武
【愛知】　松井志津子
　　鈴木栄代子
【福井】　臣島勝美
【三重】　武藤由美子
【滋賀】　大村　弘　中野陽夫
　　今井武司　藤原明美　中川聖彦
【京都】　加藤国計　横川ゆり子
　　臣川晋江　横口義男　川崎富士江
　　石野孝子　山本宣彦　田良結三
　　松江明子　中村鶴郎　辻　英津子
　　渡辺いく　中村佳津子
　　八木正雄　岡田里子
【大阪】　岡崎智子　中田勝己
　　平田覚朗　平田隆英　堀　淳平
　　中才幸子　柳　昭司　柳　英美子
　　山縣　隆　藤本　健　羽田彩弘三
　　西藤友紀雄　斎藤小夜子
　　宮木康夫　小池幸雄　村上みち代
　　田原道代
【奈良】　茨木良雄　白井道子
【和歌山】　羽柴知佳子　北之園良多子
　　川村国子

【兵庫】　中島崇介　井上裕行
【鳥取】　小原雅朝　上村博行
【岡山】　田辺朗子
（63名）

訂正とお詫び

47号（6月号）13ページ中段1行目「霊峰記」は「霊峰志」が正しい。

47号（盛夏）45ページ表紙の「高尾山」は「鷲谷山」が正しい。

47号（盛夏）90ページ下段の「野坂・赤坂山から三国山」参加者に中田洋子さんが記載もれでした（参加合計の46名は正しい。

（編集部）

「会誌のバックナンバー」
大阪梅田のハービスプラザ3Fの「トラベルギャラリー・旅の本和ハービス大阪店」に全号を常備しています。

毎号お求めになりたい方へ
前もって書店に毎号ほしいと「購読申込」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。（隔月刊）の発売です。